



Kyoto University
Academic Day 2023



We are connected to research.

語りたい
は
ここにある

京都大学
アカデミック
2023
ツクデー

わたしたちと
つながっている
研究は

Here, we can find what we want to talk about.

2023年9月24日(日) 11:00-18:00

11am - 6pm, 24 September, Sunday, 2023

ゼスト御池 | ZEST OIKE

報告書

開催日時 2023 年 9 月 24 日（日）11 時から 18 時

会場 ゼスト御池（京都市役所前地下街）河原町広場・寺町広場・御幸町広場

目次	1. 概要
	1-1. イベント概要
	1-2. 湊総長からのメッセージ
	1-3. 会場配置図
	2. プログラム
	2-1. 研究者と立ち話
	2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
	2-3. お茶を片手にトーク◎トーク
	2-4. 研究者の本棚
	2-5. 附属図書館関連企画
	3. アンケート
	3-1. 来場者アンケート
	3-2. 出展者アンケート
	3-3. 京都大学アカデミックデイ賞
	4. 出展者情報
	4-1. 研究者と立ち話
	4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
	4-3. 出展参加者一覧
	5. その他
	5-1. 各種説明会
	5-2. 会場間の移動誘導企画
	5-3. 広報物
	6. 支援体制・準備スケジュール
	6-1. 支援体制
	6-2. スタッフリスト
	6-3. 準備～事後スケジュール
	7. 資料
	7-1. ブックリスト

1. 概要

1-1. イベント概要

2023年9月24日、ゼスト御池（京都市役所前地下街）の河原町広場・寺町広場・御幸町広場にて「京都大学アカデミックデイ 2023」を開催しました。13回目となる今年は、京都大学アカデミックデイ単独のイベントとして初めて京都大学外で開催し、学部・大学院生含む131名（34組）の研究プロジェクトが対話の場に参加、来場者は880名に上りました。

「京都大学アカデミックデイ」は、市民や研究者、文系、理系を問わず、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指しています。

2023年度は、京都大学の研究対話を広げていくために、3つのチャレンジを行いました。

1つ目は、アカデミックデイ単独イベントとして初めての学外会場での開催です。京都大学「国民との科学・技術対話」ワーキングでは、研究対話の広がり観点で、学外に対話の場を広げていくことの意義が挙げられていました。昨年度、京都大学創立125周年記念事業の一環として、学外のロームシアター京都にて開催した実績も踏まえ、今年度は単独イベントとして、学外会場のゼスト御池で開催しました。

2つ目は、科学技術振興機構が実施するサイエンスアゴラとの共催企画の実施です。サイエンスアゴラは科学と社会をつなぐオープンフォーラムであり、アカデミックデイと同じく対話を重視しています。サイエンスアゴラとの共催企画により研究対話をさらに押し広げることを目指しました。

3つ目は、学内外組織との連携による広報の強化です。アカデミックデイが対話の場となるためには、研究者との対話を望む多くの一般の方の参加が欠かせません。来場者のターゲット層を改めて整理し、学内外組織と連携した広報を行うことで、様々な方が集う対話の場を実現しました。

様々な来場者との対話を促す企画として「研究者と立ち話」、「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手にトーク◎トーク」、「研究者の本棚」の4つの企画を実施しました。今年度は、京都大学アカデミックデイに馴染みのない参加者も多いと想定して、出展ブースを紹介する出展者ピッチプレゼンや、本にまつわる座談会も実施しました。

企画のデザインや運営は学術研究展開センター（KURA）、研究推進部研究推進課及び「国民との科学・技術対話」ワーキンググループが協働して進めました。今回の開催の経験、参加者からの意見を参考にしながら、今後の対話活動をさらに発展させていきます。



会場（ゼスト御池）

1-2. 湊総長からのメッセージ

京都大学アカデミックデイにご来場のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、多様で質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してまいりました。歴史的に京都大学は自由な発想による独創的な研究により知を創造し、新しい知的価値の創出によって人々の福祉と社会の発展に貢献してきた大学であり、時代を超えて継承されてきた伝統があります。

今日、私達は予想を超えるテンポで進行する地球の気候変動と大規模な自然災害や地球環境悪化、様々な国際的対立抗争の激化や格差の拡大、さらには新型コロナウイルスに代表される感染症の拡大など、地球上の人々の生命と健康を脅かす多くの困難な課題に直面しています。今京都大学として、高度な多様性をもつ総合研究大学ならではの強みを最大限に生かし、これらの地球社会における多元的で困難な諸課題の解決に向けて真摯かつ果敢に挑戦し、着実にその成果を社会に発信していく必要があると思っています。

京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者が直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、実際に研究が営まれている現場の様子や、1人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。この機会を利用して、是非、研究者に直接疑問やご意見を投げかけてください。みなさまとの直接対話は、研究者にとっても自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す良い機会となりますし、成果の社会還元の可能性や新たな活躍の場が広がることでしょう。

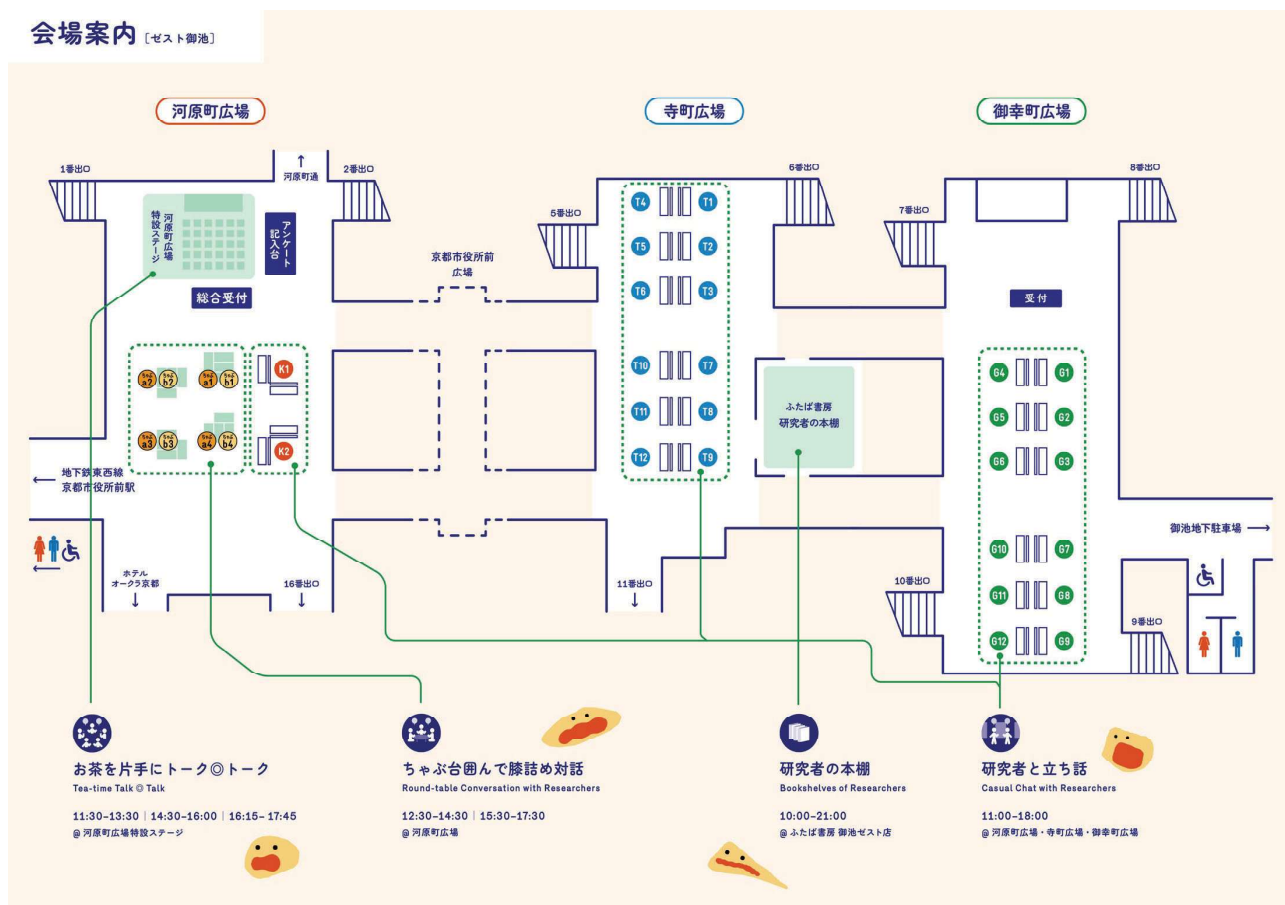
この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長 湊 長博



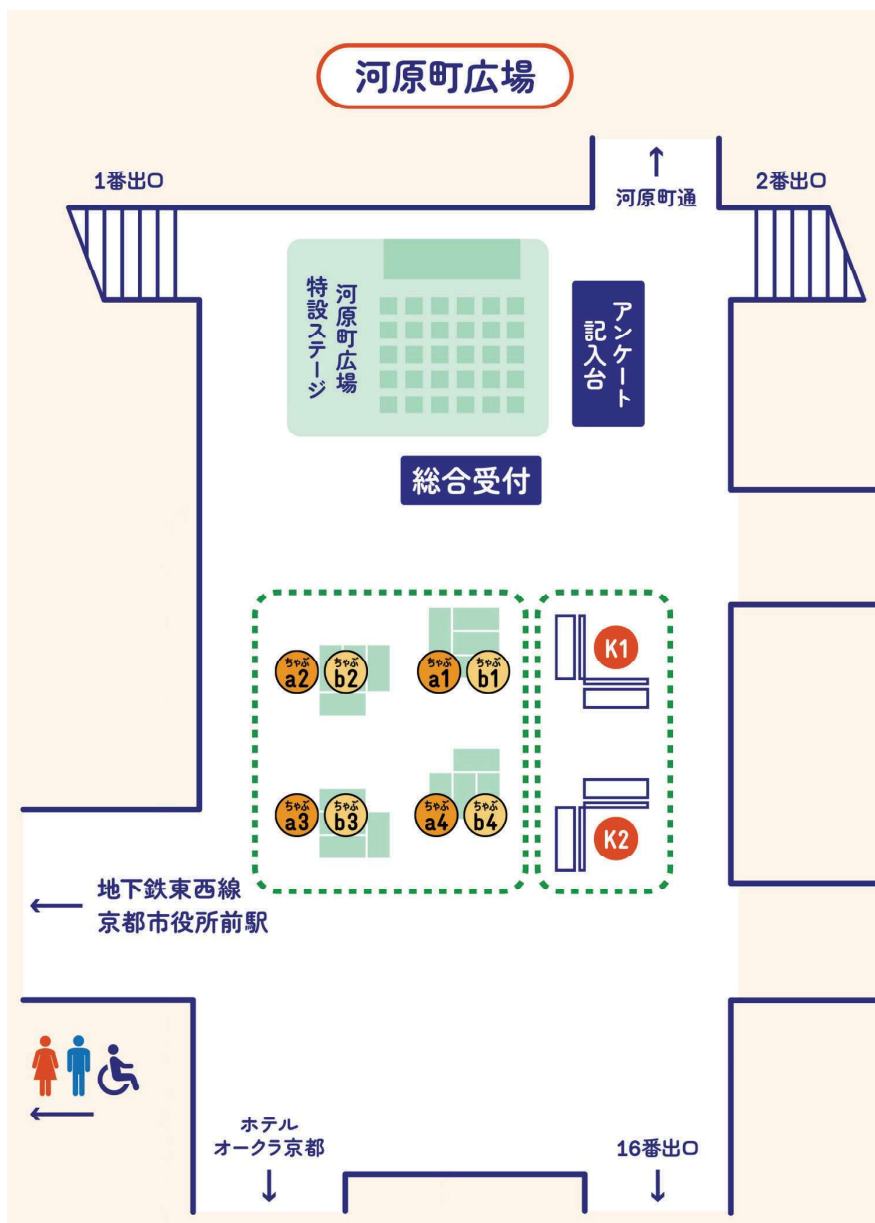
1-3. 会場配置図

1-3-1. 「京都大学アカデミックデイ」配置図

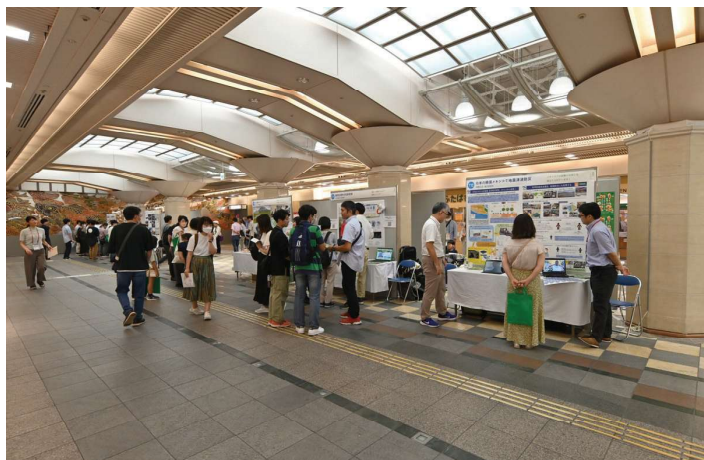
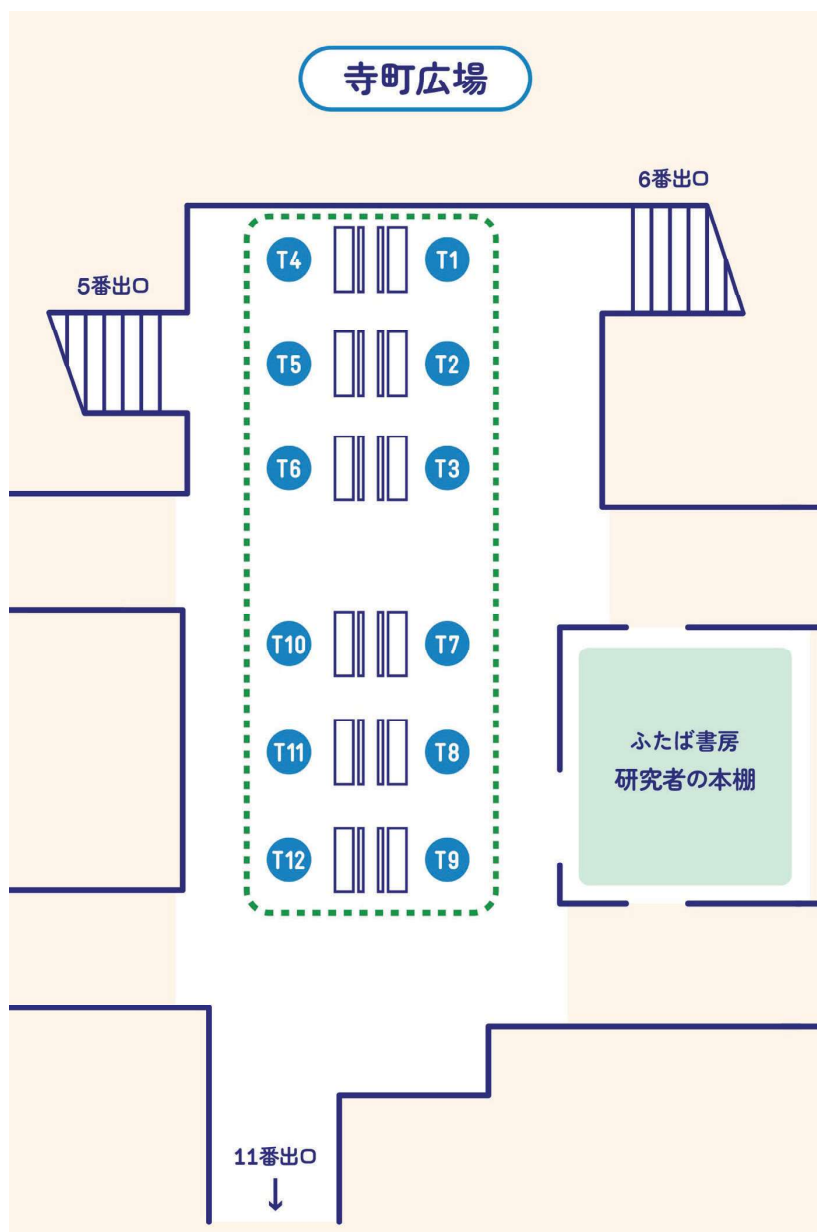


■ 1-3-2. 各コーナーレイアウト

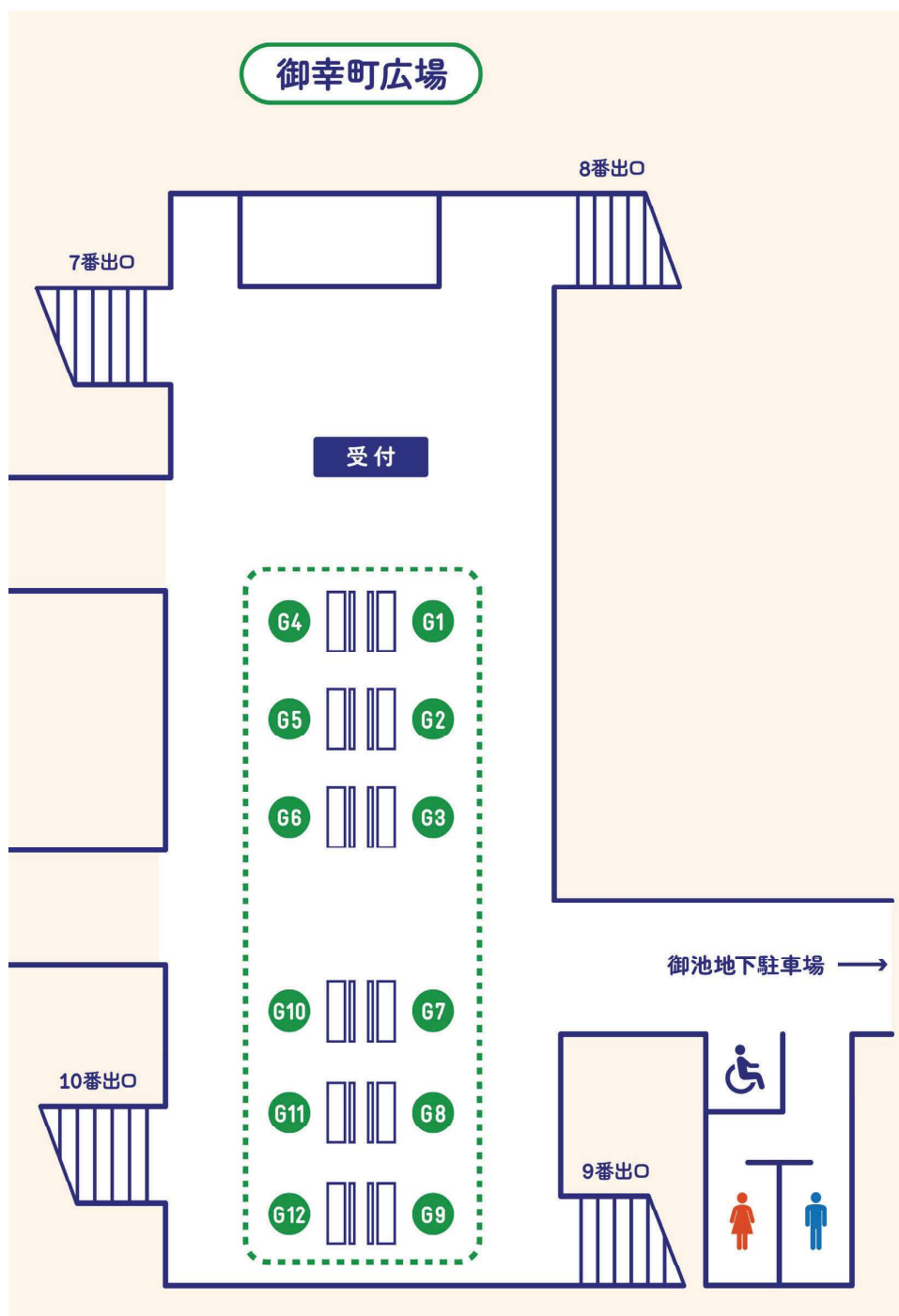
- 河原町広場：研究者と立ち話・ちゃぶ台囲んで膝詰め対話・お茶を片手にトーク◎トーク



● 寺町広場：研究者と立ち話・研究者の本棚



● 御幸町広場：研究者と立ち話



2. プログラム

2-1. 研究者と立ち話

■ 2-1-1. 概要

日時 9月24日（日曜日）11時～18時

会場 ゼスト御池 河原町広場、寺町広場、御幸町広場

大学研究者による研究紹介のコーナー。今年度は3箇所の会場で合計26のポスター展示が、互いに密にならないよう間隔を十分に空けながらもずらりと並び、ポスターの前ではその研究を行っている研究者が来場者と直接語り合いました。中には、ポスターの前に模型や実験器具、モニターや資料等を並べ、それらを使って研究を紹介する研究者の姿も多く見られました。マスク着用が必須ではなくなりましたが、まだ新型コロナウイルスの影響は残っており、登壇者はマスクをしている方が多かったですが、来場者からのアンケートには「長い研究と努力の末に発表されたもので、すごく気持ちが伝わった」といった、研究者が持つ研究への真摯な姿勢や情熱が来場者と共有され、ゼスト御池全体が大変な熱気に包まれていました。また、「研究者の方だけでなく、そのブースに集まった様々な方と、研究の方を中心にお話しできた」など、人の往来が多いまちなかの場ならではの効果もあったようです。一方で、今年のアカデミックデイは過去最高の来場者数だったこともあり、出展研究者が気軽に他のブースに訪れ交流をすることに困難があり、研究者同士の交流という点では課題が残る結果となりました。



■ 2-1-2. 「研究者と立ち話」出展一覧

● 河原町広場

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
中村秀仁（複合原子力科学研究所）	先端科学と高校科学リテラシー教育
立木秀樹（大学院人間・環境学研究科）	フラクタル・イマジナリーキューブの影

● 寺町広場

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
野口高明（大学院理学研究科）	大は小を兼ねるか？：宇宙塵の科学入門
高橋義朗（大学院理学研究科）	アツい宇宙と冷たい計算機
村井俊介（大学院工学研究科）	ナノアンテナが照らす明るい未来
今堀博（大学院工学研究科）	光でさまざまな機能を操る！
井上康博（大学院工学研究科）	発明！カブトムシのモノづくり
西村勉（医学部附属病院）	研究内容を分かりやすく伝える方法論
真常仁志（大学院地球環境学堂）	アフリカで住民の力を信じた暮らし向上
中尾仁美（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）	キャッサバからアフリカの食を探る
小谷仁務（大学院地球環境学堂）	日本のモスク：日常から災害時まで
井口正人（防災研究所）	火山噴火のふしぎ
山口弘誠（防災研究所）	豪雨を鎮める気象制御
中野元太（防災研究所）	日本の隣国メキシコで地震津波防災

● 御幸町広場

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
横川隆司（大学院工学研究科）	指先サイズのデバイスで“創る”臓器
Yu Jie（大学院人間・環境学研究科）	ダイヤモンドナノ粒子の医療応用
河本宏（医生物学研究所）	細胞を薬のように使う時代が来た！
齊藤博英（iPS細胞研究所）	No RNA, No Life
佐藤俊哉（大学院医学研究科）	臨床統計学ー医療に貢献する科学ー
高橋良輔、眞木崇州、山門穂高（大学院医学研究科）	認知症ー未病で見つけ未病で防ぐー
北畠真（医生物学研究所）	合成生物学で世界を変える大学生の挑戦
森拓也（医学部附属病院）	研究対象者の人権・福祉をAIで守る
定延利之（大学院文学研究科）	あの一、ひ、非流暢って何ですか？
梅野健（大学院情報学研究科）	皆様がよく眠れるデジタルヘルス世界へ
鈴木実（複合原子力科学研究所）	BNCT：伴侶動物のがん治療に挑む
Knut Woltjen（iPS細胞研究所）	ヒトゲノムの完全制御に挑戦する！

2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

■ 2-2-1. 概要

日時 9月24日（日曜日）12時30分～14時30分／15時30分～17時30分
会場 ゼスト御池 河原町広場

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には4帖の畳から成る4つのちゃぶ台ブースを設置。12時30分から14時30分の間に4つ、15時30分から17時30分の間に3つ、計7つの研究者／グループが対話に臨みました（1ブースは当日体調不良により欠席、資料配布のみ）。各研究者／グループは「どんな研究を行っているのか」「なぜその研究をしているのか」などを説明。座ってゆっくり対話ができる形式では、立ち話とはまた違った雰囲気が醸成され、来場者は研究者の話にじっくりと耳を傾けながら様々な質問を投げかけ、研究者と対話しました。



■ 2-2-2. 「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

日時	出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
9月24日（日） 12:30～14:30	近藤尚己（大学院医学研究科）	人とのつながりで健康になる街を作ろう
	Pascal Lottaz（白眉センター（法学研究科））	Switzerland, Japan, and the Long Second World War (1931-1945)
	宮野公樹（学際融合教育研究推進センター）	「専門」とは何か。
	戴憶菱（学術情報メディアセンター）	説明できるAIが拓く新しい教育の形
9月24日（日） 15:30～17:30	Jan-Dirk Schmöcker（大学院工学研究科）	Shared Micro Mobility Vehicles: Acceptance and Potentials in Kyoto
	趙亮（大学院総合生存学館）	一票の格差ってどうなの？
	宇佐美文理（大学院文学研究科） （※当日欠席のため、資料の展示のみ）	お墓の中には何が描かれたのか
	川上聡経（医学部附属病院）	皮膚美容×健康

2-3. お茶を片手にトーク◎トーク

■ 2-3-1. 概要

日時 9月24日（日曜日） 11時30分～17時45分

会場 ゼスト御池 河原町広場特設ステージ

今年度のアカデミックデイでは、3つの企画を用意しました。最初の企画が『出展紹介ピッチプレゼン—気になるブースを見つけてみよう！』、続いて対談企画『あなたに合う「一冊」を探しに—いったい本とは何なのか？』、そして最後は国立研究開発法人科学技術振興機構との共催座談会企画『サイエンスアゴラ in 京都「アカデミアの現場からみたグローバリズム」』でした。どの企画も立ち見の来場者が多く出る大盛況で、訪れた方は熱心に聞き入られていました。後半2つの企画では、終了時間をオーバーするまでひっきりなしに来場者から質問が寄せられ、登壇者と来場者の垣根を超えた対話が繰り広げられていました。



■ 2-3-2. トークテーマ・参加者一覧

● テーマ：出展ブース紹介ピッチプレゼン～気になるブースを見つけてみよう！

日時 9月24日（日曜日）11時30分～13時30分

会場 ゼスト御池 河原町広場特設ステージ

登壇者 各出展ブースより1～3名程度（詳細はタイムテーブル参照）

今年度は3つ会場が離れていたことを受け、一息に全てのブース紹介を実施することで、来場者に興味のあるブースを見つけてもらって会場間の行き来を促進することを目的に、参加研究者によるピッチプレゼンを実施しました。登壇者は出展代表者以外の方でも構わないこととし、1ブースあたり3分間の間、聞いている人から「行ってみたい！」と思ってもらえるプレゼンを心がけてもらいました。初めての試みでしたが、当日は資料や小物を使われたり、身一つで登壇されたり、思い思いのスタイルでプレゼンいただき、来場者からは「最初にピッチプレゼンで全体把握してからまわられたのでよかった」など、こちらの目的が達成されたことがわかる声が寄せられました。



● タイムテーブル

時間	発表者	出展タイトル
11:30	アカデミックデイ事務局より開会のアナウンス	
11:35	ちやぶ a1 市川佳世子	人とのつながりで健康になる街を作ろう
11:38	ちやぶ a2 Pascal Lottaz	Switzerland, Japan, and the Long Second World War (1931-1945)
11:41	ちやぶ a3 宮野公樹	「専門」とは何か。

11:44	ちゃぶ a4	戴憶菱	説明できる AI が拓く新しい教育の形
11:47	K1	中村秀仁	先端科学と高校科学リテラシー教育
11:50	K2	立木秀樹	フラクタル・イマジナリーキューブの影
11:53	T1	野口高明	大は小を兼ねるか？：宇宙塵の科学入門
11:56	T2	小澤直也	アツい宇宙と冷たい計算機
11:59	T3	丸山紘也	ナノアンテナが照らす明るい未来
12:02	T4	今堀博	光でさまざまな機能を操る！
12:05	T5	井上康博	発明！カブトムシのモノづくり
12:08	T6	Jargalsaikhan Jargalmaa	研究内容を分かりやすく伝える方法論
12:11	T7	真常仁志	アフリカで住民の力を信じた暮らし向上
12:14	T8	中尾仁美	キャッサバからアフリカの食を探る
12:17	T9	小谷仁務	日本のモスク：日常から災害時まで
12:20	T10	石井杏佳	火山噴火のふしぎ
12:23	T11	山口弘誠	豪雨を鎮める気象制御
12:26	T12	中野元太	日本の隣国メキシコで地震津波防災
12:29	G1	横川隆司	指先サイズのデバイスで“創る”臓器
12:32	G2	Yu Jie	ダイヤモンドナノ粒子の医療応用
12:35	G3	永野誠治	細胞を薬のように使う時代が来た！
12:38	G4	齊藤博英	No RNA, No Life
12:41	G5	任思縁	臨床統計学ー医療に貢献する科学ー
12:44	G6	石本智之	認知症ー未病で見つけ未病で防ぐー
12:47	G7	石橋凌平	合成生物学で世界を変える大学生の挑戦
12:50	G8	森拓也	研究対象者の人権・福祉を AI で守る
12:53	G9	定延利之	あの一、ひ、非流暢って何ですか？
12:56	G10	高明慧	皆様がよく眠れるデジタルヘルス世界へ
12:59	G11	鈴木実	BNCT：伴侶動物のがん治療に挑む
13:02	G12	Suji Lee	ヒトゲノムの完全制御に挑戦する！
13:05	ちゃぶ b1	中尾聡史・Sarah Hampel	Shared Micro Mobility Vehicles: Acceptance and Potentials in Kyoto
13:08	ちゃぶ b2	趙亮	一票の格差ってどうなの？
13:11	ちゃぶ b4	川上聡経	皮膚美容×健康

● テーマ：あなたに合う「一冊」を探しにーいったい本とは何なのか？

日時 9月24日（日曜日）14時30分～16時

会場 ゼスト御池 河原町広場特設ステージ

登壇者 三島邦弘（株式会社ミシマ社）

藤原辰史（京都大学人文科学研究所）

人文社会科学系の研究者にとって最も重要な表現媒体である書物。そして、学問や表現の担い手と市井の人びととの出会いの場所である書物。

そもそも書物とは何なのか。京都と東京を拠点とし、果敢に「一冊」の可能性を広げてきたミシマ社代表の三島邦弘さんと、歴史から哲学まで30冊近い単著や共著、編著を執筆し、世に問うてきた人文科学研究所の藤原辰史さんとの対談企画でした。前半1時間は二人による熱い対談が繰り広げられ、後半30分ほどは来場者からの質問に二人が答えていくという流れでした。

事前に用意した席は満席で、立ち見の方で通路が塞がりそうなほど多くの人がいる中、途中マイクの接続不良トラブルに見舞われたりしましたが、みなさん真剣に二人の話に聞き入られていました。当日の様子は、下記 URL 先の学術研究展開センターYouTube チャンネルにて、アーカイブ配信をご覧くださいませ。

<https://www.youtube.com/channel/UCVGo6ssICNEK9Iz01F8NC4A/videos>





● テーマ：サイエンスアゴラ in 京都「アカデミアの現場からみたグローバリズム」（共催：国立研究開発法人科学技術振興機構）

日時 9月24日（日曜日）16時15分～17時45分

会場 ゼスト御池 河原町広場特設ステージ

登壇者 あん・まくどなど（上智大学）
石原真衣（北海道大学）
ウスビ・サコ（京都精華大学）
出口康夫（京都大学：都合により当日不参加）
ファシリテーター 宮野公樹（京都大学）

科学と社会をつなぐ対話の場「サイエンスアゴラ in 京都」では、研究者の「知」と、日本の価値観や伝統、文化が息づく京都の市民の視点を交差させながら、『グローバリズム』をテーマに議論しました。

資源や食糧などの多くを海外に依存する日本をはじめ、世界とのつながりは現代社会を支える1つの基盤となっています。そうしたなか、新型コロナウイルスのパンデミックなどによりサプライチェーン（供給網）や人々の往来が大きな影響を受け、グローバル化した社会の脆さも露わになりました。私たちは、これからの新しい社会の在り方を模索するなかで、世界とのつながりをどのように捉えていけばいいのでしょうか。

前半1時間は「グローバル化した社会の中で『多くの日本人には見えていない日本（人）の姿』とは」の問いを皮切りに、各登壇者の多様でユニークな視座による対話が、学際融合教育研究推進センターの宮野公樹さんのファシリテーションによって繰り広げられました。

後半30分は会場を巻き込んだ対話を展開し、「多様性の意識が低いことは日本の個性として受け入れられてもいいのでは？」「SDGsの文脈での男女平等と、それぞれの文化の中での男女平等の捉え方は必ずしも一致しないのでは？」といったさまざまな声が上がりました。

詳細なレポートはこちらからご覧ください。

Science Portal「《JST 共催》アカデミアの現場からグローバリズムについて考える「サイエンスアゴラ in 京都」で白熱トーク」（2023.10.17）科学技術振興機構（JST）
https://scienceportal.jst.go.jp/explore/reports/20231017_e01/





2-4. 研究者の本棚

2-4-1. 概要

日時 9月24日(日曜日) 10時~21時
※ 展示自体は9月16日よりスタート
会場 ふたば書房 御池ゼスト店

京都大学アカデミックデイに出展する研究者の推薦図書を展示した「研究者の本棚」を企画。会場では、多くの来場者が本を介して研究者と対話しました。本企画は、ふたば書房 御池ゼスト店協力のもと、店舗そばの一角にて展示され、気に入った書籍は書店内で購入できるようにしました。書籍のラインナップとして、本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。



■ 2-4-2. 研究者おすすめの書籍

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の4つの質問をし、会場ではその本と、選んだ理由などのコメントを紹介。来場者に本から研究者のことを知ってもらい、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。当日は学術書だけでなく、小説や漫画など幅広いジャンルがずらりと並び、来場者が興味深そうに手に取る様子が見られました。

また、お茶を片手にトーク◎トーク企画「あなたに合う「一冊」を探しにーいったい本とは何なのか？」に登壇された三島邦弘さんが代表のミシマ社から出版された、藤原辰史さんの書籍も取り扱われていたことから、企画に参加された方の多くは会の終了後に書店へと足を運ばれていました。

2-5. 附属図書館関連企画

■ 2-5-1. 概要

日時 9月24日（日曜日） 11時～18時
会場 ゼスト御池 御幸町広場

京都大学附属図書館にて、2023年5月8日 - 6月30日の間、京都大学の新入生・在校生ならびに教職員を対象に実施された、「おしえて！あなたのファースト・ブック」企画（<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1397292>）とのコラボレーション企画です。2023年度に入り最初に京都大学の図書館で借りた書籍のタイトルとひとことコメントを募集した附属図書館のこの企画、寄せられた35の書籍とコメントを映像として一挙公開しました。



3. アンケート

3-1. 来場者アンケート

■ 3-1-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、来場された方へアンケートにご協力いただきました。例年は、1) 来場された方の属性（知ったところや年齢職業など）に回答いただくことで飲料と交換するアンケート、2) 滞在時間や研究者との対話で印象に残ったことなどを回答いただくことで、お帰りの際に記念品をお渡しする「記念品と交換アンケート」の2種類のアンケートを設けていました。しかし、今年度は場所の特性を鑑み、2種類に分けた対応は困難であることが予想されたため、2つのアンケートを一つにまとめて回答いただき、おかえりの際に記念品と交換できるようにしました。また、アンケートを記入いただける場所が限られていたことから、紙のアンケートだけでなく、アンケートシステムを用いてインターネット上でも回答ができるようにしました。



● 記念品と交換アンケート (A5 サイズ : 210×148mm)



京都大学アカデミックデイ2023
記念品と交換アンケート

帰る前に記入!

本日はご来場ありがとうございました。今後の企画のためにご協力をお願いします。
以下のアンケートにご記入の上、受付までお持ちください。
京都大学アカデミックデイオリジナルグッズを差し上げます。※話切れの場合はご容赦ください。
アンケートはWEBでも回答できます。WEB版はこちらのQRコードから



2023.9.24

Q 1. 「京都大学アカデミックデイ」の開催をどこで知りましたか? (複数回答可)
 ポスター・チラシを見て ()
 ① 高校 ② 京都大学 ③ その他大学 (大学名:)
 ④ 地下鉄東西線 ⑤ 四条駅ホーム ⑥ その他 ()
 ⑦ 京都市役所前デジタルサイネージ
 ⑧ 京都大学ホームページ
 ⑨ 京都大学学術研究開発センター (KURA), K.U.RESEARCH ホームページ
 ⑩ 新聞 ⑪ 知人からの紹介
 ⑫ X (旧 Twitter) ⑬ サイエンス ポータル
 ⑭ Facebook ⑮ 会場に来て初めて知った
 ⑯ メール案内 ⑰ その他 ()

Q 2. 京都大学のその他のイベントに参加されたことはありますか? (複数回答可)
 ① 春秋講義 ② 京大ウィークス ③ 京都大学オープンキャンパス ④ ホームカミングデイ
 ⑤ 京都大学アカデミックデイ (過去 回参加) ⑥ その他 ()

Q 3. 京都大学ホームページや京都大学Facebookサイトを閲覧されたことはありますか?
 ① よく閲覧する ② 数回閲覧したことがある ③ 閲覧したことがない、知らない

Q 4. 科学・技術に関心がありますか?
 ① とても関心がある ② 関心がある ③ 関心があるともないとも言えない
 ④ 関心がない ⑤ 全く関心がない ⑥ わからない

Q 5. 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか?
 ① はい ② いいえ ③ わからない

Q 6. 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか?
 ① 見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
 ② 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
 ③ 見つけれなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけれない。
 ④ わからない。

Q 7. ご自身について教えてください。(※年齢は年代をご記入ください)
 ① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生 ④ 高等専門学校生 ⑤ 京大生 ⑥ 京大以外の大学などの学生
 ⑦ 京大教員・研究者 (年齢) ⑧ 京大職員 (年齢) ⑨ その他 (ご職業 年齢)

Q 8. お住まいはどちらですか。
 ① 京都市内 ② 京都府内 ③ その他 (都・道・府・県) ④ 海外 (国名:)

Q 9. 本日の「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間はどの程度でしたか?
 最も近いものを1つだけお答えください。
 ① 1時間未満 ② 1時間～2時間 ③ 2時間～3時間
 ④ 3時間～4時間 ⑤ 4時間～5時間 ⑥ 5時間以上

Q 10. 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか?

Q 11. 本日の「ちゃぶ台回って膝詰め対話」と「研究者と立ち話」の中で、あなたが良かったと思うのはどの出展ですか? もしその出展になにか「賞」をプレゼントするのなら、どんな名前の賞にしますか?
 例: 「ワクワクしたで賞」、「ばくちの話をよく聞いてくれたで賞」、「研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞」、「これからは研究をがんばってほしいで賞」など

出展番号 (例: G1, 5や5a1, など。出展番号はパンフレットを参照)	賞の名前

Q 12. 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

良かった点	悪かった点

ご協力、ありがとうございました。 

● 記念品 (付箋)



■ 3-1-2. 学内開催と学外開催における参加者の違い

アカデミックデイ 2023 は、単独で初の学外、かつ街の地下商店街のなかでの開催となりました。そこで、これまでのアンケート結果と、今回の結果とでどのような違いがあるのか、開催場所の違いによる参加者層の違いに焦点を当てながらアンケート結果を集計しました。

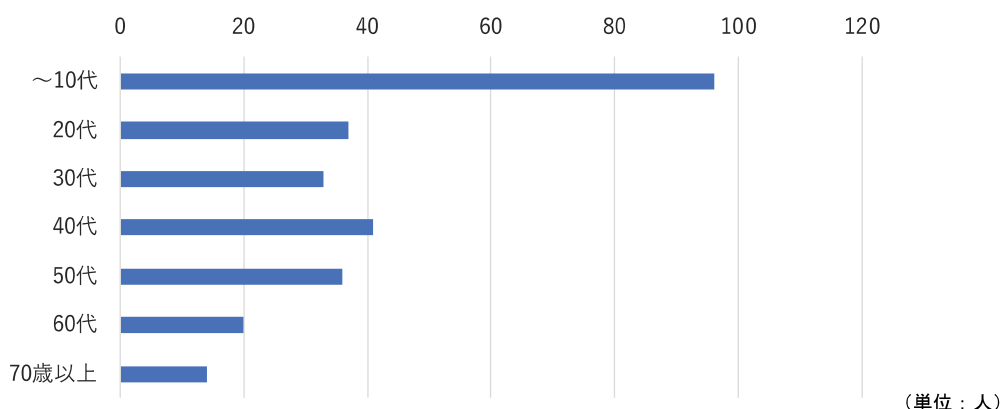
● 参加者数／アンケート回答者数

- ・ 来場者 880 人以上 / 回答者数 351 人（回収率 39.9%）
 - ※ 出入口が複数ありアンケート用紙も不足したため、正確な来場者数は不明
 - ※ インターネットからの回答者数は 36 人

まず特筆すべきは、今年度のアンケート回収率の低さです。例年のアンケート回収率は 90%程度でしたので、例年と比べ有意に低い結果となりました。3 つの会場に対しアンケート記入場所が 1 箇所しかなかったこと、アンケートの回答を促す誘導が不足していたことが一因として考えられますので、これらは次年度以降の課題と言えます。

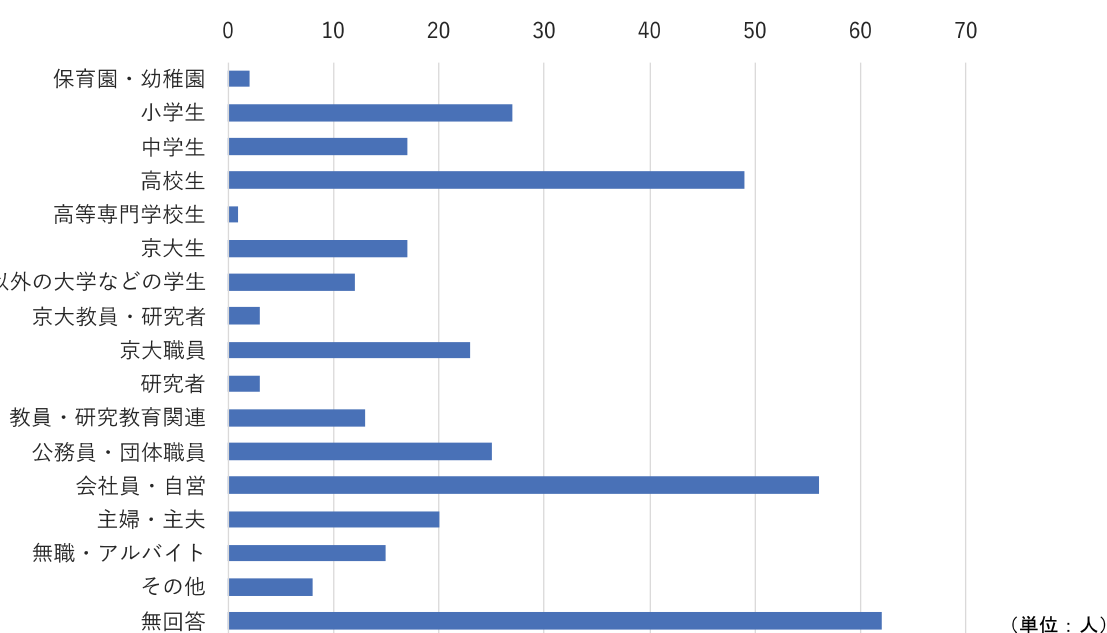
● 参加した人はどのような方だったのか？

・ 年齢層



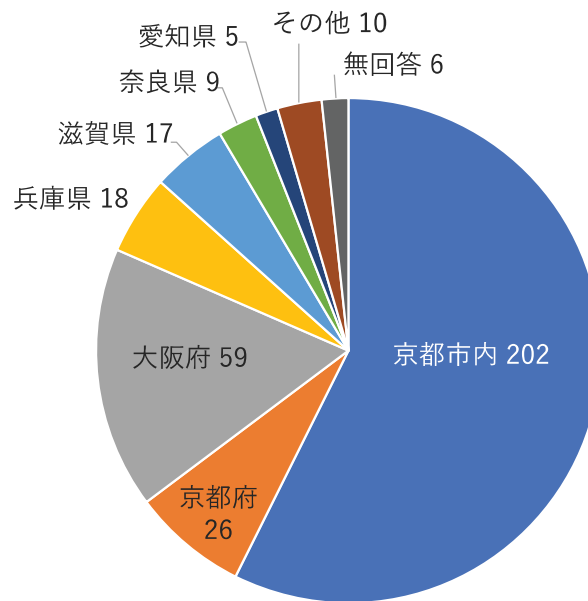
例年同様、10 代が最も多い結果となりました。
年齢層の違いは、この後の所属の違いにも反映されています。

・ 所属



・住まい

関西圏の方が9割近くを占めたのは、例年と変わらない結果です。

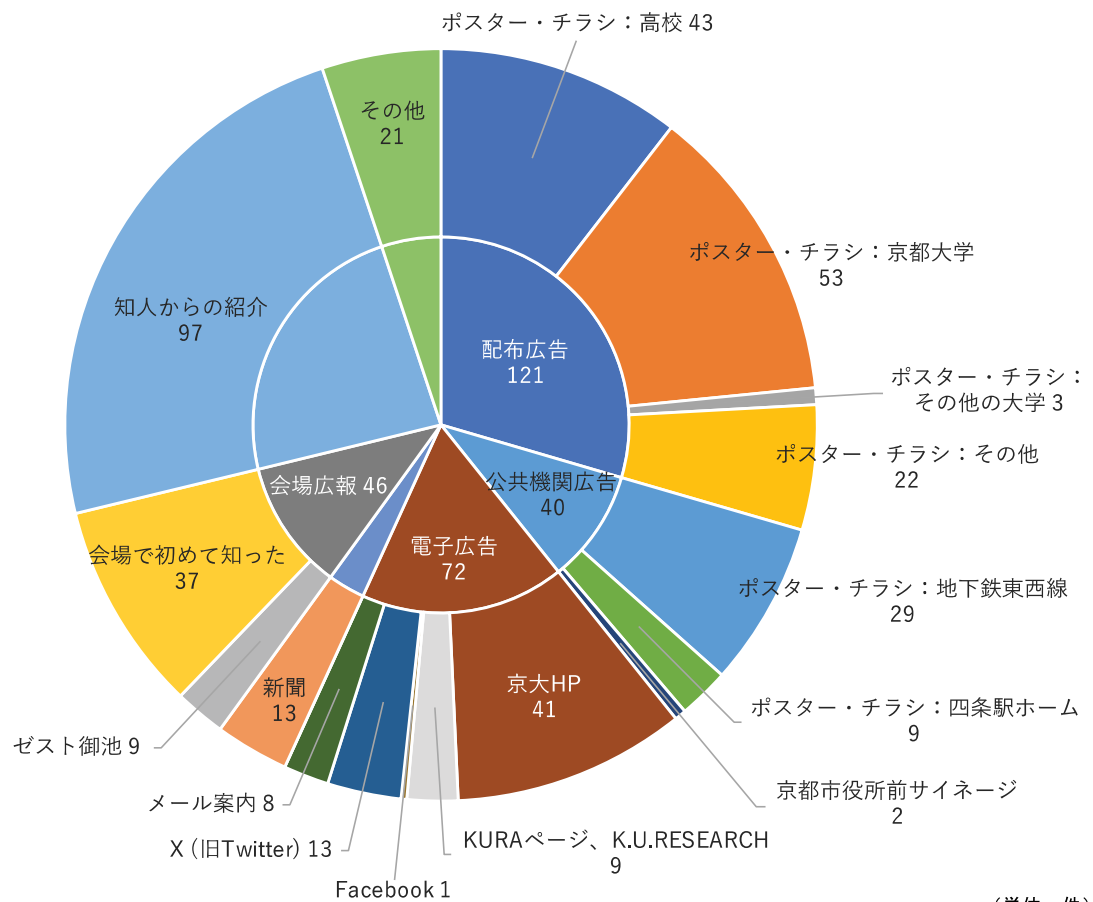


(単位：人)

※ その他内訳：和歌山県 1、徳島県 2、岡山県 1、三重県 1、石川県 1、静岡県 1、神奈川県 1、東京都 1、北海道 1

● 参加者 / 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

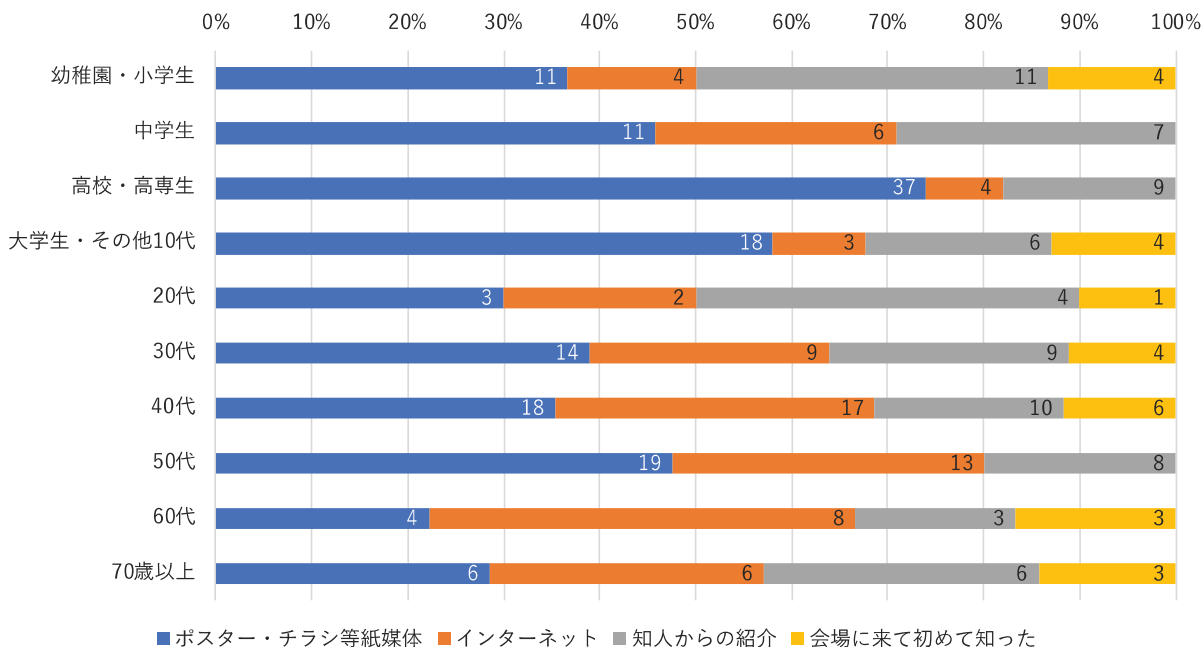
・開催を初めて知ったところ（全体）



(単位：件)

全体の傾向としてはポスター・チラシの効果が最も大きく、次いで知人からの紹介と続き、インターネット経由で知ったという人は2割程度の結果となりました。これは昨年度、ロームシアター京都で行われたアカデミックデイ 2022 のアンケート結果と同じ傾向を示しています。一方、会場で初めて知ったと回答された方が30名を超える結果は、今年度に特有の傾向と言えます。

・開催を初めて知ったところ（年代別 ※いずれも複数回答を含む）

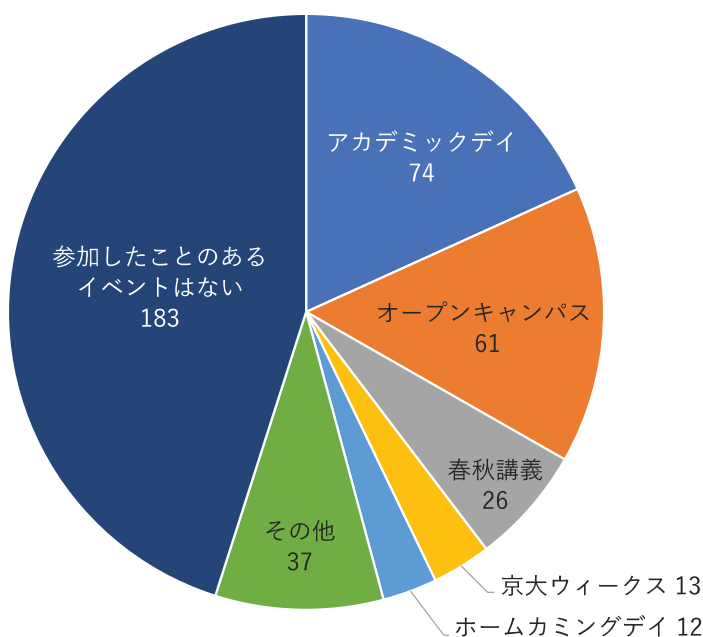


（単位：人 / 年齢不明の人は除く）

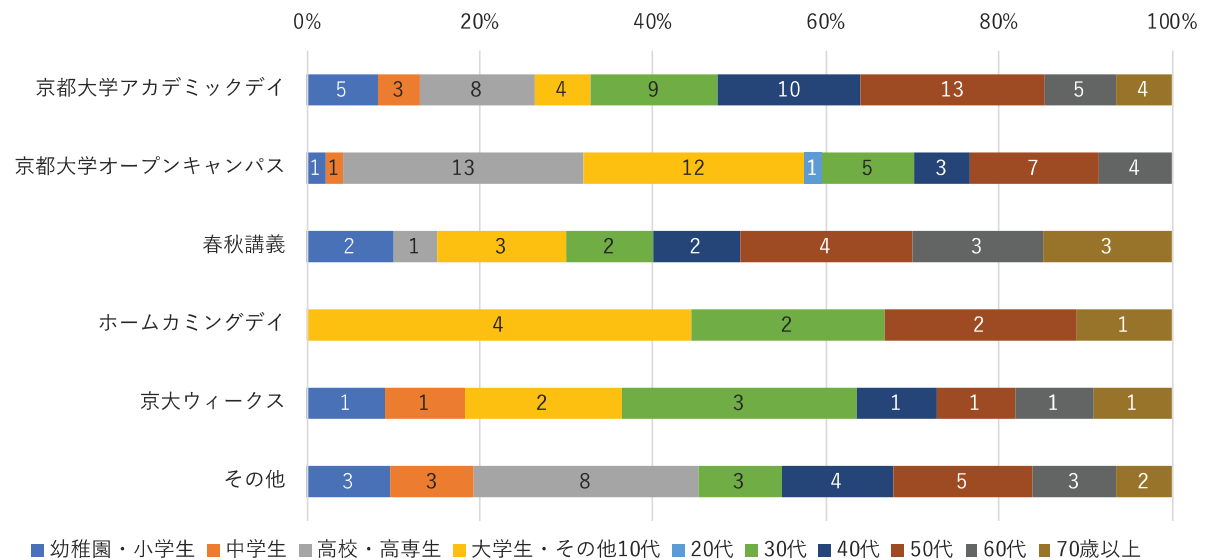
● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

これまでアカデミックデイに参加したことのある人の傾向は例年と特に変化していません。一方、初めて参加した人については、大学生までの若い年齢層の方が例年と比べて多い傾向が見られます。これが会場全体の割合を示しているのか、それとも学生・生徒の方々のアンケート回答率が高かっただけなのかは、次年度以降で検証が必要です。

・本イベントの他に、参加したことのある京都大学のイベントは何ですか？（複数回答可）

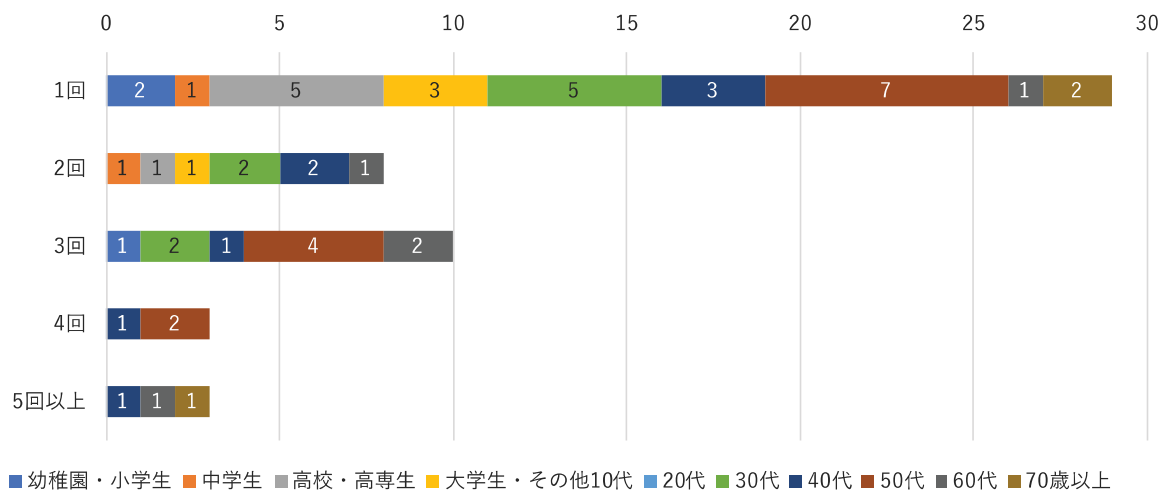


（単位：件）



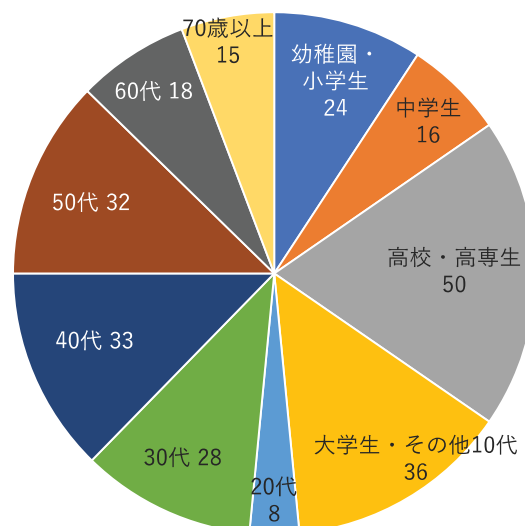
(単位：人 / 年齢不明の人は除く)

・京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？



(単位：人 / 年齢不明の人、今回が初参加でカウントを1とした人は除く)

・京都大学アカデミックデイに初めて参加した人の内訳

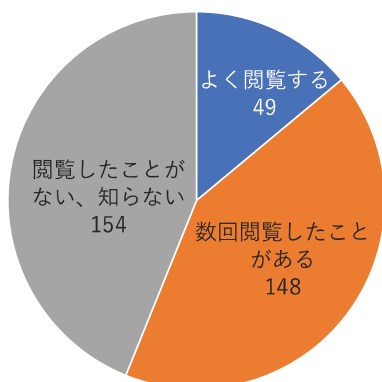


(単位：人)

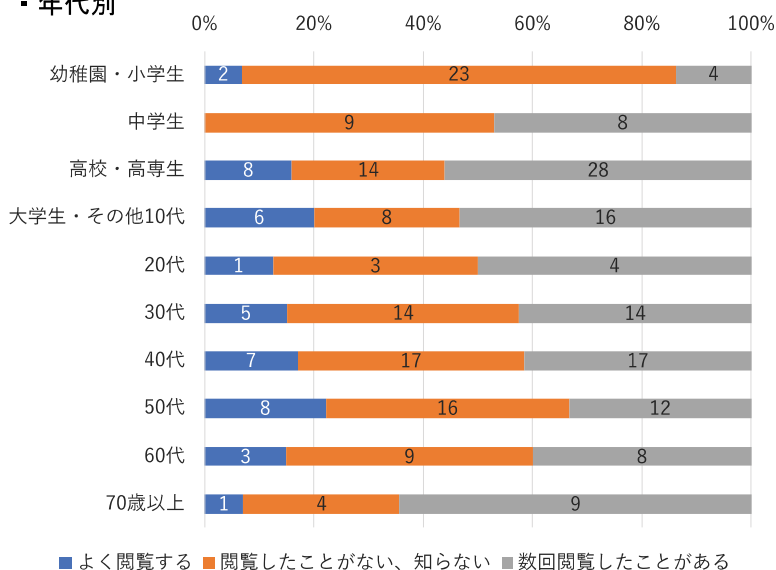
● 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

例年は「数回閲覧したことがある」層が最も多かったのですが、今回初めて「閲覧したことがない、知らない」方が最も多い結果となりました。普段、京都大学をインターネット上でフォローされていない方が偶然通りかかって参加した上で、アンケートに回答された可能性が考えられます。

・ 全体



・ 年代別



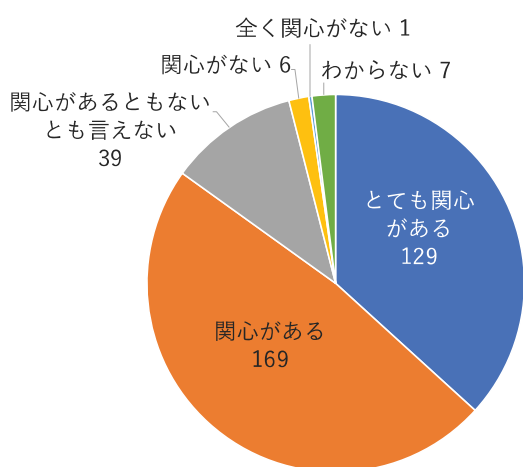
(単位：人)

● 科学・技術に関心がありますか？

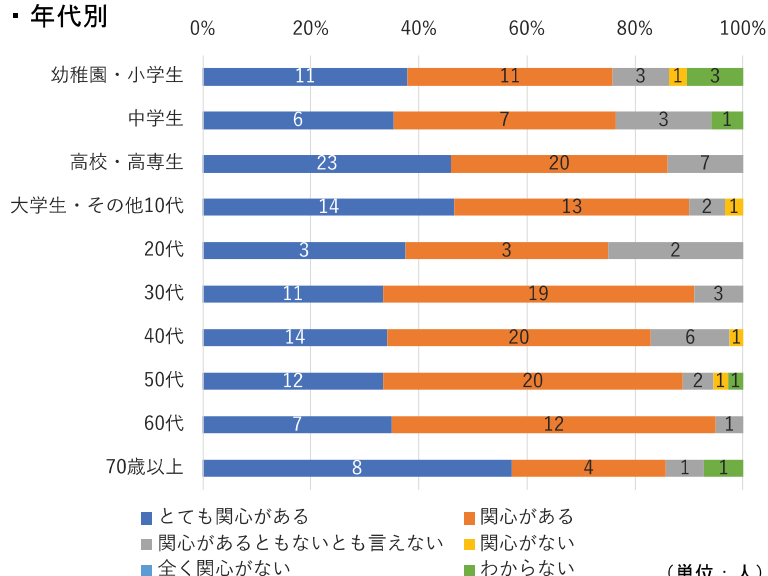
科学・技術への関心に対する回答は、ロームシアター京都で開催した際は「関心があるともないとも言えない」層が、それまでに比べやや多かったのに対し、今年度の回答は時計台で開催されていた時と同様、関心のある層が最も多い結果となりました。

続く情報の積極的な探索についての回答は、今年度含め例年同じ傾向が続いていますが、探している情報を見つけられたかに関する回答では、ロームシアター京都で開催した時と同様、「見つけられたけれども内容を理解することが難しい」層が最も多い結果となりました。時計台で開催していた頃は「見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる」と回答する方が、割合にして3%ほど外部での開催より多いことから、外部での開催は大学の中の開催では届かない層に一定程度アプローチできていることを示した結果かもしれません。

・ 全体



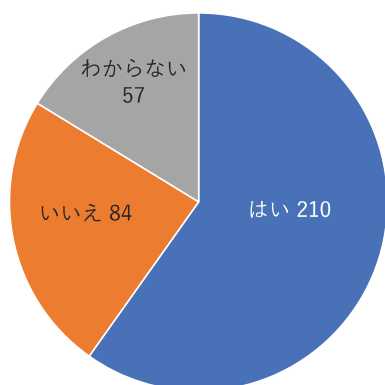
・ 年代別



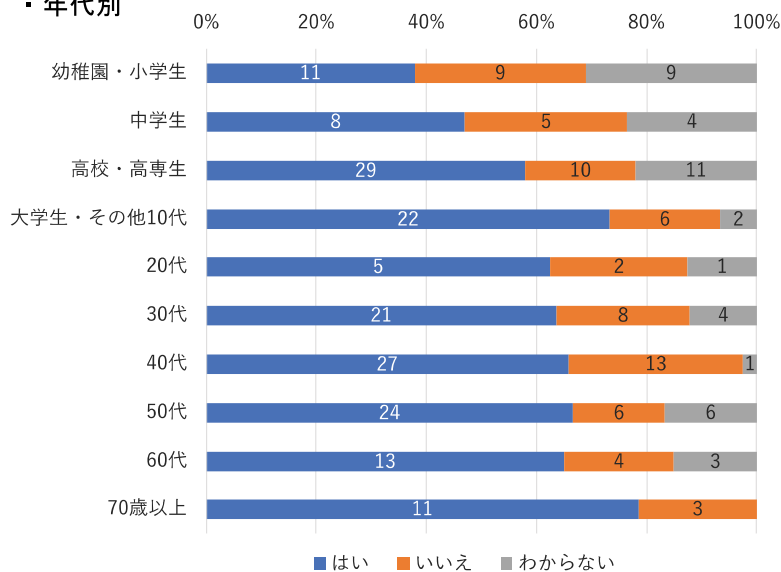
(単位：人)

● 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

・全体



・年代別

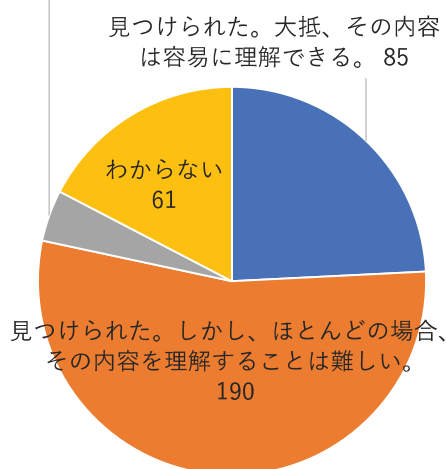


(単位：人)

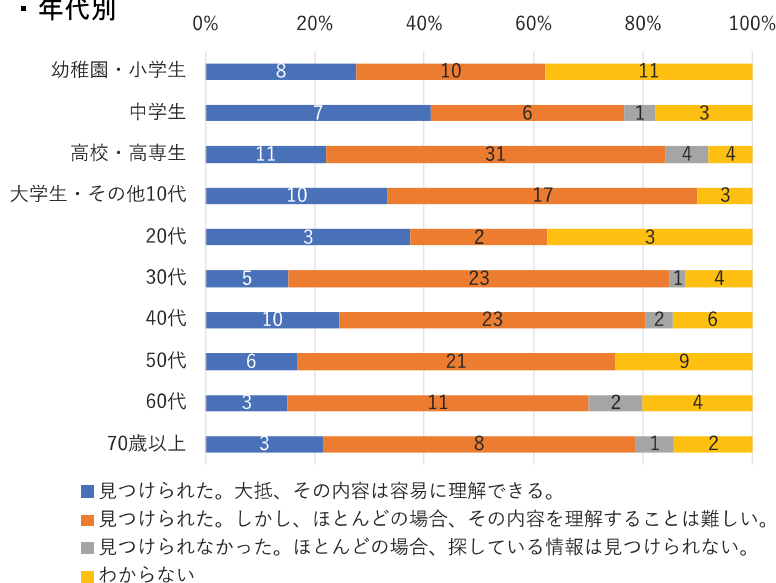
● 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

・全体

見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。15



・年代別



(単位：人)

■ 3-1-3. イベント参加後のアンケート結果

● 開催場所の違いにおける記述回答の違い

これまで開催場所となってきた時計台並びにロームシアター京都と、今回の会場であるゼスト御池との違いを検討するため、それぞれの質問項目を比較検討しました。滞在時間や「研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったこと」については、例年と大きな違いは見られませんでした。場所が変わっても対話を通じて得られる気づきには、高い共通性が見られそうです。

今年ならではの結果が得られたのは「京都大学アカデミックデイの良かった点・改善点」を問う項目です。良かった点では、「ゼスト御池で開催されたこと」という、会場自体をポジティブに捉える意見が複数寄せられました。その理由として、アクセスの良さや最寄駅からほぼ屋内移動できるという立地条件、昼食が取りやすいという商店街ならではの利点、そして「ふらっと立ち寄りやすい場所」という言葉にあるようにオープンスペースという特性を活かした気軽さが好評だったようです。また過去に参加された方からは「オープンで見やすい、説明を聞きやすい」や「時計台のときより人が多くて、研究者の人のやりがいにつながってよかった」といった良さを挙げられる方がいらっしゃいました。また、「最初にピッチプレゼンで全体把握してからまわられたのでよかった」や「スタンプラリー形式で子どもも興味を持って参加できたようにみえたところ」など、今年度初の取り組みとなったピッチプレゼンや「対話シール」企画も好評をいただきました。

一方、改善点として会場に触れられた意見も複数ありました。とりわけ、会場が3つに離れていたため歩く距離が長いこと、「何往復もして疲れた。座れる場所がほしい」や「ブースによっては、待ち時間が長く、休憩所や荷物置き等あればさらに良かった」というように、歩く距離や対話までの待ち時間に比して休憩場所や椅子の数が少ないことを改善点として多く挙げられていました。また、会場の広さや出入り口の多さに伴い、「昨年度と比べて、レセプションの場所が分かりにくい。」「どういう手順で、どこに行けば良いか、少しわかりにくかった」といった、会場のサインについての意見も寄せられました。今年度は、通路や地上にサインを置くことは会場の制約により禁止されていたため、来場者をどう誘導するかは当初から課題として検討してきましたが、「パンフレットの文字を大きくして、各ブースの要約版が欲しい」といった意見を参考に、特にパンフレットの改良がスムーズな誘導の一助となるかもしれません。

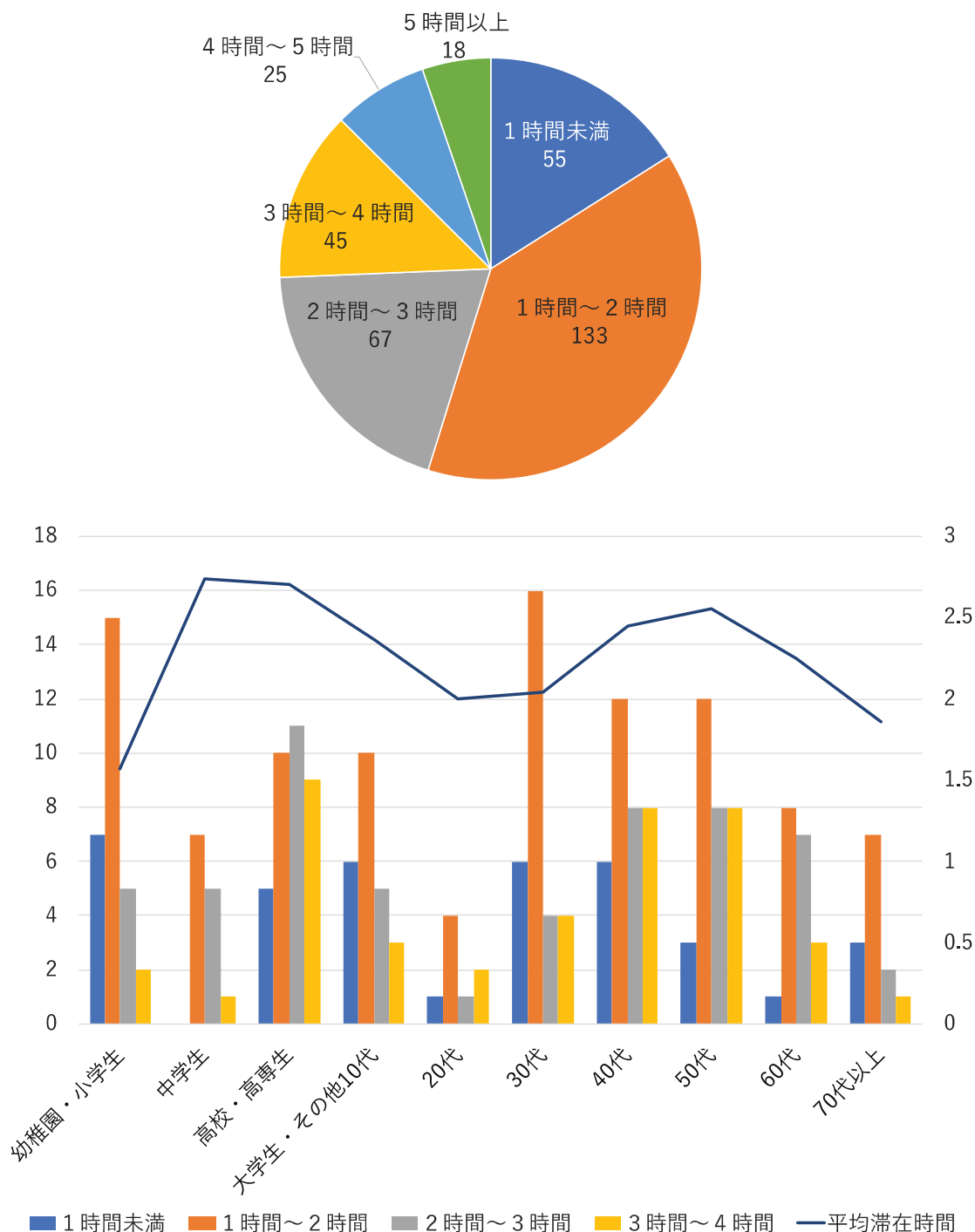
さらに、人の往来が多いオープンスペースならではの意見として、「一般人には名札が恥ずかしいので、結局 バッグに入れてました」と、名札に関する意見も少ないながらもありました。実際、当日会場を見回っていた際、例年よりも名札を首から下げている来場者の数が少なかったように思います。個人情報保護の観点からも、名札のあり方は今後の課題として考える必要がありそうです。そのほか、「ちゃぶ台は興味があったのですが、あとからだちょっと加わりにくい感じでした」と、ちゃぶ台への途中参加の難しさに触れる意見も複数寄せられました。こちらオープンスペースだからこそ、ひとたび多くの人が車座で座り込んでしまうと、立ち話のブースよりも敷居が高く感じられ、入りづらいと思われるのかもしれません。ちゃぶ台のあり方についても、今後の課題になりそうです。

最後に、京都大学での開催を望む意見も複数寄せられました。過去に参加された方からは「会場を京大に戻していただきたい。今回の会場は分散しており、非常に不便であった」と、会場の広さを理由に挙げる意見をいただきました。一方で、今回初めて参加された方が京都大学での開催を希望された理由は、アンケート結果からは読み取れませんでした。この点について、「悪かった点とは決して思いませんが、町に飛び出している企画でしかできないことは何だろうと考えていました」という意見をいただいております。京都大学内での開催を望む声と合わせ、まさに私たちがこれから考えないといけないことであると思います。

以下は、アンケート結果の詳細です。

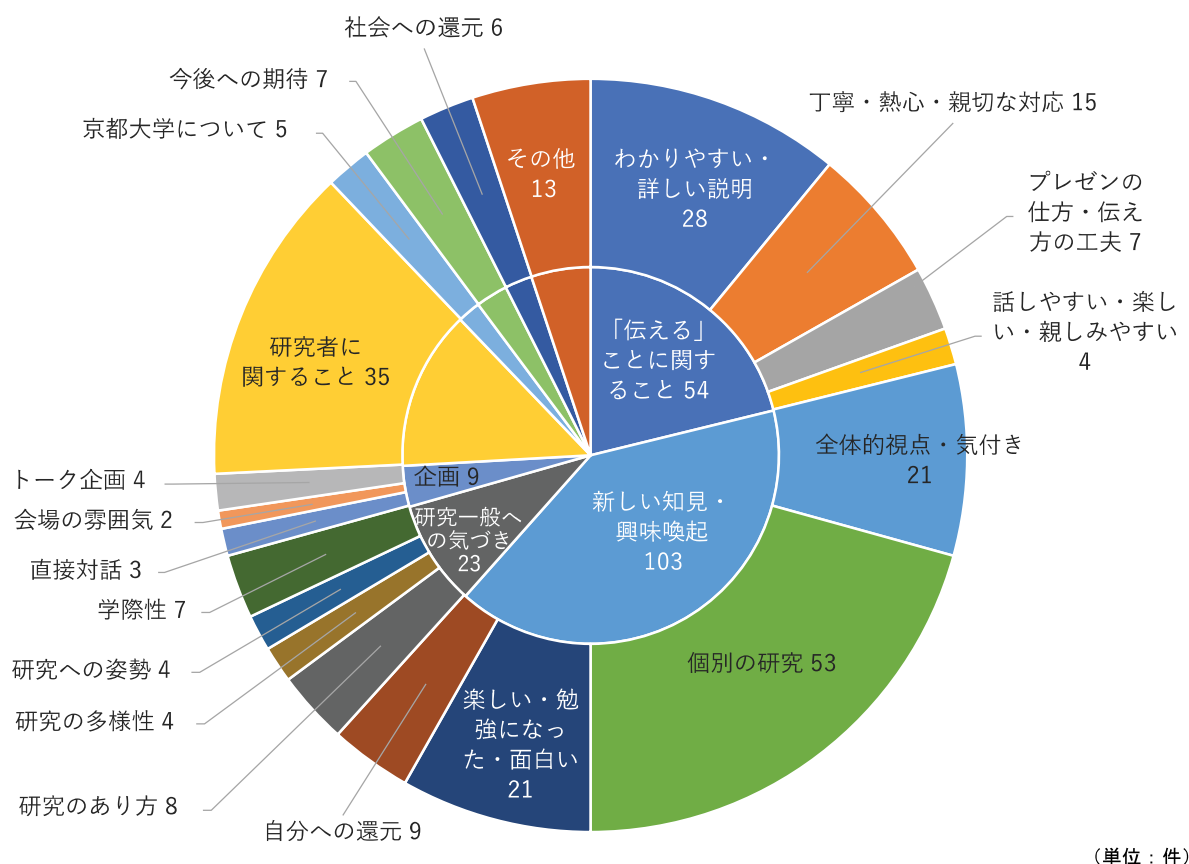
● 京都大学アカデミックデイの滞在時間はどの程度でしたか？

滞在時間の分布は、例年と同じ結果となりましたが、中高生の平均滞在時間が他の年代と比べて長い傾向にあります。これまでのアンケートでは、中高生を切り分けた分析を行っていませんでしたので、今後継続的に調べていく必要がありそうです。



※ 平均滞在時間は、「1時間未満」を30分、「1時間～2時間」を1.5時間、「5時間以上」を5.5時間などとして算出。全体の平均滞在時間は、2.1時間。無回答を除く。

● 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？



・主な意見

〈「伝える」ことに関すること（54 件）〉

わかりやすい・詳しい説明（28 件）

- 今回、主に学生さんとお話ししましたがとてもわかりやすく説明してくださりました。その研究をすることになったきっかけ（研究室を選んだ理由など）を聞いたのが興味深かったです。
- 子供連れでも壁が低く、子供にも分かるように説明したり、機材をさわらせてくれた。
- わかりやすく相手のレベルに合わせて説明いただいた。
- 長い研究と努力の末に発表されたもので、すごく気持ちが伝わった。
- 難しいことを簡潔に伝えてくださった。自分の研究内容に自信を持っている人が多かった。
- とても熱心に研究をつづけてられ、それを分かりやすく話して下さり感動した。
- 質問に明快に答えてもらえて積極的に研究されていることがわかった。
- 研究といってもどんなことをしているか想像がついていなかったが、わかりやすく教えてくださって、イメージができました。
- むずかしいことをわかりやすく伝えるのはむずかしいなと思いました。
- 新しい発見に至った着想について、詳細に語っていただいたこと。
- どの出展も全く分からない状態からでも分かるように説明してくれていたことが印象に残った。
- エビジェネティックについて、調べてもよく分からなかったことを、分かりやすく教えてもらえました。

丁寧・熱心・親切な対応（15 件）

- とても熱心にご説明いただき、子供（中学生）も喜んでおりました。
- 日本語でも英語でも対応してくださってありがとうございました。
- 子供にも優しく接してくださって、嬉しかったです。

- 熱意を持ってかかわる姿がとても良く感じました。
- 質問の回答の端々に、その分野へのこだわり、誇りを感じた。
- 現実をそのまま受け入れる、かっこつけない！！よく表せないがとてもたのしく納得のいくあつい話でした。
- とても丁寧に説明してくださいました。興味が深まりました。
- 自分の高校の文理選択について質問したり、京都大学の生活について質問したり、研究内容について質問したりした時に、どなたも真剣にお話ししてくださり、とても楽しい時間を過ごせた。
- 皆様とても親切でいねいに説明いただきました。後でいろいろ調べてみたいと思いました。

プレゼンの仕方・伝え方の工夫（7件）

- 子供の興味を引き出す工夫がすばらしかった。
- 伝え方が面白いと思った。
- 一見、とっつきにくそう、という研究も工夫次第で興味深いものに伝わるということを今日のイベントを通じて感じました。
- 体けんできたこと
- 子供が興味を持てるテーマが多くありましたが、もっと体験ができるものがあれば子供の科学分野への興味を引き出せると思います。
- T10 火山のブースが視覚的にもよくわかりやすかった。
- 実物をもってこれるものはつよい。

話しやすい・楽しい・親しみやすい（4件）

- とてもわかりやすく、おもしろかったです！
- 声をかけてくれるので話しやすかったです。
- 全体的に進んで話してくれるため、見習いたい積極性だった。
- フランクにはなせて良かった。

〈新しい知見・興味喚起（103件）〉

全体的視点・気づき（21件）

- 最先端の技術を知れたり、新しい学びがあった。
- 大学ではいろんな興味深い研究が行われていること。
- 知っているつもりで知らなかったことがいろいろあった。
- 自分の身近のことに気づけて良かったです！！
- 今ちきゅうでおきていること、体内はこんなことがおきていることを知りました。
- 新聞、TV以上の深い情報、新しい発見を求めて研究している話。
- 文系も面白そう。
- いろいろなけんきゅうがあったのでおどろいた。
- こんなに技術が発達しているなんて今まで分からなかった。
- 幅広い研究分野のお話を伺って、自分自身が普段気づいていなかった視点や、様々な研究が身近な生活と関わり支えてくれていることを知ることができました。
- 専門のパネルからは多くの情報を。京大だからこそ取り組んでられるテーマに希望を。
- 科学技術が人だけでなく様々な命を救う研究だったり、普段暮らしているだけじゃ気づかないところまで科学技術が使われていたことや科学技術はすぐそばにあることに気づいた。
- ものさしの有無、つながりの大切さ、視座の違い、技術の楽しさ
- 私のあまり知らない分野の話が聞ける・話せるのは楽しいです。
- 大学とは何のためにあるのだろう、研究ってなんだろうと考えさせられました。
- 科学に国境は無い。
- 普段目にすることも意外な切り口で考えると新たな発見がある。
- 自分では考えた事のない考え方があった

個別の研究 (53 件)

- 学問の本当のいみ、免疫について、いろいろな研究。
- 非流暢の話をもっと深堀したいと思いました。
- 言語学のポスターセッションがおもしろかった。
- 流暢に話そうとするために非流暢に注目するという着眼点が面白かった。
- 非流暢がたのしかったです。
- 流暢に話せない事の良さ
- 非流暢性という言葉を知りました。
- 火山の噴火に興味を持った。
- 火山の研究で防災と地熱エネルギー利用はきっぱり分けられていた。
- 桜島の地震観測は、長い期間に地道に進めて来られたことがわかります。
- 宮野先生の生、学問への学び方。
- モスクを避難所にするという発想におどろきました。
- 豪雨の防ぎ方が考えたこともなかったので印象に残りました。
- カブトムシの成長を数理的に見たり（観察ではない）日常と違う取り上げ方を知ることができ有意義だった。
ゲノム解析など言葉は知っているが中身の分からないものを知ることができた。
- アルツハイマー病と腸管との関係はおもしろかった。
- 医学の進歩にとっても驚きました
- ips 細胞について、G4・G12 ブースにて知識を深めることができた。
- iPS 細胞がどんどん進化していたということ。他の新しい細胞によって発展が進んでいたことが印象に残った。
認知症が発症する時に増加しているタンパク質が発見されていることに驚いた。
- ワクチンについてよく分かった。
- 生物の北畠先生がとてもおもしろかったです。生物分野に興味がわきました。
- こちらが思っていたことと違う話を聞くことができる。大腸菌が地雷を発見するのは難しいと思っていたら、それは簡単で大腸菌がすぐに増殖し終わることの方が問題だとか。「ミニ臓器ができる」というのを見て移植に頼らない再生臓器もすぐできるか！と思ったら医療の研究に使う実験臓器で移植はできないとか。
- 特に印象的だったのは、医療用のデバイスを工学部の方々が作っておられたことです。自分は薬学に興味があるのですが、臨床実験は医療の大きな課題だと思っていて、それを工学的視点から解決するというのが興味深かったです。
- スイスにはいみんが多い
- スイスの憲法はよくわかる。
- Pascal Lottaz 先生 国際関係では、仲が悪くても良くても、関係を切ってはいけない。宮野公樹先生 分らないままでも良い。
- かえるの動きがおもしろかった。
- カエルを見れておもしろかった
- 軽石について話したこと
- おせん水についてニュースで見て何だろうと思ったけれど話を聞いてよく分かった
- 複雑な形をした図形に名前がついていること
- フラクタル図形の正斜影が有限の面積をもつ条件を説明していただきました。
- 宇宙塵の科学入門が印象に残った。
- 原子を冷やす仕組みのところで、レンズを通して分散させて並べるなど、すごいことを考える人がいると感心した。
- やっぱり量子力学に対する興味が強くなった。
- 人工光合成の話でたくさん質問できて理解が深まった。
- 大学と高校のコラボレーションとしての取り組みが面白かったです。
- 中村先生の映画作り、高校生との連携の企画力に驚いた。
- 中村秀仁さんの説明がとても分かり易くて、放射線について正しい知識を得ることができよかったです。
- 2 ブースしか話が聞けなかったが、どちらもいままで知らない新しい知識だった（気象の制御・言葉の非流暢性）

- （農学系のブースに行って）どのようにアフリカの国とつながるのか、海外への一人旅はどんな感じが聞けてよかった。ミクロとマクロのことについても考える機会ができてよかった。参加者の JICAde インターンをしている方と少しお話しできたのもよかった。
- G7 フェージの模型がおもしろかったです。
- アフリカのトイレ 説明できる AI 睡眠時無呼吸症候群 いずれも、自分に関係していることとして捉えることができ、かつ、目から鱗の発想転換を得られた。

楽しい・勉強になった・面白い (21 件)

- 画期的な研究をたくさん知れて楽しかった。
- 楽しそうで、さらに興味がわきました。
- 最新の研究にふれている方々の話が聞けたことが良かった。
- 私は文系なので理系分野（医療のこととか）が自分とはあまり関係ないと思っていたけど意外と身近だった。おもしろかった。
- すごくおもしろかったです！ 自分が興味ある分野はもちろん、ポスター見て初めて分かったこともあり、わくわくしました！ 2 時間では足りなかったです！
- 火山の噴火について、広範な私の質問にも当意即妙に応じてくださりベテランの研究者と対話できる機会は素晴らしいと思います。
- 普段なかなか触れることが難しい研究内容を分かりやすく説明して下さった事で興味が湧きました。いろいろな研究に出会えるととても良い機会だと思いました。
- 大阪高校の生徒さんが、調べた内容をていねいに説明して下さって、楽しく聞けました。
- 今まで理解しようとしていなかった分野（物理）を詳しく質問できてよかった。
- 自分の専攻外でも身近に研究できるような面白いものがたくさんあることがわかった。
- 自分が興味ある分野をある程度知っているつもりになっていたが、その分野の言及の話を聞く中でまだ自分にはわからないことがたくさんあると知れて楽しくなりました。
- 普段では出会えない研究分野の話を聞くことができ、大変興味深かった
- いろんな分野の研究に触れられてよかったです。
- 思ってたよりも色々な研究分野があることを発見できて良かった。

自分への還元 (9 件)

- コラボレーションの幅が広がった、新しい発想が見つかった
- 自身の興味の方向性と傾向。
- 自分の専門分野以外のことを知ることで自分の見解が広がった。
- 自分の興味のあることを大切にすることが自分の人生を大きく左右すると知れた。なので自分の興味のあることをとことん追求していきたいなと感じた。
- 勉強というのは本来楽しいものだと思い出しました。
- 自分の進路を考える機会になったのと研究も刺激的だった。
- 薬学に興味があり、薬学部の方に直接話を聞けて参考になりました。
- 今後、研究発表や低学年の生徒に向けて発表を行う機会があると思うのですが、その際に活用できそうな技術を発見できました。

〈研究一般への気づき (23 件)〉

研究のあり方 (8 件)

- 同じ研究でもアプローチの仕方により idea や方法論が異なる。単一数値処理を目指すものも経営学的に解明しようとする見方もいろいろ・・
- 実生活に近い技術があれば、学問の深部に迫るようなものがある。
- 何かを変えるには、時間がかかる。
- 一つに見える分野も細分化するとさらに世界が広がっている。
- 知らない知識分らないことが知ってる分野と繋がっていることに感動した。
- 壮大なテーマの研究であっても、日常の作業は地道であるということ

- 多くの方が協力して研究している。
- 意外と身近なもので研究されている。

研究の多様性（4件）

- 改めて気づいたこと、「色んな研究分野があるんだな～」と思った。（気づいたことと言うよりも思ったことかも）
- 基礎研究を各分野で行っている
- 様々な分野で研究がされていると感じた。
- 人によって色々なテーマで研究していて、学部の名前から想像できないような研究をしている

研究への姿勢（4件）

- critical thinking は大切だけど、自分の意見を持つことはもっと必要だ。
- 様々な視点から物事を見て、答えのない問いにいくつかの考え方やアプローチを持つことが大切だと再認識しました。
- 将来研究職を目指す上で、自分で主体性を持って行動していくことの大切さを改めて実感した。
- おもしろいことを追求し続けることが楽しいこと。

学際性（7件）

- 多分野が協働して学際的な研究が行われていることが実感できました。
- 人文系と理工系が一緒に研究していること（など多数あり）
- どんな学問でも、一分野にとどまるものではなく、様々な人、多様な専門性を組み合わせることでより深く、広く、面白い研究になると感じました。
- 様々な分野の視点から、一つの研究をすることの大切さに気づいた。
- 多様な分野を多様な角度から研究されているのだと気づきました。
- 色々な研究に心理学などの思いがけない分野が関わっていて、研究の奥深さを感じました。
- 多くの専門家が協力して研究していること

〈企画（9件）〉

直接対話（3件）

- ポスターの前に研究者がいるということで、対面でお話しできてよかった。
- 直接研究者本人と会話できてその人柄や研究テーマの魅力がよくわかると思う。
- 直接対面で色々疑問や感想、対話ができることが良かった。その研究者の人柄や研究テーマがかなり詳しくわかりやすく伝わるので素晴らしい取り組みだと思う。年に一度ではなくもっと増やして欲しい。

会場の雰囲気（2件）

- オープンスペースで気軽に話すことができる空気感がよかった。
- オープン性高い、明るい、敷居を低くして頂いている。

トーク企画（4件）

- 「一冊」のトークが非常に興味深かった。
- 藤原先生と三島先生の話が良かったです。
- 本も人間関係から生まれていると知り、だから本はホッとできるものなのだと気づいた。
- 本が自分を呼んでくれるという話が印象に残った。

〈研究者に関すること（34件）〉

生き生き・楽しそう（8件）

- 目的をもって生き生きと話をされている人が多く、研究の世界が魅力的に写った。

- 皆さん話しているのが非常に楽しそうでした。目が生き生きしていた。
- 研究者の方が本当に楽しそうに話していらしたことです。
- 知識を得るだけでなく、それを使って誰かのために行動されていて、本当に尊敬の気持ちでいっぱいになりました。そして何より、研究者の方、皆さん楽しんでらっしゃるのが印象的でした。
- とても楽しそうに話されていたのが印象的でした。
- T10の方が桜島が噴火しそうとキラキラしていて、研究所あぶないやろ！とつつこみたかった。
- 生き生きと語るその情熱が魅力的で応援したいと思います。
- それぞれニッチな分野を楽しそうに追求しておられて、とても楽しかった。

真剣・夢中・熱意（14件）

- 自分の研究にすごく熱意を持っていること。
- 好きなことだから苦手なことも学びたいと思えるといっていた研究者さんの言葉。
- 宮野先生は熱いなあと思いました。親として話された時は、深く、共感できたと感じました。
- 皆さん熱意があって面白いです。
- 自分の研究内容に自信を持っている人が多かった。
- 研究者の方々の「がんばります！」という熱意がすばらしく、パワーをいただきました。
- とても熱意があること 研究が好きなこと。
- 人生をささげている様子が伝わってきました。
- 研究者の方々は皆、並々ならない熱意をもって研究しておられると気がついた。
- 愛が深い。

考え方・思い・モチベーション（5件）

- その研究をすることになったきっかけ（研究室を選んだ理由など）を聞いたのが興味深かったです。
- お金を稼ぐよりも知りたいという気持ちの方が強いとふつうに言っていた若者に会い、励まされました！
- 何故その研究を始めたのか、最初のきっかけがおもしろかった。
- こうなったら良いなと思って研究されていて素直だった。
- 色々な課題を少しずつ乗り越えていると思った。

その他の研究者の印象（8件）

- 学部生も積極的にやっているの、とても感心しました。
- みなさんさまざまな分野でとても活やくされているんだなと思った。
- 皆さんすごいなと思いました。
- 若手研究者は日本の宝。
- 「学問は絶望ですよ。」という台詞といきなり異国の発音を教えてくれる先生。
- 直感で、ここのお話をきいてみたい！と思って近付いて行きましたが、研究者の方々、魅力的でした！
- 医療系には医学部以外の人が多い。
- 研究者自身が「分からない」と言われるのを聞いて親近感がわきました。

〈京都大学について（5件）〉

- 京大の研究の一部を知った。
- 学内で学際的な研究が盛んに行われていると感じた。
- 研究の幅が広いこと。
- 京大らしさを久々に感じる局面が多く面白かった。

〈今後への期待（7件）〉

- ips細胞の発展大いに期待しています。
- 大学生1、2年生ともお話ができました ガンバレ！の気持ちです

- 中性子を用いたがん治療はぜひ日本で発展してほしい。
- どの分野も、今後の日本にとって大切だと思うので、是非頑張ってもらいたい。
- 大学生になるのが楽しみになった。
- 新聞やニュースで知る以上に科学・医療の研究が進んでいることを知り、今後の地球環境や医学などの近化が期待できることに喜びと期待をもらえました。
- カブトムシの変体の話が面白く、いろんな応用を期待したいと思いました。

〈社会への還元（6件）〉

- このような機会ですべてと社会のために役立つことをされていることに感心しました。
- 私たちのない気ない生活の中には、研究して下さった成果が多く生かされていることを再認識しました。
- このような場所でのアウトリーチ活動によって、還元されていくのだと感じました。
- 社会実装への橋わたしの必要性。
- 身近な問題の解決に役立つことが分かった。
- 最先端の技術が意外と身近な所で活用され始めていること。

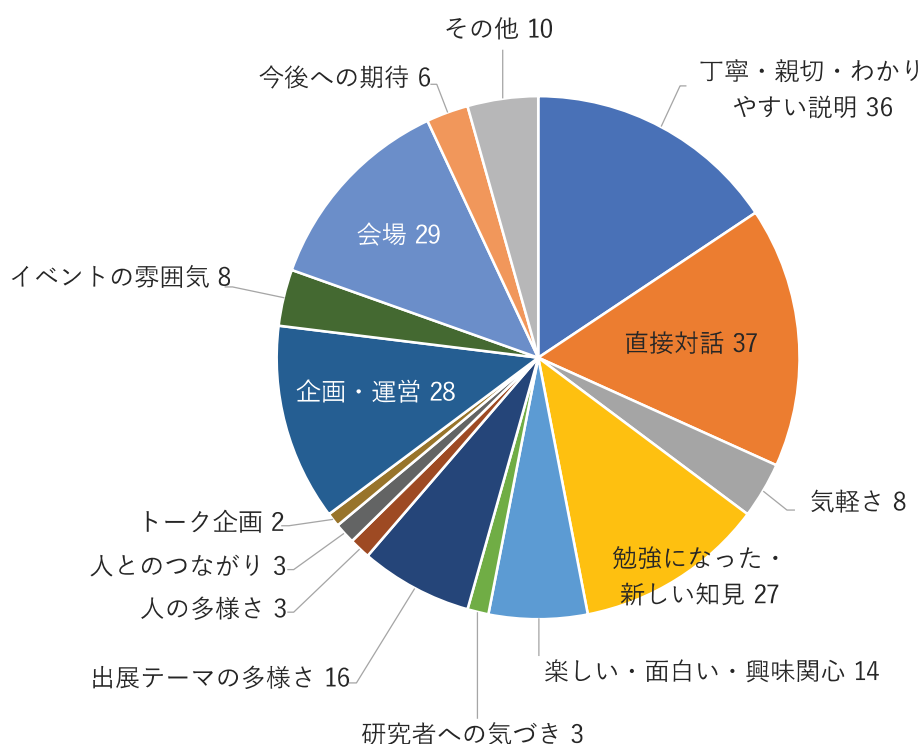
〈その他（13件）〉

- 子供の将来の夢へのアドバイスを頂けました。
- もう少し聞きたかったのですが、来るのが遅く本の事を聞いて作者にやさしい本屋さんがあるのだと感心しました。
- 話した側だけ、話を聞いてくれていた人達のほとんどは科学の研究をしている方々たちで、私の発表に追加の知識を教えてくれて教えあいが生まれたのがすごく印象的だった。
- 同じ高校生と情報を共有できてよかった。
- 生徒たちの成長と温かく聞いてくださったお客様の交流。
- 一般の方向けであるからかもしれないが、思ったよりも研究者の思想信条が全面に出ていると思った。研究者というより公演家的な側面が強調されていると感じた。
- 研究モデルを募っていたこと。

- 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

〈良かった点〉

・全体



(単位：件)

・主な意見

〈丁寧・親切・わかりやすい（36件）〉

- 一般の人に現在進行形の研究を分かり易く説明してくれた。
- ブースの方から積極的に話しかけていただき、いろんなお話が聞けました。
- 説明が例を交えていて分かりやすかった。
- 中学生にもわかりやすく教えていただけた。
- 詳しい話がたくさん聞けた。
- 説明が分かりやすかった。話しかけやすかった。
- 多種多様な研究について分かりやすく知ることができました。
- 専門性の高い研究を可能な限りやさしく説明してくれたところ。実際にはうまくいってないところや、やっぱりわからないところも聞けたところ。
- 質問に答えてくれた。説明が分かりやすかった。
- 子供にやさしく接して頂けました。
- 水飲み鳥、カエル、カブト虫など、子供も興味が出るように演出していた。
- クイズなどがあって小学生でも分かりやすかった。
- 興味を持たせてくれるような話をしてくれた点。
- 熱心に説明して下さった。
- 全員の先生が分かりやすく教えてくれたこと。
- 分かりやすく話してもらえて親近感わいた。
- 研究の内容、その様子など実際に何をやっているのかが分かりやすかった。
- 話が面白いです！丁寧に教えてくださりとてもわかりやすいです！
- 研究者の方がていねいに対応して下さり新しい知識や興味が得られた。
- 先生方も一般人とバカにせずちゃんと説明して下さったのですごく良かった。
- 質問をしたら、何でも答えてくださり、またわかりやすく説明して下さったので、とても興味が深まりました。
- ポスターにあることを詳しく説明していただいた上に他にもたくさんのことを教えていただいた点。
- ユニークな研究テーマや取り組みの紹介がコンパクトでわかりやすく工夫されている。
- 内容が分かりやすかった点、ポスターはいいが、ちゃぶ台では研究的な難しいところは聞きにくかった。

〈研究者との直接対話・距離（37件）〉

- 研究者と話せて楽しい。
- 魂の対話できた。
- 研究者の方と近い距離で話すことが出来て良かったです。
- 多様な分野の研究者から直接説明を聞くことができた。
- 普段は関わる機会がないような大学の方とお話しできた点。
- 1対1で質問にこたえてくれるので疑問に思ったことをその場で研究者に聞けて、知的好奇心が満たされまくった。
- 研究者の生の声。
- いろんな研究者の方や、見に来てくれた方と話せたこと。
- 普段交流できない先生等と直接会話できるところ。
- 研究所の方、ご本人のお話を聞けるのは楽しい。
- 実際に研究者の方々と話せる機会。受験のモチベーションにつながりました。
- 直接研究者の方々に最新の研究を聞くことができたこと。受験がんばろう、って思いました。
- 日頃接触のない研究者と直接対面で話が出来るとは、その研究テーマに対する情熱と人柄がよくわかる。
- 実際の研究者の先生方にお会いできる機会があってとてもありがたかったです。
- 実際に研究者の方々と話せることで、熱意も伝わり、すぐにギモンがあれば、聞ける点。
- 本物のプロに質問に答えていただいた。
- 直接質問し直接すぐに聴ける。
- あまり研究者の方と話す機会がないので貴重な体験だったこと。

- 双方向へのコミュニケーションがとりやすかったので、研究者の方に分からないことをどんどん尋ねられたのが良かった。
- 自由に研究者の方と話ができて良かった。
- いろいろなけんきゅうしゃとはなせてよかった。
- 一人一人の話をちゃんと聞いた。

〈気軽さ（9 件）〉

- 貴重なお話が手軽に聞いたこと。
- 様々な分野の話を気軽に聞いた。
- 皆さんとても気さくに話をして下さって良かったです。
- 話しかけやすかった。
- 気軽に覗けて気軽にお話を聞いた
- どのブースも話しやすかった。立ち寄りやすかったり。

〈勉強になった・新しい知見（27 件）〉

- 広い範囲の社会勉強になりました。
- 多様な研究内容を知ることができた。
- いろいろな気づきをいただきました。
- ポスターを通していろんな考えや研究に触れることができた。“たまたま”会った分野に知れた。
- 一般市民でも拝見できて興味深く勉強になりました。
- 子供の目線で話してくださったので、とても勉強になりました。
- 最先端の研究内容を知ることができた点。
- 知らないことが知れて良かったです。
- 様々な新しい知識を得ることができました。ありがとうございました。
- 様々な研究の一端に触れられて非常に良かった。
- ここにきて来て初めて知るトピックと出会えること。
- 実際の影を見ながら学べたこと。
- 今まで知らなかったことにふれられて今後関心が持てる。
- 専攻を広く見ることができ、とても充実した時間でした。
- 時代に必要な情報を得られた。
- 自分の認識論の相対化が少しだけできたと思う。
- 色々なジャンルのポスターが見れて良かった。

〈楽しい・面白い・興味関心（14 件）〉

- 感動的な研究や、話がたくさんあった。
- 興味あるテーマがたくさんありました。
- とても話がおもしろかったところ。
- 普段接することが少ない、いろいろな分野の方のお話をきけて楽しかった点。
- 先生から声をかけて頂きおもしろい話が拝聴できた。
- 話がおもしろく、実際に実物を見たりできた。
- 沈みこんでた知的好奇心がボコボコと出てきてとても良かったです。またよろしくお願いします。
- 子供がパズルや図形の理解興味が深まって大変良かったです。
- 通話することのできない人たちと様々な意見を交換することができ、自分にとって、とてもいい経験になった。
- 面白かった。熱量が伝わって。
- 研究者の方と気軽にお話して新しい知識や興味が生まれた。

〈研究者への気づき（3 件）〉

- 研究者の皆さんが優しかった。

- “スキ”に向かって努力し続けた人たちはとてもキラキラ輝いていました！！
- それぞれの分野が大好きな人ばかりで、楽しそうに説明してくれた。

〈出展テーマの多様さ（13 件）〉

- 種類がとても多い。
- いろんな人に京大の研究の多様さ、面白さを伝えることができたと思います。
- 色んな学科があり、分野のフットワークがかるい。
- 多様な話題。
- 色々な分野の人と話ができた。
- 沢山の種類のブースがあり、とても魅力的であった。
- 多様な研究者の方のお話を聞いて良かったです。
- 異分野交流出来る点。
- さまざまなジャンルの研究者が揃っている。

〈人の多様さ（3 件）〉

- いろいろな研究をされている方がたくさんいるんだなと初めて知れたこと。
- たくさんの人の多様な価値観について知れていい機会だった。

〈人とのつながり（3 件）〉

- 研究者の方だけでなく、そのブースに集まった様々な方と、研究の方を中心にお話しできたところ。
- 様々な価値観に出会えて、知識だけでなく、人とのつながりを感じられて、本当に楽しかったです。
- 人の往来が多かったため、色んな人と交流する事ができた。

〈トーク企画（2 件）〉

- お茶を片手に～のあなたに合う「一冊」を探しに良かったです。ミシマ社の本を探そうと思いました。
- グローバリズムのひずみについての対話がたいへん興味深かったです。

〈企画・運営（29 件）〉

- 最初にピッチプレゼンで全体把握してからまわれたのでよかった。
- ポスター、セッションで見やすい、話しかけやすい。
- お茶を囲んでトーク◎トークのミシマ社の三島さんと藤原先生の対談に参加しました。こういった、研究者×〇〇者のコラボ企画は一般の人の参加の敷居を下げ、お話難しくなりすぎるのが少ないように見え、とても良かったです。
- とても多くの市民の方が参加できていて素晴らしいと思いました。
- 話を聞けなくてもポスターだけでも分かりやすかったこと。
- 長い時間やっていて都合のよいときに来られる。
- 実際に体験できるのもとても良かった。
- 広くだれでも参加できる。
- 分野の違う話を少しの移動で聞けて楽しかった。
- ブースや講演、立話しなど様々な参加方法があった。
- 分野ごとに分かれていて見やすい。
- 自由度が高い（＝色んな人と話ができる）。
- スタッフの方々が細やかに対応してくれた。
- 出前だったのは良かった。
- 街中に出てのイベント。
- スタンプラリー形式で子どもも興味を持って参加できたようにみえたところ。
- どんな人でも参加できるところ。
- グッズがもらえてよかった。

- 説明してくれる人が多くて、ほとんど待たなくてよかった。
- 通行人でも偶々たちよってみようと思ってもらう為の試みは良いと思います。ブースの数が限られてしまいますがちょっと気になります。
- イスですわって話せる所がポスターにあると面白いかも？
- それぞれのブースの大きさがちょうど良い。

〈イベントの雰囲気（8 件）〉

- とにかく話しやすい雰囲気。
- とても活気があるイベントで良かった。
- 全体的に参加しやすかった。明るい雰囲気がすごくよかった。
- 出入り自由で、研究者の方に話しかけやすい雰囲気だった。
- にぎわっていて、参加しやすかった。
- 前回（ロームシアター）より会場の雰囲気は良い。
- 様々な年代が参加しやすい雰囲気でした。
- 気軽に立ち寄れる雰囲気。

〈会場（29 件）〉

- Zest 御池で開催された事 食事が出来る 阪急河原町駅から便利、ほとんど傘をささなくてよい。
- 市民が利用する地下通路での開催はとても新鮮でした。また屋内のイベントでもあり、高齢者や小学生が見に行きやすい会場でした。
- 場所を市内地下街とされた事、天候に影響されにくい、お客さまがふらっと立ち寄れる。
- 場所がオープンで来やすかった。
- とても入りやすかった。
- 交通の便がよいので来やすい。
- 今回はアクセスしやすかった。集中度は京大下実施の方が良かったように感じた。
- アクセスが良い。飲食店も近いので、昼ご飯に困らない。
- ふらっと立ち寄りやすい場所でオープンな感じだったので参加しやすかったこと。
- 立地が良く参加しやすい。
- 気軽に立ち寄れた。
- フラッと来て参加できた。
- いすがあった。
- 研究者と話しやすい環境だった。
- 人気の多い地下街での開催はユニークでオープンな良いところみだと思いました。
- オープンな場でアカデミックを出す。本当に素晴らしいです。
- ゼストという一般の人でも参加しやすい場所を会場にしたところ。
- なんで ZEST? と思ったけど、来てみたらオープンで見やすい、説明聞きやすいですごく良かった。大学でやってた時は行ったこと無いのですが、昨年のロームよりずっといい。来年もここでやってほしい。
- いつもよりスペースが大きい。
- 京大時計台のときより人が多くて、研究者の人のやりがいにつながってよかったと思います。

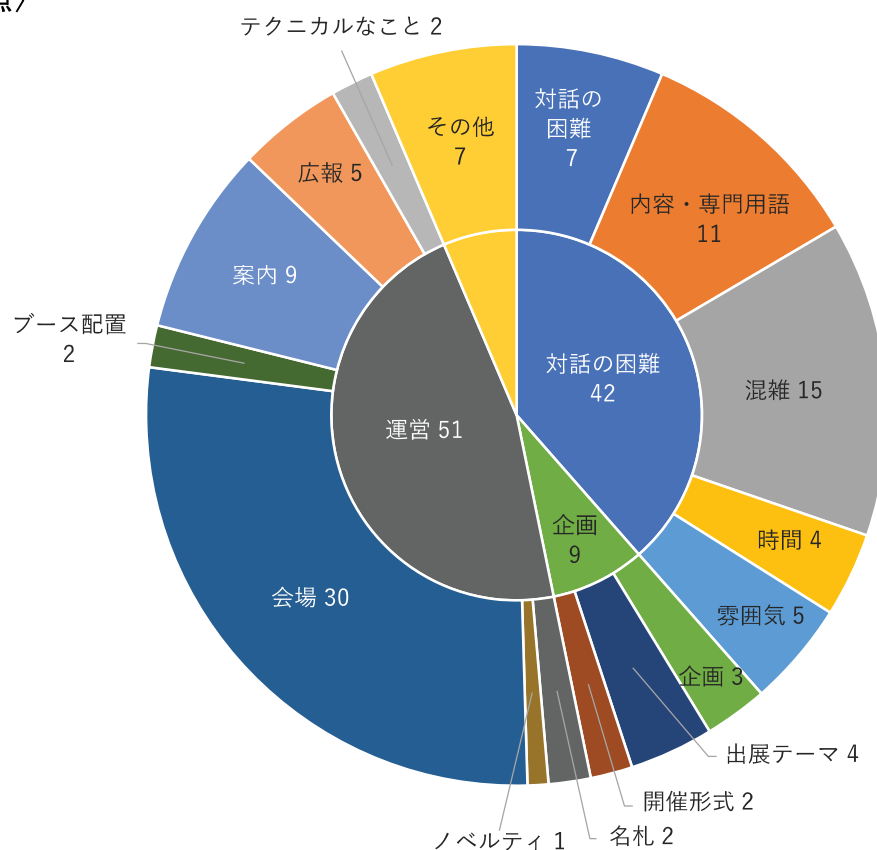
〈今後への期待（6 件）〉

- 研究者が、自分の研究に対し、楽しそうに、笑顔で話して下さるのを見て、好きだから、長く研究続けられるんだと感じ、未来は明るいと思いました。
- 色々大変かと思いますがぜひご継続を！
- 来年も参加したいです。
- また開催してほしいです！
- 次の機会も楽しみにしています。
- 今後も継続期待します。

〈その他（10 件）〉

- もっとゆっくりと見て廻りかったです。
- 女性の方がいらして、ホッとしました。
- 最高でした。 こんでましたね。
- 参加しなかったが、席が空いてれば、次回参加したい。
- 生徒の成長が見れた。
- 最後まで話を聞かせてくれる。

〈改善点〉



(単位：人)

※ 特にないと回答した 215 名は除く。

・主な意見：メインイベント

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：コミュニケーション（7 件）〉

- たまに一方的に話す人がいる。
- 研究者が一人と話し込んでしまうと、なかなか話が聞けないということがあった。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：内容・専門用語（11 件）〉

- そもそも研究テーマと始めた理由ゴールを教えてほしかったです。
- 難しい内容が多かった。
- （子供の視野が広がる）子供と一緒に話聞きやすいブースが増えると良いと思います。
- 専門的な事を予備知識のない者に解説する難しさ・・・研究者の方は努力していると思うが……
- 専門用語多く理解困難ブースあり。
- むずかしいものが多かった（小学3年生にとってです）。
- 説明をもう少し端的にしてほしかった点。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：混雑（15 件）〉

- 混雑していてまち時間が長い。
- 人がたくさんいて話しかけづらかった。
- 人が囲んでいて聞けなかったところがある。
- ポスターを解説してる人が対応してる人終わるまで 話を聞きづらかった。（途中から加わりづらかった）
- 人が多く、行きたいところに行くのをためらうくらい混んでいるところもあった。
- 順番待ちで話を伺えないところもあった。
- 人気な出展では説明してくれる人が少なくて、もう少し多かったらと思った。
- ブースでお話を聞きたくてもなかなか前の方が終わらなかった（仕方ないですが）。
- 人が多くなって話を聞きたくても研究者の人にたどり着けない事があった。
- 人が多かった分、タイミングよく聞きたいブースで話を聞くことはできませんでしたが、それでも楽しかったです。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：時間（4 件）〉

- ちゃぶ台は結構時間かかる（会話に入るまで）。
- 見たいブースを全て見るには時間が足りなすぎる。 ちゃぶ台対話の機会をもっと拡充してほしい！
- 時間が足りない。
- 短い。もっと。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：雰囲気（5 件）〉

- ちゃぶ台は興味があったのですが、あとからだちょっと加わりにくい感じでした。
- ちゃぶ台が人気で途中から参加しづらかった。
- ブースで既に輪ができていと少し加わりにくかった。
- 落ち着いた雰囲気ではお話しできなかった。

〈企画に関するもの：全体（3 件）〉

- 悪かった点とは決して思いませんが、町に飛び出してる企画でしかできないことは何だろうと考えていました。
- 体験型が少なかった。
- ポスターが多かった。

〈企画に関するもの：出展テーマ（4 件）〉

- 文系が少ない気がする。
- 法学部系の親しみ易い内容の発表があってもいいかなと思いました。
- 人文系の研究者の参加が少ない。
- もっと幅広い分野で実施して欲しい。

〈企画に関するもの：開催形式（2 件）〉

- オンラインもあったらうれしい。

〈運営に関するもの：名札（2 件）〉

- 名札はいらないかなと思います。
- 一般人には名札が恥ずかしいので、結局バッグに入れてました。

〈運営に関するもの：名札（2 件）〉

- お水は最後でなく途中でいただきたかったです。

〈運営に関すること：会場（30 件）〉

開催場所（7 件）

- 時計台でもやってほしい。
- 京都大学でやってほしいです。
- この場所で開催した点（京大の中でしてほしかったです）。
- 吉田キャンパスでやって欲しかった。
- 会場を京大に戻していただきたい。今回の会場は分散しており、非常に不便であった。

会場の構造（10 件）

- 会場が広く行き来が大変だった。
- 歩く距離が長く、あまりすわれないのが。
- 3つの通りに跨っているため、移動が少し大変でした。（その分、声の反響は少なくて済みますが）
- ポスターのブースが分散しているのでまとまりに欠ける。
- 各会場との誘引性や統一感があってもよいかも。
- 京大内よりせまく？人口密度が高いので。

設備（13 件）

- 何往復もして疲れた。座れる場所がほしい（市役所前広場以外で）。
- いすがもっと欲しい。
- もう少し休めるスペースを作った方が、高齢の方々にとっていいのではないかと思います。
- ブースによっては、待ち時間が長く、休憩所、いや荷物置き等あればさらに良かったと思います。
- ひとがたくさんで、暑かった。
- （建物のせいではあるが）蒸し暑かった。
- ちょっと暑かったです。
- 少し空気の循環が悪い場所があった。

〈運営に関すること：ブース配置（2 件）〉

- 私を含め、現在の依然とした感染症の流行のために、念のためマスクを着用している人も多く、ちゃぶ台ブースの隣でマイクを使った発表があったので、少し集まった方の声が聞きづらかったです。（研究者の方の声は聞こえました）
- ブースが3つにわかれているのはいいが、少し遠い。

〈運営に関すること：案内（9 件）〉

- 何がどこで行われているのか分かりにくかった。
- 場所が分散してわかりづらい。
- どういう手順で、どこに行けば良いか、少し分かりにくかった。
- 昨年度と比べて、レセプションの場所が分かりにくい。
- 11:00 スタートの始まりが分からなかった。
- ゼスト御池の地上出入口にも看板があるとより分かりやすかったかなと思います。
- パンフレットの字が小さ過ぎて読みにくい。改善を求めます。ページも増やしてください。
- パンフレットの文字を大きくして、各ブースの要約版が欲しい。小さい文字だとかなり読みにくいです。

〈運営に関すること：広報（5 件）〉

- 息子は高校生ですが学校などでの案内が全くなかった。知らない人が多いのが残念。
- 広報をさらに充実するとよい（せっかくの良い企画なのに知らない人が多い）。

- もっと広報をしてほしいです。京都以外にも発信すべきです。京都旅行のついでに寄ってみようと思ってもらう位に考えられたらと思います。
- 当日になるまで知らなかった。

〈運営に関すること：テクニカルなこと（4件）〉

- トーク◎トークで2つのセッションを聞きましたが、椅子に座るのが長い時間にわたり痛かったです。
- トークセッション途中でマイク不調。
- 声が広がる空間なので、特に膝詰め対話は、小型スピーカーがあるとよいと思いました（使っておられる先生もいました）。

〈その他（7件）〉

- 子どもを連れて行きましたが、（小3・中1）彼ら彼女らには研究者に話しかけるハードルはまだまだ高いようでした。
- もう少し早い時間に来ればよかったです。
- 学科が多すぎてすべて学べない。

3-2. 出展者アンケート

■ 3-2-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

- ・ ウェブフォームから回答
- ・ 連絡担当者を通して参加研究者全員にウェブフォームからの回答を依頼
- ・ アンケート受付期間：9 日間

〈設問〉

- ・ 問 1. 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。（回答必須）
[選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]
 - (a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた
 - (b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
 - (c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
 - (d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
 - (e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた
 - (f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
 - (g) 参加は日々の研究活動の負担となった
 - (h) 機会があったらまた参加したい
 - (i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい
 - (j) 他の研究者との交流の機会になった
- ・ 問 2. 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or 必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。
（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）
- ・ 問 3. 来場者と対話をする際に、どのようなことが特に印象に残りましたか。差し支えなければ、その理由とともにお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）
- ・ 問 4. 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）
 - 4-1【良かった点】
 - 4-2【改善点/課題】
 - 4-3【今後に向けた提案】

- ・ 問 5. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。
(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)
- ・ 問 6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。
(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)
- ・ 問 7. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。
(回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。)
- ・ 役職 (回答必須)
[選択肢：教授、特定(特任)教授、准教授、特定(特任)准教授、講師、特定(特任)講師、助教/助手、特定(特任)助教/助手、研究員、博士課程(博士課程後期)大学院生、修士課程(博士課程前期)大学院生、その他]
- ・ 研究分野 (回答必須)
[選択肢：社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系]
- ・ お名前 (回答必須)
- ・ ご所属 (回答必須)
- ・ ご連絡先 (E-mail) (回答必須)
- ・ 出展代表者並びにメンバーの氏名、ご所属、職名(または学年)については、出展申込書の情報をもとに報告書に記載する予定です。出展申込書に記入いただいた時点からいずれかの情報に変更がある場合は、変更点をご記入ください。
※ 出展申込書に記載がないメンバーで、報告書に記載されたい方がいらっしゃる場合、氏名／ご所属／職名または学年をご記入ください。

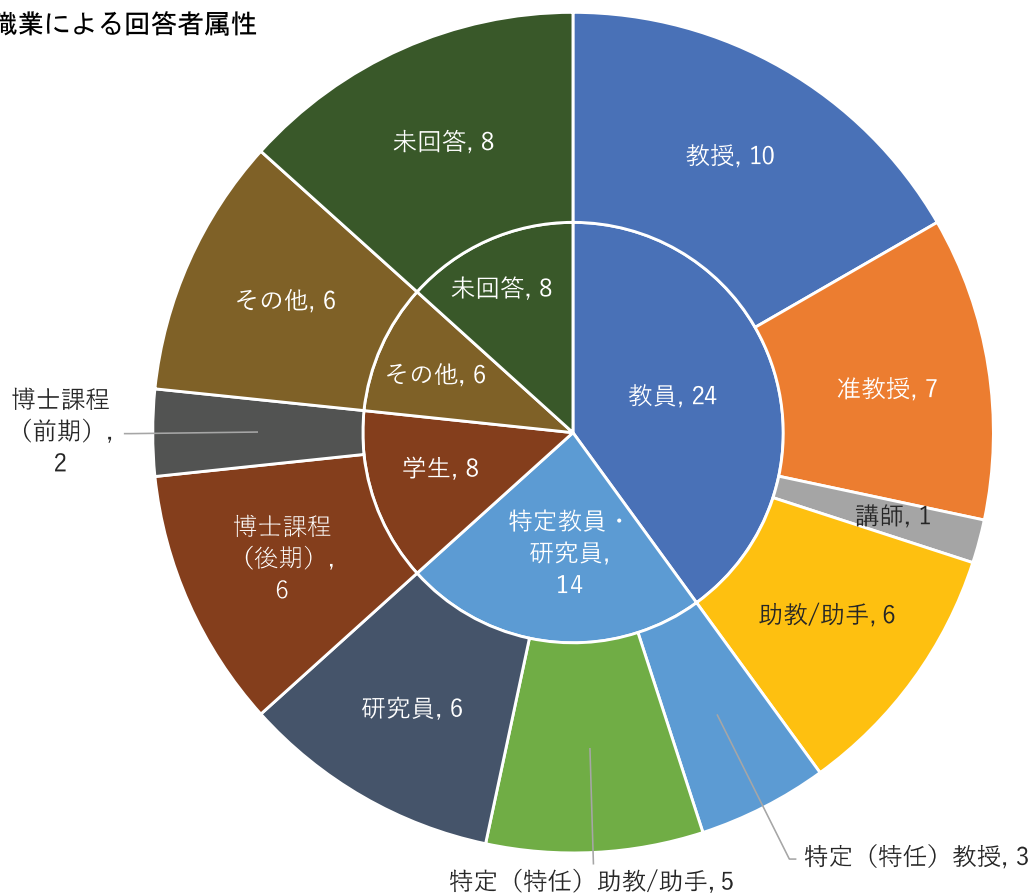
■ 3-2-2. 「出展者アンケート」の結果

出展者数 131 人

回答者数 60 名（回収率 45.8%）

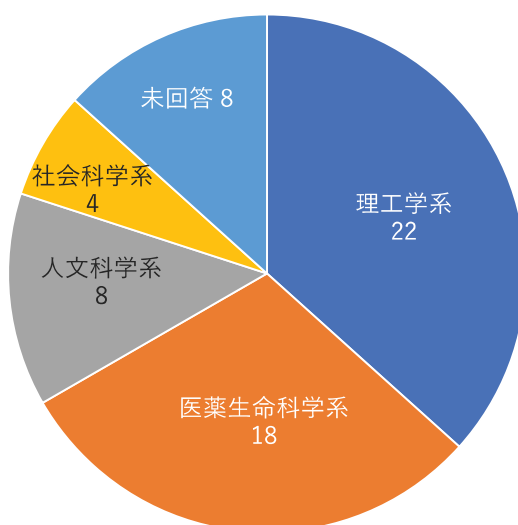
● 回答者の属性

・職業による回答者属性



（単位：人）

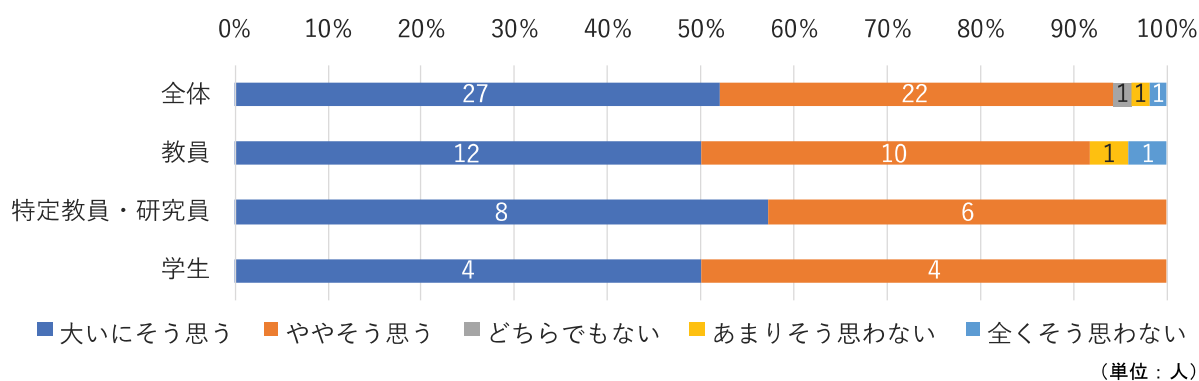
・専門分野による回答者属性



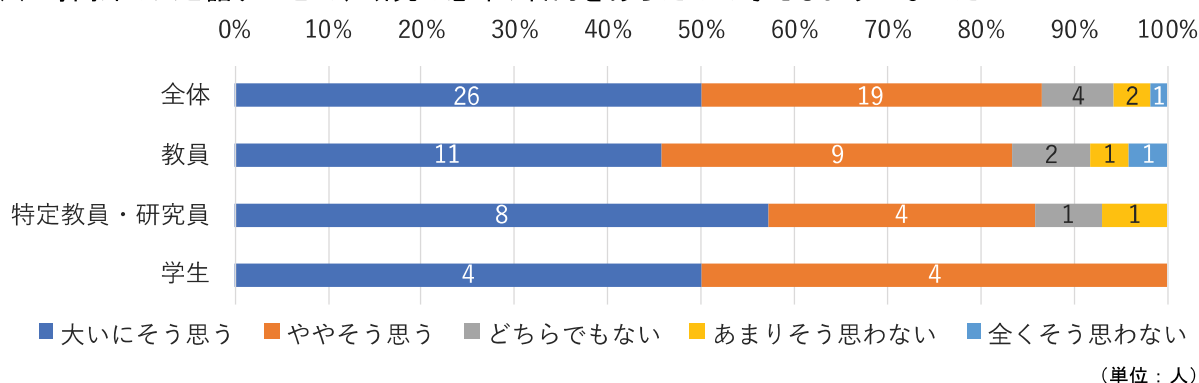
（単位：人）

● 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

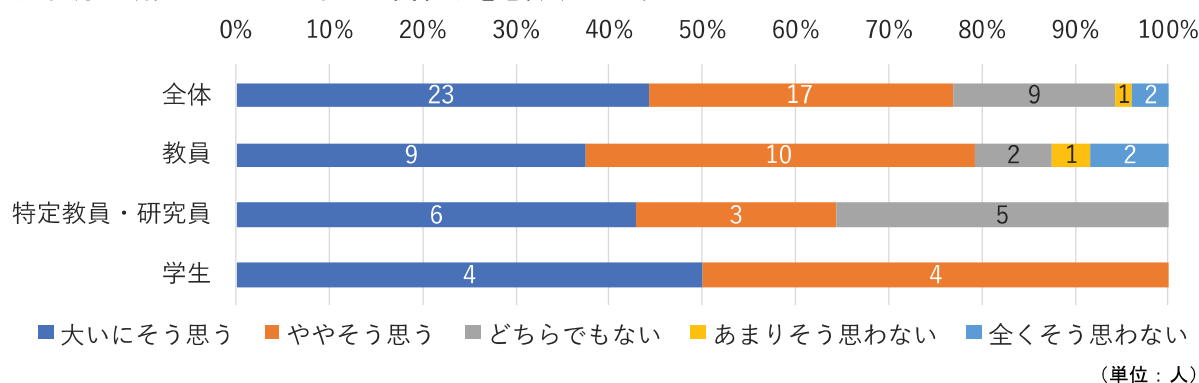
(a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた



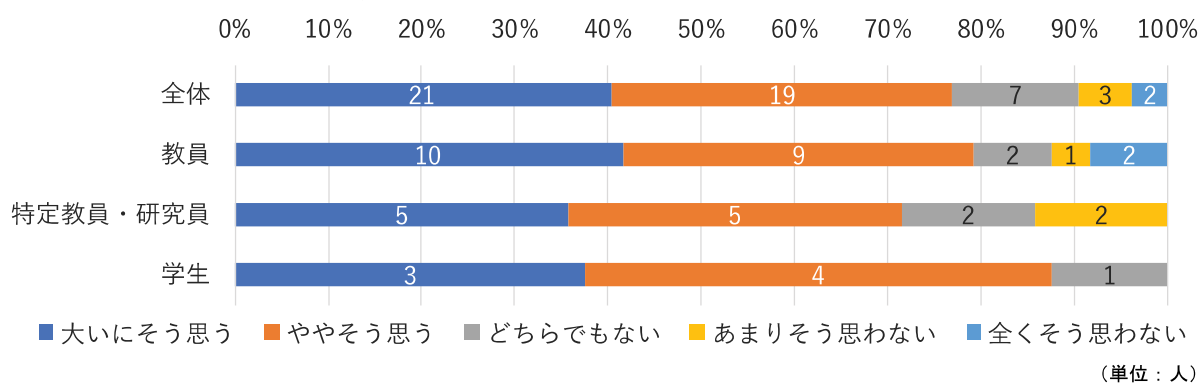
(b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった



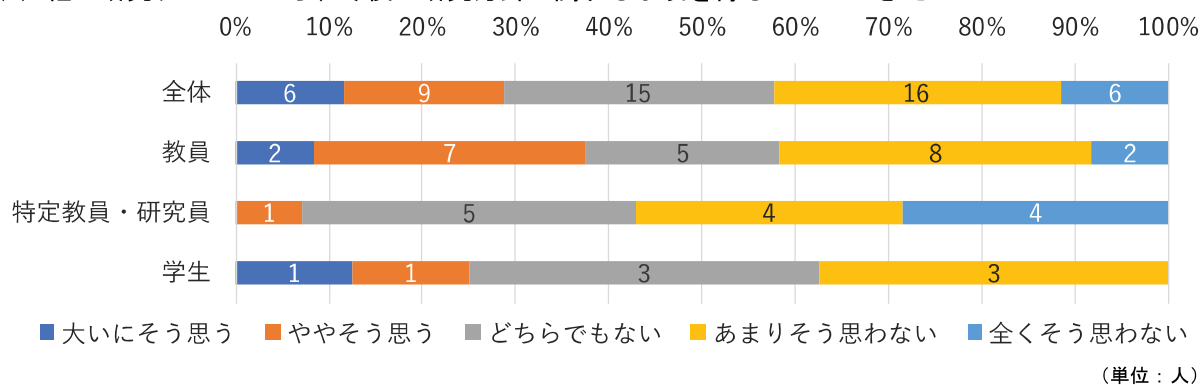
(c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった



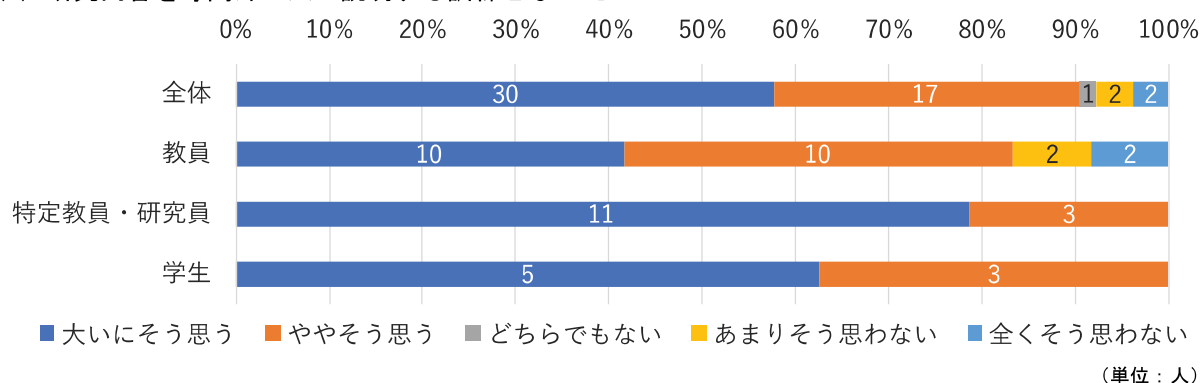
(d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた



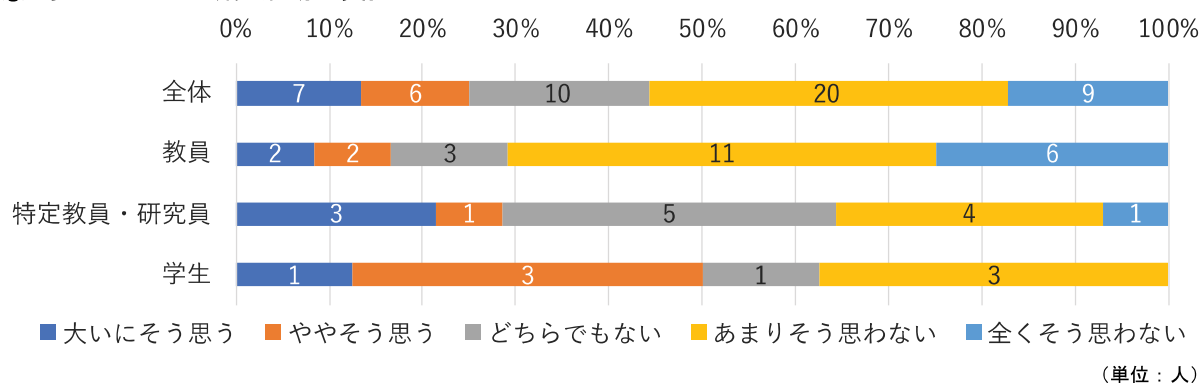
(e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた



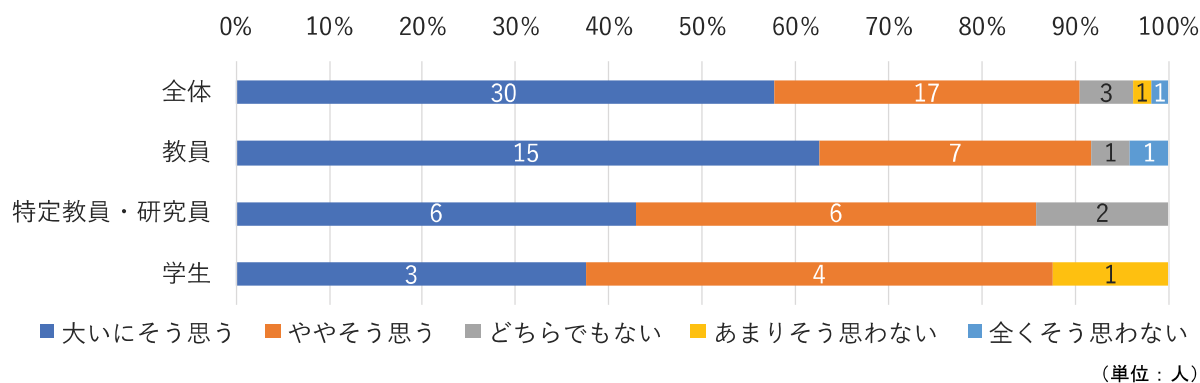
(f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった



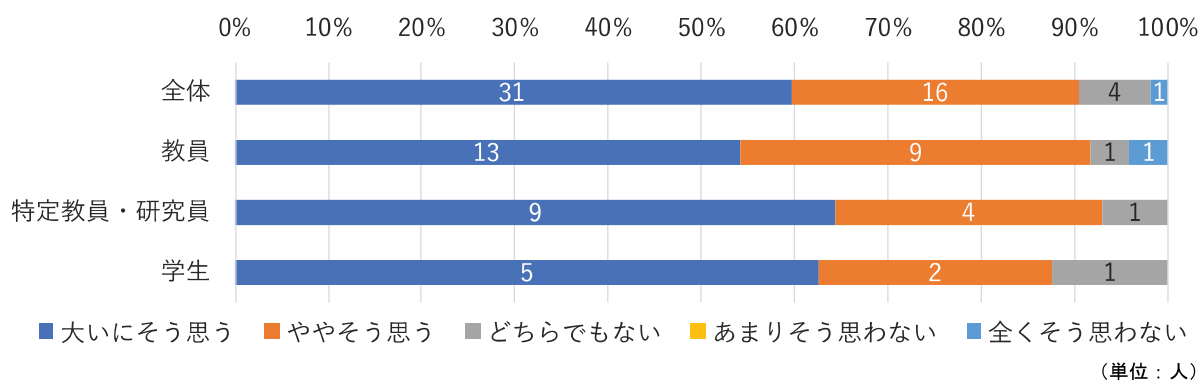
(g) 参加は日々の研究活動の負担となった



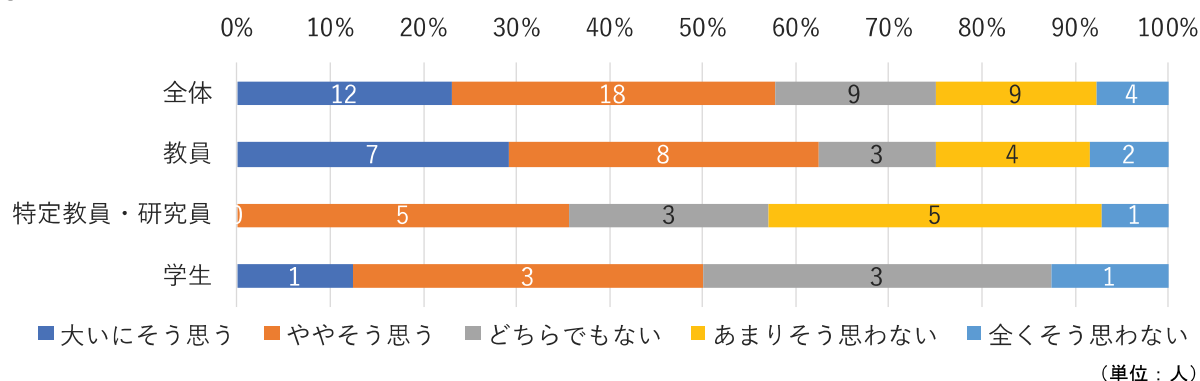
(h) 機会があったらまた参加したい



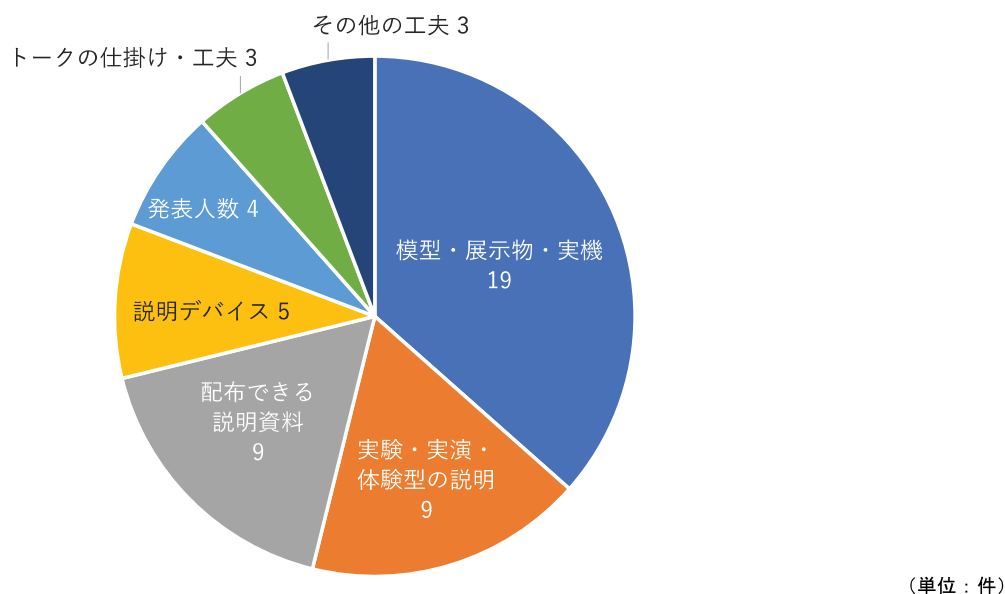
(i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



(j) 他の研究者との交流の機会になった



- 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った (or 必要だと感じた) 工夫やコンテンツがありましたら書き下さい。



〈模型・展示物・実機（19 件）〉

- 研究に関わりのある写真やグッズなど。（社会科学系）
- 触れる展示が集客に役立ったと感じた。（理工学系）
- 一般のお客様に、原子をわかりやすく説明するために、ライトがつくキラキラボール。ホワイトボード。（理工学系）

- ポスターやスライドは役に立ちましたが、音声を聞かせるのは周囲がにぎやかなので少し難しいところもありました。（人文科学系）
- 火山に見立てた加湿器からの煙や実際の火山灰や軽石は特に子供達の興味を引くきっかけとなった。（理工学系）
- 写真や動画など視覚に訴える展示を準備しておく必要があったと感じた。ポスターの写真を大きくしたり、タブレットを活用したら良かった。（理工学系）
- 大人向け（ポスターなどの研究紹介）と子供向け（何かの器具や観察するもの）の両コンテンツが必要。（医薬生命科学系）
- 紙芝居式の説明資料。現物の展示。（医薬生命科学系）
- 実際に手に取って体験できるもの（ピペット）は、眺めるだけのものより関心を持ってもらえたと思うので、用意しておいてよかった。（医薬生命科学系）
- 水だけで動く「水飲み鳥」を展示したら、子どもたちに非常に興味を持たれました。「動くもの」を展示するのは効果的だと思います。（医薬生命科学系）
- YouTube の動画。（医薬生命科学系）
- 模型や動画があってよかった。（理工学系）
- 補足資料・視覚的に理解を助けるための小物（原子を表すための光るボールなど）は役に立った（理工学系）
- デモ用の太陽電池。（理工学系）
- 地震観測や防災教育の映像を用意していた。映像は、来場者に研究活動を知っていただくうえで有効なツールであった。（社会科学系）
- アンケート、研究紹介動画。（理工学系）

〈実験・実演・体験型の説明（9 件）〉

- 「話し言葉の非流暢性」がテーマでしたので、ポスターに掲載されている発話の実際の音声を、PC+スピーカーで流しました。特に「非流暢にしゃべる AI」の音声は、聞きに来てくださったお客様にとっても受けていました。実際に音声を聞かせるデモを準備しておいたのは、得策だったと思います。（人文科学系）
- 実際のサンプルを使ったデモンストレーションを用意しておいたおかげで、小学生以下のお子様にも楽しんでもらえた。（理工学系）
- 火山に見立てた加湿器からの煙や実際の火山灰や軽石は特に子供達の興味を引くきっかけとなった。火山に興味があるかどうかを縦軸に、噴火に対してプラスかマイナスのイメージがあるかを横軸にシールを貼ってもらった。興味深い結果がでた。（理工学系）
- サンプルの実物や動くものを用意していたので、特に子供が興味を持ってくれた。（理工学系）
- 子供も来ることがあったので、手で触って体験できるものも用意したのは特に良かったと感じた。（医薬生命科学系）
- T4 ファージの模型（ガチャガチャの景品に入っているもの）や、たんぱく質の 3D プリンタによる出力物なども面白かったようです。「手に触れる」ものも大事ですね。（医薬生命科学系）
- 簡単な実験を準備したので、来場者は説明を聞くだけでなく、具体的な体験を通して内容を理解しやすくなったように思う。（理工学系）
- エッセンスを体験できる実験キットは役に立った。説明で聞いたことが目の前で再現されると分かった様子であった。（所属未回答）

〈配布できる説明資料（9 件）〉

- ポスターに人が結構溜まるので、後ろの人は見えづらく、配布用にポスターを A4 で印刷しておいたチラシを用意してあったのは良かった。またあとから内容を見返せるので、関心のある人には配った。またいくつか論文も印刷して関心のあるひとに何部か持って帰ってもらったのはよかった。（社会科学系）
- ポスターのミニサイズ版（A4 2 枚）を手持ち資料として準備しておいたのが役に立ちました。ポスターの前に人だかりができてしまい、後ろの方が見えない場合に、それを使って解説をしていました。（人文科学系）
- アンケート調査に協力していただいた方に桜島のクリアファイル（DPRi のロゴ入り）などを配布したが、記念になったのではないかな。（理工学系）
- ポスターのコピー（A4）や論文を準備しておいたのが役立った。（理工学系）
- ポスターの縮小版が欲しいという声が多かったので、お渡しできる範囲のダイジェスト版などの準備も必要だと感じた。（医薬生命科学系）

- ビデオへのリンクや簡単なアンケートを掲載したリーフレットを作成し、来場者と議論するのに役立てた。（理工学系）
- 簡単なものでもありましたが、配布用の冊子を用意してよかったと思います。（理工学系）
- ポスターの A4 縮小版が役に立った。（理工学系）
- A0 のボードが役に立ったと思います。たくさんの方が同時にブースにいらっしゃった際に、展示ボードに掲示した研究説明資料の前に集まっていただくことがスペース的に厳しい時がありました。そうした際に、動かせる説明資料を持っていたことで対応できたため、単に掲示資料だけでなく配る資料や動かせる資料を持つ必要があると感じました。（所属未回答）

〈説明デバイス（4 件）〉

- 紙芝居のようなフリップ。（医薬生命科学系）
- 詳しい説明が必要になった時のためにパソコンとか iPad も用意して行っただけですが、一度も開いて見せる機会はありませんでした。（医薬生命科学系）
- 紙芝居を用意したことで、口頭で説明するよりもはるかに多くの参加者に説明を伝えることができたと感じた。（理工学系）
- 対話にモニター（動画）が役にたった。（理工学系）

〈発表人数（4 件）〉

- 研究者 2 名と受付 2 名で対応したが、予想を上回る数の来訪者で他のブースを見学する余裕がなかった。（理工学系）
- 3 名で発表したが、それでも（ありがたいことに）ひっきりなしに来場者が来て、休憩はほとんどできなかった。発表者は 5 名位いてもよかったかなと思うので、「1、2 名では発表当日の負担は大きくなります」というのを事前にアナウンスいただくと、人選がしやすく、当日も負担小で行えたかと思います。（理工学系）
- 想像以上に来場者が絶えることがなく、交代要員をもっと確保すべきだった（一般の来場者対応で手一杯で研究者同士での交流をする余裕はあまりなかった）。（理工学系）
- 想定よりも来客者が多く、説明員 2 人だけでは対応しきれなかったため、参加者を増やすべきだった。（理工学系）

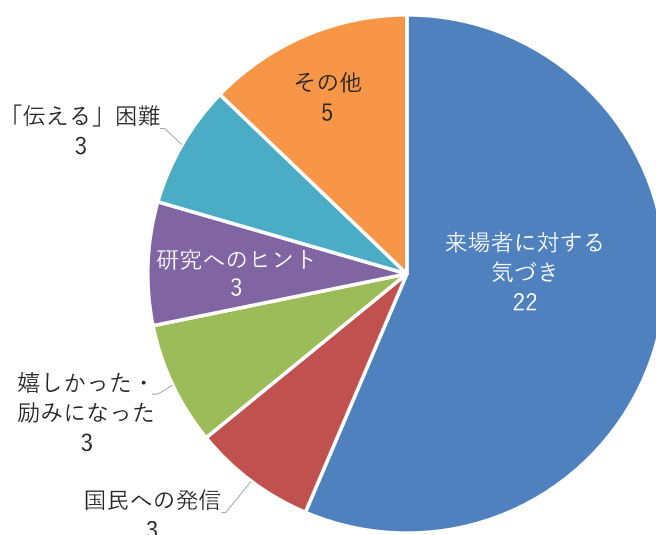
〈トークの仕掛け・工夫（3 件）〉

- 簡単な図式のイメージアンケート：当該研究に対してのイメージ（プラスイメージ or マイナスイメージ）を事前に確認することでその後の会話に変化をつけることができた。（理工学系）
- 研究内容やお話しするトピックをまとめたメモ。（医薬生命科学系）
- 一方的に説明するだけにならないようにちょっとしたアンケートを実施したため（シールを貼ってもらう、QR コードの掲示など）、出展者側にもフィードバックがあって良かった。（理工学系）

〈その他の工夫（3 件）〉

- 名刺交換を求められる場合があったので、事前に名刺を置いておいてもよかった。「京大アカデミックディ」なので京大（あるいは京大の発表者所属部局）に関心のある人が来ており、京大や所属部局の説明を求められることもあった。発表者に学外者を含む場合には、京大や所属部局の概要を事前に説明しておくべきだった。（理工学系）
- トークについては、みんなそれぞれのブースを見るのに忙しく、会場にお客さんが多くなかったのは少し残念でした。ステージで開催するのがいいのか、主催者がカメラとともにいろんなブースにいったインタビューするのを YouTube Live のような形で放送するのがいいのか、少し検討してもいいかもしれません。（御幸町から往復するのも結構きつかったのだ）。各地区にモニターを置いて同時中継、とかでもいいのでしょうか？ いずれにしても手間がかかると思いますので、現実的ではないかもしれません。（医薬生命科学系）
- 自分が思っていた以上にたくさんの方が来てくださったのは非常に良かったと思います。しかし、来場者に説明するだけでほとんどすべての時間を使ったので、他のブースの話を全く聞く時間が取れなかったのは想定外でした。それでも、17 時を過ぎるとだんだんと来場者が減っていったので、17 時で一旦終了として 18 時から他のブースを見に行く時間にするのも良いのではないかと思います。10 時から 11 時の間にもう話を聞きに来る人が来て、この時間枠に他のブースを見に行く時間が取れなかったのも予想外でした。（理工学系）

● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？



(単位：件)

〈来場者に関して、気づいたこと（22 件）〉

- 多くの生徒が医者になることに興味を持っていた。（医薬生命科学系）
- 「この分野には全く親しみが無い」という来場者も、年齢を問わず、ひとたび説明を始めると興味を示し、多くの質問をしてくれたことが印象に残りました。（人文科学系）
- 小学生の男の子がメモ帳を持ちながら、話を聞いてくれた。説明を聞いたあとで、あとでまた 2、3 回来て、質問してくださる方がおられた。（理工学系）
- 様々な方がいらしたので、普段の研究者同士の交流とは異なる質問を受けたことが印象に残りました。（人文科学系）
- 一般の方々が、研究成果のみならず研究の具体的な内容にまで興味をお持ちで、積極的に質問をされていたことに大変驚いた。自らの研究内容について、一般の方も理解していただけるよう分かりやすい説明を考えることの重要性に思い至った。（医薬生命科学系）
- 研究の方法や理論だけでなく、研究の応用に興味を持っている人も多いと感じた。（医薬生命科学系）
- 京都には活火山がないので興味の無い人が多いのではと想像していたが、実際はほとんどの来訪者の人は火山に興味を持っていることがわかった。（理工学系）
- 自分たちよりも細かなことを知っている来場者もあり、勉強になったこと。来場者の関心はそれぞれなので、個別の関心と研究内容を如何に結び付けられるかが重要で、それが結びついたときはかなり興味をもって聴いていただけたこと。（理工学系）
- 来場者の国際政治と歴史に対する関心の高さには驚かされた。（人文科学系）
- 研究内容の関連もあって、身近に病氣を持つ人がいる参加者は、話を真剣に聞いてくれる。（医薬生命科学系）
- 来場者の興味。自分の興味と重なり、より普遍的なテーマになりうると感じた。（医薬生命科学系）
- 来場者の多くは知的で熱心に質問をされていた。（医薬生命科学系）
- 専門家が疑問に思わない点の疑問が印象的であった。これまでの当たり前を考えなおすきっかけになった。（医薬生命科学系）
- 参加者同士の会話が好評で、老若男女が同じテーマで気軽に話せる場がお互いが良い刺激になったようです。話のネタ提供として、研究の紹介があったように思います。（医薬生命科学系）
- iPS 細胞研究に関わっているが、来場者が iPS 細胞に関心があることが印象に残った。来場者の親族に病氣な方がおり、その病氣を iPS 細胞で臨床応用しているため関心があるようで、想像していたよりも iPS 細胞は身近な存在で期待している人がいるんだと感じた。研究活動を頑張っていきたいとも思えた。（医薬生命科学系）
- 参加者の年齢層が想像以上に多様だった。また、単独開催ということもあってか、想像をはるかに上回る参加者にお越しいただいたことも印象的だった。（理工学系）

- この分野に対しての背景知識は人によって違うので、それを意識して対話する必要があると思いました。（理工学系）
- 皆さん興味を持ってきている。（理工学系）
- 来られる方がどなたも、とても興味を持って聞いてくださったのが印象的でした。展示内容のことや、研究生生活についても色々質問を頂き、日頃研究者以外と交流する機会が無いだけで、実は興味を持たれている方が多くいらっしゃるということが分かりました。展示内容に近い内容に興味を持って進学を考えている方も何名か来られ、非常に志が高く素晴らしいと感じました。自分が受験生の頃は（環境の違いもありますが）このような場が無かったので、とても良い機会になっているのではと思いました。（理工学系）

〈国民への発信などに関して、気づいたこと（3件）〉

- 多くの方々が、基礎的な内容よりも、社会にどう活かされるのかに興味があるのだと分かった。（理工学系）
- 小学生や中学生を連れた家族の来客者の場合、子供の教育のためにという意識が強かったように感じた。質問することが大事なことを子供に話したが、それを聞いて親御さんがとても喜んでいて。（理工学系）
- 理学、工学、社会科学が連携して研究活動を行っていることを説明した際、こちらが思っていた以上に、学際研究に対して関心を持ってもらえたこと。（社会科学系）

〈嬉しかった・励みになった、と感じたこと（3件）〉

- 一緒に話して、研究の概念や用語、コンセプトが理解できたと来場者から言ってもらえたことがとても嬉しかった。とてもやりがいがあった。（医薬生命科学系）
- 親子で来られた方で、研究で使っている装置がお父さんの勤める会社のものだとわかり、お子さんに「お父さんのお仕事が研究に役立っているよ！」と説明していた。お父さんの家庭内地位向上の一助になれたかと思いました。（理工学系）
- 多分、いろんなバックグラウンドの方が来られていたのだと思うが、自分自身の人生とはかかわりのなさそうな研究でも、その研究の意味を自身の暮らしや人生の文脈に置いて理解してみようとする方々がいて、励みになりました。（理工学系）

〈研究に関して、ヒント・気づきを得たこと（3件）〉

- 学校の先生が何人か来てくださり、子どもたちの非流暢性について教えてくださったことがとても印象に残りました。現在の私たちの研究プロジェクトでカバーできていない部分なので、次の研究課題のヒントをいただいた気がしました。（ありがとうございます。>先生方）（人文科学系）
- 自身の研究対象について、「どうすれば（商用）利用できるのか」という質問が印象的だった。これまで私自身では考えてこなかった観点だったので、とても新鮮で少し視野が広がったように思う。（理工学系）
- この研究でこんなことができたなら良いな、という希望を話してくださったこと。ある方は「ただの妄想なんですけど」と仰っていたが、研究の始まりはその「妄想」にあると思うので、改めて大事なことに気づかせていただいたので印象に残った。（所属未回答）

〈「伝える」ことに関して、困難を感じたこと（3件）〉

- お話しした方は全員、予備知識のレベルがバラバラでしたが、どの程度概念は簡単な説明にしなければならなかったのか、逆にこれは専門用語を使わないと伝わりにくい、などと対話の中で探っていくのがなかなか面白かったです。（理工学系）
- 話をする前はどのレベルに合わせて良いのかわからない。（理工学系）
- 印象として、時計台のときは高校生、今回は小学生が多かったように思う。小学生は興味を持たない内容にはすぐ飽きる傾向があると感じ、どのように説明を工夫して興味を持たせるかの重要性を再認識した。（理工学系）

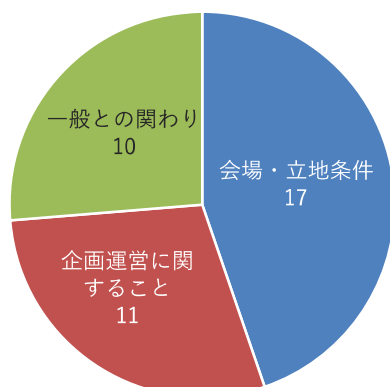
〈その他の気づき、印象に残ったこと（5件）〉

- 色んなブースではなしを聞いてシールを集めている人が見受けられたが、シールはランダム配布なのかあるいは文系/理系といったカテゴリで分かれていたのか気になった。色んなブース周りを促すために張る台紙をスタンブラリーみたいにしてもよかったのかなとも思った。（社会科学系）
- 今まで今回のように一般の方と研究内容について話す機会があったので、良いとか悪いとかではなく、特別印象に残ったことはありませんでした。（医薬生命科学系）

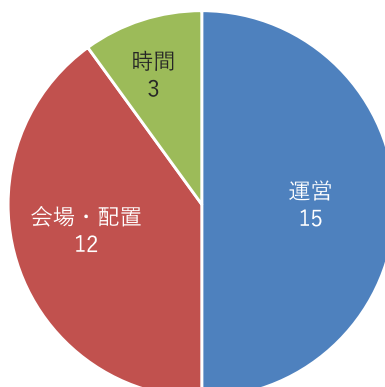
- 率直なフィードバックと研究の限界についての理解が得られた。（理工学系）
- 昔の同級生が聞きに来たこと。（理工学系）

● 今後の「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見

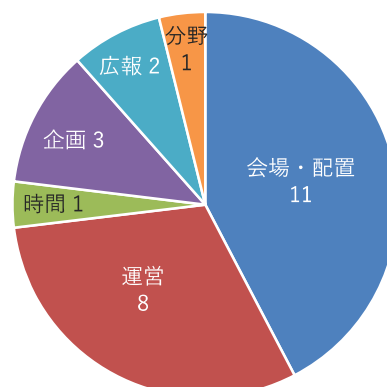
〈良かった点〉



〈改善点〉



〈今後に向けた提案〉



（単位：件）

〈①良かった点〉

会場・立地条件（17件）

- 今回、ショッピングセンターでの開催で、その場で参加を考えた人も一定数いるのではないかと考えると、今回の開催場所は、大変良かったと思う。交通の便も大変良かったと思う。（医薬生命科学系）
- ゼスト御池での開催。（理工学系）
- 駅直結のショッピングモールの中で、アクセスがよかったこと。（人文科学系）
- 科学を大学内に留めるのではなく、一般の方々へと開放したのはよかった（京大ではなくゼストで開催したこと）。（医薬生命科学系）
- ゼスト御池開催は集客力が高く非常に良かったです！（理工学系）
- 半公共空間での開催であり、来場者は足を運びやすかったのではないかと。（理工学系）
- 学外のオープンスペースでやるという試みはとても良かったと思う（興味のない人にも存在を認識してもらうという意味で）。（理工学系）
- 今までと違って、科学に興味のない人もふらっと立ち寄れる状態になっていた点。（医薬生命科学系）
- スペースにゆとりあり、人の流れもある会場であり、混雑なく（しかし途切れることなく）対話できた。（医薬生命科学系）
- たまたま商店街を通りかかったような人たちも含め、いろんな種類の人たちに触れ合えた点。（医薬生命科学系）
- 学外で実施することで、よりフランクに話ができるような雰囲気になっていたと思います。（理工学系）
- ゼストのような公共の場でやっても来場者が多数来てくれたこと。（理工学系）
- 学外の御池ゼストだったので、思ったよりも多くの人に来てくれた。（理工学系）
- 会場。ぶらっと立ち止まってくれた人もいたため。（社会科学系）
- 休憩は圧倒的に時計台よりゼスト御池のほうが便利であった。（理工学系）
- ゼスト御池で開催したこと。（理工学系）

企画運営に関すること（11件）

- シールを集める企画。小さいお子さん等、楽しそうに参加されていました。（人文科学系）
- 「シール集め」は、とてもよいアイデアだと思いました。子どもたちだけでなく、大人も必死に集めていましたね。（人文科学系）
- 会場の選択、ポスターの設置スペース、電源、モニターや資料の受け取りや発送など助かりました。（理工学系）
- よく運営されていたと思います。（人文科学系）

- 全体的に良かった。スタッフも親切に対応してくれた。あと時間がなく余裕がない状態だったので、水の配布は非常に有難かった。（医薬生命科学系）
- ほとんどの点で良かったと思います。（所属未回答）
- アカデミックデイ事務局の方のきめ細かいサポート（休憩・ピッチプレゼンの誘導など）（医薬生命科学系）
- お祭りのような楽しい雰囲気作り。（医薬生命科学系）
- アカデミックデイの企画自体が良い。（医薬生命科学系）
- 素晴らしい運営をありがとうございます。（理工学系）
- ピッチトーク、あってよかったと思います。（理工学系）

一般の方との関わり・全体の雰囲気（10件）

- 休憩が回すのが大変なくらい人が来て、参加人数が多くて良かった。（社会科学系）
- 老若男女問わず研究に興味を持ってもらいうい機会になった。（理工学系）
- 一般の方にどのような研究でどのような成果をあげているのかを知ってもらえた点。（理工学系）
- 一般の方に研究内容を話す機会を得られたこと。（人文科学系）
- 熱心に聞いてくださるので、研究に興味をもっている学生さん、研究に興味をもってもらいたいと思う家族がいることを知ることができた。（理工学系）
- 学生、家族連れなど、様々な人と交流できた。（理工学系）
- 自分の研究に対する一般の方の関心や疑問を知ることができた。研究者や一般の方など色々な方と知り合うことができて良かった。（医薬生命科学系）
- 想像を絶する来場者数で、自分の研究に関する国民との対話が十分に出来た。（医薬生命科学系）
- 一般の方と研究について対話できるのは良かったです。（理工学系）
- 例年よりたくさんの方にご来場いただけました。他の出展も、とても充実していて、良い意味で圧倒されました。（医薬生命科学系）

〈②改善点、今後に向けた提案〉

会場・配置について（改善点：12件/提案：11件）

- ポスターを張り付けるボードが画鋲を刺すには固かった。（社会科学系）
- もう少しスペースに余裕があれば助かりました。（理工学系）
- 私たちのブースでは、デモとして発話の音声を流していましたが、周囲の環境音に負け、なかなか聞き取りにくい状況でした。あの環境では仕方ありませんが。（人文科学系）
- ゼスト御池で開催したことで、いくつかのブースは総合受付から非常に遠いと感じました。階段の近くのブースはとても暑く、蚊がたくさんいました。（医薬生命科学系）
- 駅から遠いほど人が少ない傾向にあった。（医薬生命科学系）
- 難しいですが、場所による人の集まり具合にバラツキがあったかもしれません。（所属未回答）
- 無線LANがあればありがたかったかと思います。（所属未回答）
- 舞台がちゃぶ台トークの近くにあり、マイクの音で会話がしにくくなってしまうことがあった。（医薬生命科学系）
- 広場の面積があまり広くなく、音も響きやすいため、かなり大きな声で話さなければならない場面もありました。（理工学系）
- 端のスペースだったので、他よりも少し狭かった。（理工学系）
- それぞれの広場の間の距離が離れているので、横の交流はやりにくいと感じた。（理工学系）
- 次回も、このようなショッピングセンターでの開催が望ましいと思う。（医薬生命科学系）
- 大きなくくりでは、似てる分野が続くと、ここが違うポイントなどを来場者にわかるようにお知らせできたらいいかなと思いました。（理工学系）
- 公共の場でこのようなイベントをやることは素晴らしいと思うが、ゼストよりもいいところがあるかもしれない。（医薬生命科学系）
- 遠方（中国地方、東海地方）からの来場者もいたので、京都駅近隣の会場でも良いかもしれません。（ただ、混雑しすぎる可能性もあるので、ゼスト位がちょうどよかったのかもしれない。）（理工学系）
- 年に2回行うなら、一般会場と大学内を1回ずつ。（医薬生命科学系）

- ふたば書房さんだけでなく、他にもスポンサーさんを集められればさらに盛り上がりのあるイベントになるのかなと思いました。（所属未回答）
- 舞台の音が 研究者と参加者の会話を妨げないよう、時間を分けるか マイクの音量に配慮するか、場所の配置に工夫がいたると思いました。（医薬生命科学系）
- 前回のロームシアターのほうがよかったです。（医薬生命科学系）
- 学外の人が集まるところで開催するのは、学内よりも良い。（理工学系）
- ブースは1か所に集まって大所帯でやるほうが、出展者も全体を見渡せて有難いです。（理工学系）
- できれば時計台での開催のほうが物品準備・通信デバイスを併用した出展の工夫などしやすい面はあります。（医薬生命科学系）

運営について（改善点：15件/提案：8件）

- 休憩が全然取れないくらい人がひっきりなしに来て立ちっぱなし話しっぱなしが続いた。（理工学系）
- 次年度は、多くのメンバーで参加したい。（理工学系）
- 来客者の中には体の不自由な人や長時間の対話をした人が居て、予備の椅子があると良かった。（理工学系）
- 改善点や課題はありませんが、強いて言うなら、より多くの研究者と一般の方に参加してもらえると良いと思いました。（医薬生命科学系）
- 説明者を長く拘束する参加者がいる点。（医薬生命科学系）
- ゼスト御池のウェブサイトに掲載されているアクセス説明が分かりにくい。（来場者が車でくる場合） また、当日は分かりやすい場所にフロアマップやスケジュールなどが掲載されているとよい。（医薬生命科学系）
- 中高生の参加の割合が少なめ（大学が開催場所ではないためか）。（医薬生命科学系）
- トークのお客さんが少なく残念。事前収録にして公開し、当日は大型モニターで放映するくらいでもよかったかも？（医薬生命科学系）
- 英語の説明がそのまま本棚リストに掲載されているのか、私にはよくわからなかった。小さすぎて読めなかった。もっと短い日本語の文章を用意すべきだった。（理工学系）
- 交代で休むこともできないほど来場者が来たので、ちょっと休むために一つのブースに椅子を2脚ではなく3-4脚置いてほしかったです。（理工学系）
- （良い点でもあります）これまでよりも対応人員を増やしたのですが、それでも追い付かないほどの来場をいただいた半面、今後も同じレベルでの対応を行うのは難しい（持続困難）かもしれないと懸念されました（それだけ今回とても充実していた、ということになります）。（医薬生命科学系）
- 有難いことにも忙しすぎて、他のブースに伺うことがほとんどできず（伺った先も大盛況のためお話し伺えず）その点は惜しかったです。（医薬生命科学系）
- 「ピッチプレゼン」は、来場者の方から伺うと、よい機会だったようで、アウトリーチ効果としても大変よく、発表者個人へのトレーニングにも、きとなったと思いますが、どうしても発表者が個人として負う諸々の負荷は大きいように感じました。（医薬生命科学系）
- ボードの後ろを荷物置きにしていたので、ブルーシートとかひいてあると親切だなと感じた。一人でポスター発表をしている人は本当に大変そうだったので、2人以上での参加を推奨した方がいのように感じた。（社会科学系）
- エリアごとに午前の部、午後の部など強制的に休憩がとれる体制をとってもらえると助かるなと感じました。（理工学系）
- 京大施設ではなく一般の方が多くいらっしゃる場所での開催でしたので、休憩する間もなく昼食も十分に時間がとれませんでした。京大以外の施設の場合、午前・午後と時間を区切って休憩をもたすのはいかがでしょうか。（理工学系）
- ポスターのミニサイズが欲しい、という要望をいくつかいただきました。これは公開されるのでしたっけ？ 事前に公開するのもよいかもしれないと思いました。（人文科学系）
- 文化系の展示が非常に少なかったのは残念でした。来訪者には高校生も多く、人文系が1つしかないからここに来た、という方もおられました。理科系の発表ではどこも大学院生が多く発表しておられ、大学生中心のイベントとしても良いのかなと思います。（人文科学系）
- 個人的なスケジュールの都合で他の研究者と交流する時間がなかった。もし時間があれば交流することができたと思うが、それとは別に何かイベントとして全体の研究者が交わる枠を設定しても良いと思った。（医薬生命科学系）
- もっと多くのラボに参加してもらって土日ともやる、とかなるといいですね。（医薬生命科学系）

- できれば時計台での開催のほうが物品準備・通信デバイスを併用した出展の工夫などしやすい面はあります。ピッチプレゼンは希望性のほうがありがたく、また、出展関係者以外の一般参加の方による写真・動画撮影は、できれば控えていただくなどが可能なら、大分気が楽になるかもしれない、と思います。（医薬生命科学系）

時間について（改善点：3件/提案：1件）

- 午後6時までではちょっと長いかな。（理工学系）
- 18時までではけっこうつらかったです。（医薬生命科学系）
- 私たちのちゃぶ台ブースは15時半からだったにも関わらず、ピッチプレゼンは13時でした。ピッチプレゼンの時間がちゃぶ台開始の時間ともう少し近ければよかったです。ただこの時間で他ブースを訪れることができたこともあり、大きな問題ではありません。（理工学系）
- 終了時刻は17時でもいいのではないかと思います。ずっと立ちっぱなしで休めなかったのが、18時までではちょっとつらかった。（理工学系）

企画について（提案：3件）

- ピッチトークを3回ほど行う（ピッチトークを見て、ポスターを見に来たという方が多かったため）。（人文科学系）
- ピッチプレゼンの時間を変えること、本棚リストの説明を短くすること。（理工学系）
- ピッチトークの準備が難しかったので、今年度の特によかったトークを、来年以降の参考資料として共有していただけると準備しやすいかなと思います。（理工学系）

広報について（提案：2件）

- より良い広報ができると良いと思います。（医薬生命科学系）
- 今回の開催地はよく催し物をやっている場所だったので、もっと事前の宣伝があったほうが、より参加者が増えたのではないかな。（医薬生命科学系）

分野について（提案：1件）

- 文化系の展示が非常に少なかったのは残念でした。来訪者には高校生も多く、人文系が1つしかないからここに来た、という方もおられました。理科系の発表ではどこも大学院生が多く発表しておられ、大学生中心のイベントとしても良いのかなと思います。（人文科学系）

〈③このような来場者ともっと話したい〉

小中高、大学生、若者（14件）

- 次世代へ繋がる学生さんに多く来場していただき興味をもっていただけたらと考えます。（理工学系）
- 科学に関心のある高校生や中学生。（理工学系）
- 中高生。大学から関係のある高校に案内を出してもよいのかもしれませんが（既に出していただいているのかも）。（理工学系）
- 中高生と意見交換する機会があつてとてもよかった。（医薬生命科学系）
- 小・中・高校生ともっと話したいし、学生にとっても良い機会になると思う。学校もしくは、理科部には広報してほしい。また、京大の学生にも進路を考えるきっかけにもなるし、博士学生や先生とラフに話せる機会になることを宣伝してもいいと思った。（医薬生命科学系）
- 地方（でなくてもいい）の中高生が修学旅行で見に来たりするといいですね。京大を志望する学生が増えるかもしれない。（医薬生命科学系）
- 公開されていたデータから読み取れるよりも学生の参加者が少なかったように思う。私たちの研究分野との関連を考えても、もっと学生の参加者とお話してみたいと感じた。（理工学系）
- 研究室での研究内容を紹介する出展だったので、大学進学のみならず、大学院進学を検討している方にも、進路決めの参考として来ていただけると良いかなと思いました。（理工学系）
- 中高生にもっと来てほしいですね。（理工学系）

海外の方（2件）

- 留学生や外国人にももっと参加してもらえると幅が広がりそうだなと思った。（社会科学系）
- 英語話者がお互いのポスターを探しやすいように「英語コーナー」があると良いかと感じた。（医薬生命科学系）

社会人（1件）

- 装置を作っている技術者。（理工学系）

研究分野関連（1件）

- 我々のブースでは、お子様連れの方が多く子供の対応が主になっていました。研究者の方や企業でご活躍された（している）方ともしっかりと話せば、研究を促進するという観点から良いかと思います。（所属未回答）

その他（5件）

- ブースに来てくださった方は、一般市民の方と研究者の方が混ざっていて、ある意味ではやりにくい、ある意味ではこちらの技量が試される（相手の理解度を図りながら話をしなくてはならない）、難しい対応でした。「このような来場者ともっと話したい」というのはありませんが、少なくとも研究者・専門家は、専門領域を名札に書いておいていただくと、こちらが話を始める上で助かるなという印象でした（発表者の先生方は、専門領域がきちんと書いてあるので、話しやすかったです）。（人文科学系）
 - できるだけ立場や専門が幅広い方々とお話しできる機会になると嬉しいです。（医薬生命科学系）
 - 今回と同じような誰でも来られるような場所が良いと思います。（医薬生命科学系）
 - 今回、高校生、大学生、子連れ若者世代、ご高齢の方など、幅広い世代と会話できたので満足している。（社会科学系）
- 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。

新企画に関する意見（5件）

- 京大アカデミックディに、小学生が参加して、大学と一緒に共同研究するプレゼン。（理工学系）
- 京都大学に関心ある方がいたので、京大の歴史・現在、みたいなのを語る（説明する）研究（？） or ブースがあってもよいかもしれません。（理工学系）
- 進路の相談をしたい参加者もいるみたいなので、そういう特設会場があってもいいかも。（医薬生命科学系）
- YouTube 配信など 寄付金よびかけ。（医薬生命科学系）
- ブースの発表はそれぞれとても工夫されていて、展示もいろいろあり、面白かったです。トークは録画にして放映の方が、いつでも見れるし事前に予習できていいかと思いました。そのかわり、ステージでは教員や学生によるバンド演奏や、実演（ヨガとか大道芸とかマジックとか）とか、「勉強」を離れて「エンタメ」によせたパフォーマンスをして楽しんでもらう、というのはどうでしょうか。研究内容の魅力を知ってもらうことに全振りした現在の形も素晴らしいですが、京都大学に集まる人々の人間としての魅力を来場者に知ってもらうのも意義のあることかと思いました。（医薬生命科学系）

現状改善案（2件）

- 受付に巨大なマップ（見取り図）を提示しておき、発表代表者の写真を貼っておくのはどうでしょうか。「あ、あの人だ！」と、分かりやすくなるかなと思いました。（人文科学系）
- 今回実施された「研究者の本棚」と同様、研究以外の、研究者のパーソナルな部分を知るための企画が増えるにより話のきっかけが生まれやすいのかなと思いました。（理工学系）

その他（3件）

- ちゃぶ台トークはぜひ続けてほしいです！（医薬生命科学系）
- 今回の企画はかなり良かったと思います。新企画の提案はありません。（医薬生命科学系）

- 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

「国民との科学・技術対話」への取り組み（5 件）

- 11 時から 18 時の対応は大変疲れましたが、楽しい経験でした。URA の事前説明会も参考になりました。（理工学系）
- 準備の負担は少ない（ポスターをつくるだけだった）のは大変助かりました。一般的な備品（コンセント）も引き続き URA の方で準備いただけると幸いです。（理工学系）
- このような機会を準備いただいて、助かっています。今後もぜひ継続をお願いします。（理工学系）
- 手前味噌だが、一部来場者に、このような大事な研究になぜ国のお金をもっと投入されないのだ、と嘆いておられる方がいた。だれに言えばいいのでしょうかね、と。このような声を為政者にとどける企画があってもよい。（医薬生命科学系）
- 今後も今回のようなイベントの企画を楽しみにしています。（医薬生命科学系）

URA による支援（4 件）

- URA の方以外に、研究推進課の方も来られていて、色々お話して下さって、とても貴重な時間で、サポートもいっぱいして頂き、感謝しています。大学として取り組む姿勢がすごく感じられたので、来年以降も積極的なメンバーで取り込めたらいいなと思います。また URA の方がいつも近くにいて下さって、休憩の看板など、サポートして下さって、大変助かりましたし、感謝しています。URA の方々のご尽力をととても強く感じて、安心して、イベントに参加することができました。来年も楽しみです。（理工学系）
- ここ数年で非常に取り組みの熱意と精度が上がってきており、学内での URA の存在感が上昇しているのを感じます。関係者のみなさまの努力の成果が実ってきているのだと思います。（医薬生命科学系）
- URA の皆様はじめ、多くの方がかわって今回のアカデミックデイを開催していただいたことに感謝しております。（社会科学系）
- いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。URA の皆様のご支援なくして成り立ちません。（医薬生命科学系）
- いつもありがとうございます。（理工学系）

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

京都大学アカデミックデイでは、出展研究者に贈る「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。賞を設けた理由は、よりよい対話を目指した研究者が評価される（価値をつけられる）仕組みを作ることです。今後、研究活動の一環として「国民との科学・技術対話」活動が普及・定着すること、また活動が研究者にとって負担にならないことを目指して始めました。

来場者アンケートの中に「本日の『ちゃぶ台囲んで膝詰め対話』と『研究者と立ち話』の中で、あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」という質問を設けました。全出展の中から一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ大賞」を、また大賞を除いて「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」で、それぞれ一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ賞」を贈りました。

■ 3-3-1. 2023 年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名：フラクタル・イマジナリーキューブの影

出展代表者：立木秀樹（大学院人間・環境学研究科）

美しいで賞、数学は奥が深いで賞、分かって分からなくてもおもしろかったで賞、など



● 京都大学アカデミックデイ賞：「研究者と立ち話」部門（同率一位）

出展名：先端科学と高校科学リテラシー教育

出展代表者：中村秀仁（複合原子力科学研究所）

高校と大学の連携賞、これからに期待したいで賞、全人類に聞いてほしいで賞、など



出展名：あの一、ひ、非流暢って何ですか？

出展代表者：定延利之（大学院文学研究科）

目からうろこ賞、言語って面白いで賞、着眼点が面白いで賞、など



● 京都大学アカデミックデイ賞：「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」部門

出展名：「専門」とは何か。

出展代表者：宮野公樹（学際融合教育研究推進センター）

熱かったで賞、学問とは何で賞、人生の参考になった賞、など



■ 3-3-2. アンケートの上位の出品

来場者からの賞についてのアンケートでコメント数の多かったポスター上位8件（コメント数7位が2件あった）、ちゃぶ台上位2件は、以下の出品でした。

● 研究者と立ち話

「発明！カブトムシのモノづくり」 出展代表者 井上康博（工学研究科）	
・ 実用化に期待します賞	・ もっと世界に広めてほしいで賞
「アフリカで住民の力を信じた暮らし向上」 出展代表者 真常仁志（地球環境学）	
・ アフリカに最先端の技術があった！賞	・ 諦めずに最後まで頑張ったで賞
「合成生物学で世界を変える大学生の挑戦」 出展代表者 北畠真（医生物学研究所）	
・ 京大に入ったら参加してみたいで賞	・ 頑張っていてほしいで賞
「大は小を兼ねるか？：宇宙塵の科学入門」 出展代表者 野口高明（理学研究科）	
・ ロマンがすごいで賞	・ 新しいことをたくさん知れた賞
「火山噴火のふしぎ」 出展代表者 井口正人（防災研究所）	
・ 火山はアツいで賞	・ 噴火予知できるで賞
「指先サイズのデバイスで”創る”臓器」 出展代表者 横川隆司（工学研究科）	
・ 工学×生物で創薬につながるとはおもわなかったで賞	・ ワクワクしたで賞
「豪雨を鎮める気象制御」 出展代表者 山口弘誠（防災研究所）	
・ すごいはっそうで賞	・ ふところんカワイイ賞
「アツい宇宙と冷たい計算機」 出展代表者 高橋義朗（理学研究科）	
・ 最もアツかったで賞	・ 今後の発展が楽しみで賞

● ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

「説明できるAIが拓く新しい教育の形」 出展代表者 戴 憶菱（学術情報メディアセンター）	
・ 今後の進展が気になるで賞	・ AI、よく分かりました賞
「Switzerland, Japan, and the Long Second World War (1931-1945)」 出展代表者 Pascal Lottaz（白眉センター）	
・ たくさんの意見や思いを伝え合えたで賞	・ 中立で行こうぜ賞

4. 出展者情報

以下、各出展の「〇〇〇賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ2023のWEBサイトでもご覧になれます (<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2023/>)。

4-1. 研究者と立ち話

K1

先端科学と高校科学リテラシー教育

中村秀仁（複合原子力科学研究所）



明るい未来が来るで賞

身近なプラスチックが引き起こす未知の現象の真理追求を主軸に据え、高等学校における理系・文系を問わない総勢 2000 名の生徒、教職員、保護者等が参加できる「学びの実体験」の場を創造し、知的探求と未来社会像構築に参加できる研究活動と人材育成を連動させる新しい研究教育システムの創生に挑んでいます。



K2

フラクタル・イマジナリーキューブの影

立木秀樹（大学院人間・環境学研究科）



見惚れましたで賞

ある種のフラクタル立体は、その影も平面上のフラクタルになります。そのような立体にいろんな方向から光をあてた影をお楽しみください。光の方向を変えていくと、影が平面を充填するような面積のある形になる瞬間があります。そのような影をつくる光の方向が特定できました。それがとても簡単なのです！



T1

大は小を兼ねるか？：宇宙塵の科学入門

野口高明（大学院理学研究科）



宇宙のちりの夢しかない話賞

大は小を兼ねるとは、「大きい物は小さい物の代わりとしても使える。小さい物より大きい物のほうが使い道が広く役に立つというたとえ」（故事ことわざ辞典より）であることはよくご存じのことと思います。ここでは、大は小を兼ねない例として、私が20年以上にわたって研究している宇宙塵の話をしたと思います。



T2

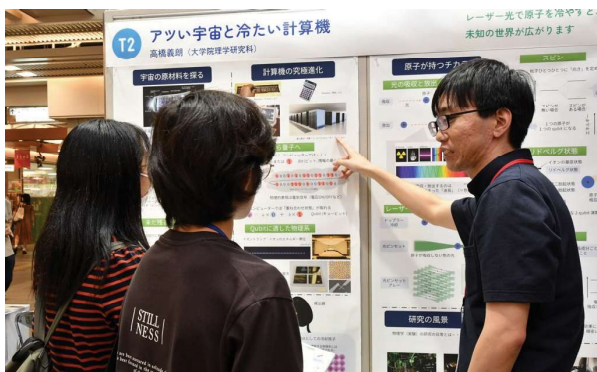
アツい宇宙と冷たい計算機

高橋義朗（大学院理学研究科）



組み合わせの面白さ賞

社会に変革をもたらしつつある量子コンピューター。まだ解き明かされていない宇宙の謎。一見まったく関係なさそうな2つの概念が、「冷却原子」というツールを通じてつながります。



T3

ナノアンテナが照らす明るい未来

村井俊介（大学院工学研究科）



粒子研究の実用性を実感したで賞

ナノテクノロジーを使い、“ナノアンテナ”と呼ばれるナノサイズの微粒子が並んだ構造を作っています。ナノアンテナは光を閉じ込めたり、集めたり、放ったりすることができます。私たちはナノアンテナの科学と応用を研究しています。



T4

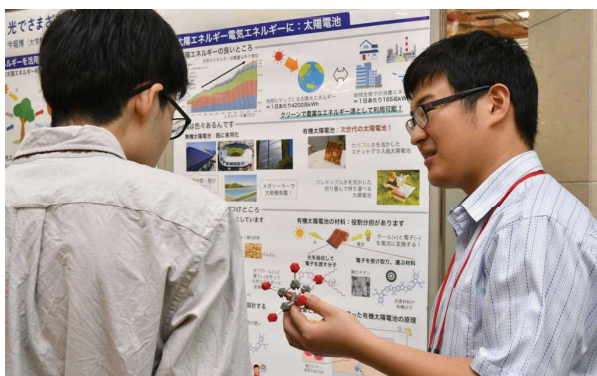
光でさまざまな機能を操る！

今堀博（大学院工学研究科）



地球に優しいで賞

有機化学と光化学に関係する研究をおこなっています。特に、光合成の機能を模倣したり、有機分子で太陽電池をつくることを目指しています。



T5

発明！カブトムシのモノづくり

井上康博（大学院工学研究科）



シワ革命賞

カブトムシが蛹になるとき、その姿はイモムシからカブトの形へと驚異的な変身を遂げます。その間、わずか2時間。その秘密は何でしょうか？キーワードは「皺」です。このブースでは、カブトムシの変身に隠された秘密を最新の数理科学で解き明かし、モノづくりの最先端へと応用する方法を紹介します。



T6

研究内容を分かりやすく伝える方法論

西村勉（医学部附属病院）



活動が面白くて賞

研究という専門性の高い内容を、読み手の意図を理解してわかりやすく伝えられるかが重要になっています。それに対する様々なアプローチを紹介します。



T7

アフリカで住民の力を信じた暮らし向上 真常仁志（大学院地球環境学）



アフリカと日本に橋ができるで賞

世界有数の貧困国であるアフリカ・マラウイの農村において、し尿分離型トイレなどを活用して住民の暮らし向上、環境保全、衛生状態の改善を目指す研究を実施しています。人は、思ったより柔軟です。



T8

キャッサバからアフリカの食を探る 中尾仁美（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）



未来を創るで賞

2019 年前後に日本で流行した「タピオカ」の原料の芋としても知られるキャッサバは、実は世界中でもさまざまなかたちで利用がされており、特にアフリカでは多くの利用法が存在しています。アフリカ・タンザニアの事例を中心に、キャッサバ料理をはじめとした東アフリカの食事をご紹介します。



T9

日本のモスク：日常から災害時まで 小谷仁務（大学院地球環境学）



みんなにフレンドリー 知ることによって優しくなる賞

イスラーム教の礼拝場所「モスク」。この言葉から遠い異国の地をイメージする人は多いかもしれませんが、実はモスクは日本各地に存在しています。日本のモスクではどのような活動がなされているのでしょうか？日常から災害時の活動まで紹介し、彼ら・彼女らと共に生きていく社会を皆さんと考えたいと思います。



T10

火山噴火のふしぎ

井口正人（防災研究所）



火山しっかり見守るで賞

日本には 111 もの活火山がある世界有数の火山の国です。私達は桜島を試験地に、火山の防災に関する研究をおこなっています。火山が大噴火したときにはどんなことが起きるでしょうか？被害を予測することはできるのでしょうか？若手研究者とシニア研究者が動画を使ってわかりやすく解説します。



T11

豪雨を鎮める気象制御

山口弘誠（防災研究所）



未来を守る賞

ゲリラ豪雨と線状対流系豪雨を対象として、豪雨の強度や発生頻度を抑制するための研究開発に取り組んでいます。人は“自然の懐”で生きているという意識を持って、人と豪雨が共に生きるビジョンを考案します。そして、2050 年には豪雨制御技術が人と自然を親和させる、そのような未来社会の形成を目指します。



T12

日本の隣国メキシコで地震津波防災

中野元太（防災研究所）



防災をありがとうで賞

日本から太平洋を臨むと、ずーっと先にはメキシコがあります。東日本大震災の津波がメキシコでも観測されたように、私たちは、ともに、地震・津波の脅威にさらされています。そんな思いから始まった防災研究所とメキシコとの共同研究、海底の地震を捉え防災に役立てています。どうやって？と思った方はぜひお越しください！



G1

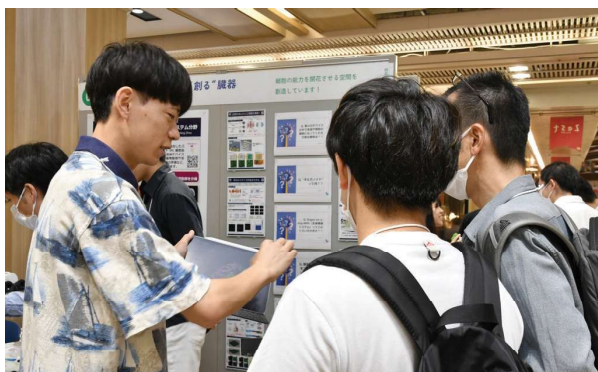
指先サイズのデバイスで“創る”臓器

横川隆司（大学院工学研究科）



チップの上で細胞が育つのはびっくりで賞

ヒトの細胞は取り巻く物理化学的な環境に応じて様々な機能を持ちます。この物理化学的な環境を微細加工技術により作製したマイクロ流体デバイスを用いて再現することで、生体機能を模倣したシステムを開発しています。臓器発生過程の理解を目指す基礎研究から薬物動態や安全性の評価など幅広い研究を対象としています。



G2

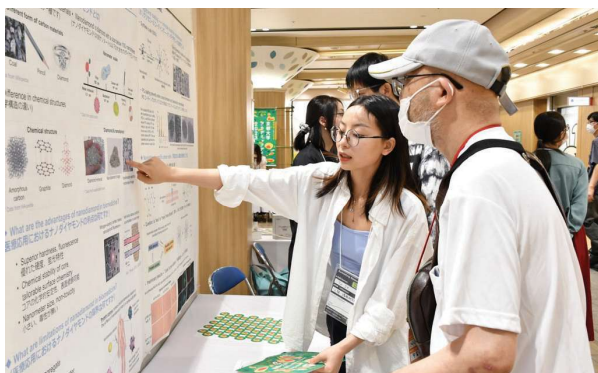
ダイヤモンドナノ粒子の医療応用

Yu Jie（大学院人間・環境学研究科）



実用化されると良いで賞

私の研究では、ダイヤモンドナノ粒子を使ってがんを診断したり、治療することを目指しています。特定の分子をダイヤモンドナノ粒子の表面に結合させることで、これをがん細胞に選択的に集積させます。さらに、ダイヤモンドナノ粒子から発せられる光（蛍光）により、がん細胞を識別します。



G3

細胞を薬のように使う時代が来た！

河本宏（医生物学研究所）



カエルで未来をカエルで。賞

T リンパ球を点滴で投与する治療法が、ある種の白血病に対して、効果を発揮しています。ただし、患者さんの T リンパ球を使うので、時間がかかる、コストがかかる、品質がばらつくなどの問題点がありました。私達は多能性幹細胞を材料にする事で、誰にでも、すぐに、安価で、T リンパ球製剤を提供できる方法を開発しています。



G4

No RNA, No Life

齊藤博英 (iPS 細胞研究所)



常識超えた RNA 賞

RNA は目に見えないとても小さな分子ですが、RNA のはたらきがあるから私たち地球上の生命が成り立っている、非常に重要な分子です。さらに近年では、新型コロナワクチンのように私たちの生活を支える技術への応用も注目されています。そんな RNA の“すごさ”を私たちの研究室の取り組みを通して紹介します！！



G5

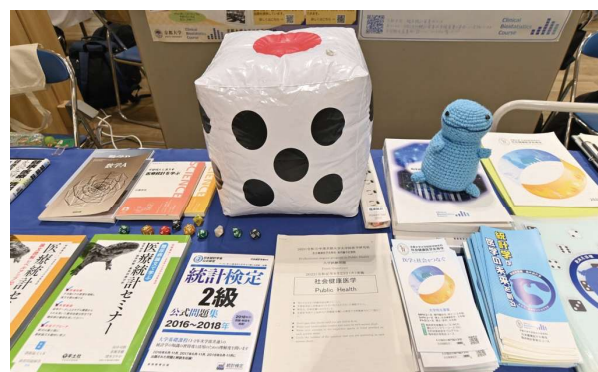
臨床統計学—医療に貢献する科学—

佐藤俊哉 (大学院医学研究科)



今の勉強が将来につながると分かったで賞

新しい医薬品や治療法の開発では、最終段階で患者さんが参加する実験である「臨床試験」が行われます。臨床試験の実施には厳密な科学性と倫理性が求められ、専門的な知識を持つ統計家の参加が不可欠となっています。この研究領域が臨床統計学です。医療に貢献する科学、みなさんも体験してみてください。



G6

認知症—未病で見つけ未病で防ぐ—

高橋良輔、眞木崇州、山門穂高 (大学院医学研究科)



希望の研究で賞

高齢化に伴う認知症とその関連疾患の増加は重要な社会問題です。近年、病初期から、腸・感覚器官・免疫などの全身環境の変化が生じていることが分かってきました。脳のみならず、こうした全身環境の変化と発症との関係を解明し、発症前の未病状態での診断と予防に挑戦しています。



G7

合成生物学で世界を変える大学生の挑戦

北畠真（医生物学研究所）



学部生が頑張ってるすごいで賞

遺伝子組換え技術を使ってさまざまな製品を作る「合成生物学」。毎年アメリカのボストンで大学生の参加する合成生物学の大会が開催されています。京都大学のチーム iGEM Kyoto は、地元に着した問題から世界の共通の問題まで幅広く取り組み、研究を続けています。



G8

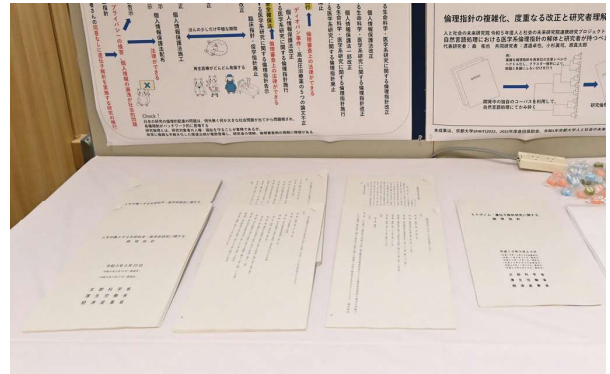
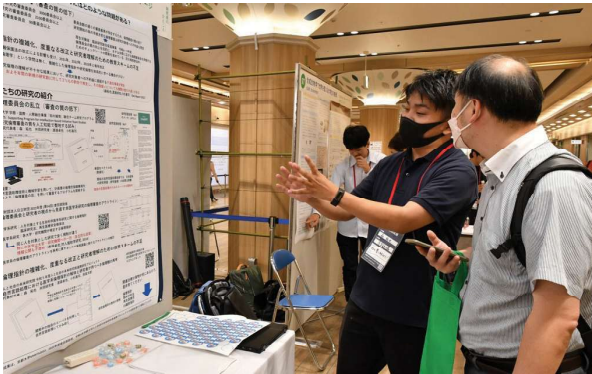
研究対象者の人権・福祉をAI で守る

森拓也（医学部附属病院）



認知度は低いけど重要賞

人を対象とした研究において、研究対象者の人権・福祉を守ることは必須の責務である。それらを守るために倫理委員会は存在するも、近年、日本全土で乱立し、質の低下が社会問題である。年間 1500 件以上の研究を審査する京大の倫理審査経験から、研究対象者に降りかかる倫理的問題を、人工知能で指摘する技術を開発中。



G9

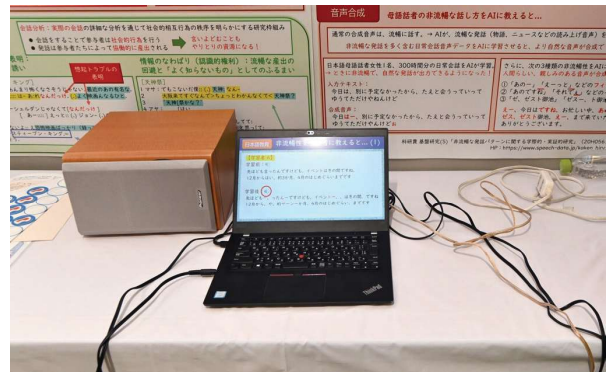
あのー、ひ、非流暢って何ですか？

定延利之（大学院文学研究科）



学びに安心を加えてくれたで賞

口ごもり、言いよどんでは、つかえて、たどたどしくて、ぎこちない。そんな私たちが、なぜそれなりにコミュニケーションできるのでしょうか？ 私たちの非流暢性は、言語障害による非流暢性とう違うのでしょうか？ これを日本語学習者やAI に学習させたらどうなるでしょう？ 専門家が答えます。



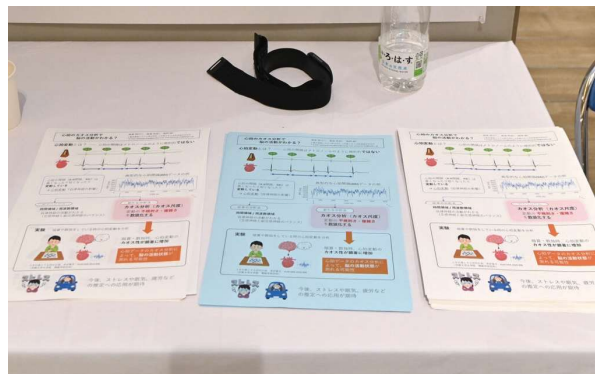
G10

皆様がよく眠れるデジタルヘルス世界へ
梅野健（大学院情報学研究科）



心臓の動きで脳がわかるで賞

OPZ（One PointZero）はクラウドベースのプラットフォームであり、CT や CBCT で撮影した約 500 枚の頭頸部の医療画像を独自の自動気道検出アルゴリズムを利用し、3D モデルを構築する。そこで数値流体力学で気道内の流体速度及び圧力を算出する。OSA 患者を早期発見、閉塞場所も特定できる。



G11

BNCT：伴侶動物のがん治療に挑む
鈴木実（複合原子力科学研究所）



どんな命にも寄り添い救ったで賞

ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）は、今、2 つの医療機関で、頭頸部がんの患者さんに対して治療が行われています。私たちは、BNCT を伴侶動物（イヌ、ネコ）の悪性腫瘍の治療に応用できないかを研究しています。海外での成績や、研究の結果、法律の壁などを紹介します。



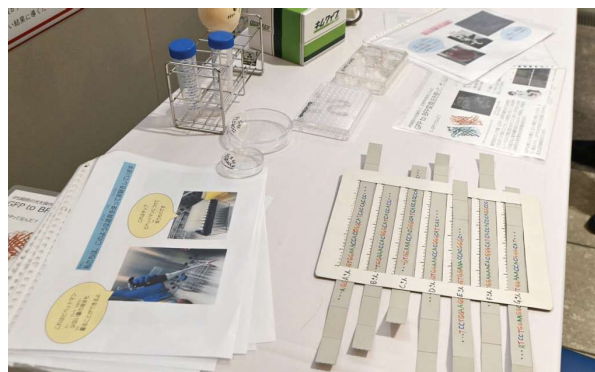
G12

ヒトゲノムの完全制御に挑戦する！
Knut Woltjen（iPS 細胞研究所）



ヒトに適応できるまでがんばってほしいで賞

ウォルツェン研究室では「ヒトゲノムの完全制御」を目指し、iPS 細胞を用いて最先端の遺伝子編集技術を開発・活用しています。まずはゲノムを理解することから始まり、変異の修正や新しい遺伝子機能の導入のために必要な技術をマスターしていくことを目指しています。あなたも私たちと一緒に挑戦してみませんか？



4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

ちゃぶ a1 人とのつながりで健康になる街を作ろう

近藤尚己（大学院医学研究科）



学びとつながり賞

人々の健康は、学歴や所得、職業、人とのつながりといった社会的な状況の影響を受けます。社会疫学はこれらの「健康の社会的決定要因」を解明し、これらから生じる健康格差を制御するための研究をしています。「だれもが自然と健康になれる社会づくり」について一緒に考えるワークショップを開催します！



ちゃぶ a2 Switzerland, Japan, and the Long Second World War (1931-1945)

Pascal Lottaz（大学院法学研究科 / 白眉センター）



平和を考え、行動するヒントをくれたで賞

This research investigates the relationship between Switzerland and the Empire of Japan during the “Long Second World War” (1931-1945). Using primary sources from archives in Switzerland, Japan, the UK, and the United States, the project investigates issues of diplomacy, foreign policy, and economics, the project pays particular attention to Switzerland’s neutrality policy which will serve as the narrative framework to understand the actions of Berne toward Tokyo. What did Swiss Diplomats do in Japan during the war years? What did the business sector do? What did Japanese citizens do in Switzerland while their home country was getting deeper and deeper involved in the war?



ちゃぶ
a3

「専門」とは何か。

宮野公樹（学際融合教育研究推進センター）



既存の考えにヒビを入れてくれたで賞

特定の学術分野の知識に詳しいことを「専門」としてしまうと、我々人間はインターネットにないません。技能もまたロボットやAIに置き換われます。もはや詳しい知識や技能の所有が「専門」でなくなった今、「専門」について改めて考えます。

#学際、#異分野連携、#学問、#学びを学ぶ



ちゃぶ
a4

説明できるAIが拓く新しい教育の形

戴憶菱（学術情報メディアセンター）



新しい教育と一緒に作りま賞

「苦手な分野、効率よく勉強したいなあ」こんな勉強の悩みも、今やAIが解決してくれる時代。しかし「なぜAIはそう判断したのか？」は謎に包まれ、信頼のおける学習支援になっていません。私たちは説明できる教育AIシステム『EXAIT』を開発し、判断理由をわかりやすく伝え、個々に寄り添う支援を行います。



ちゃぶ
b1

Shared Micro Mobility Vehicles: Acceptance and Potentials in Kyoto

Jan-Dirk Schmöcker（大学院工学研究科）



京都の渋滞解決の希望となるで賞

Shared mobility and electrification are two major trends in the evolution of transportation systems. Both trends meet at mobility hubs, where charging and parking of shared vehicles is spatially combined. The provision of station-based shared vehicle types have the potential to bring about positive impacts in various aspects, including reducing traffic congestion by decreasing the number of single-occupancy private car trips, lowering greenhouse gas emissions, and enhancing the accessibility and flexibility of mobility for different user groups. Currently, shared e-mobility primarily includes electric carsharing, e-bike sharing and e-scooter sharing. Numerous companies and governments have already implemented pilot or full-scale shared e-mobility systems and are rapidly expanding their range of services. With innovations in light vehicle technologies, new vehicle types can further foster station based systems and help to satisfying a broader variety mobility needs. To facilitate the market penetration of different vehicle types (in comparison and in competition with own car ownership, public transport and cycling), it would be beneficial to acquire additional knowledge about the reaction of potential users and other travelers towards these services

when integrating into daily travel plans. Therefore, during the dialogue with citizens we want to show some different shared light vehicles and want to talk with them about the three question groups:

1. Are people willing to adapt shared light vehicles into their trip routines (e.g. travel to work)
2. Which factors influence the potential usage (distance to vehicle, price)
3. What are safety concerns when using them



ちゃぶ
b2

一票の格差ってどうなの？

趙亮（大学院総合生存学館）



みんなの投票同じ重みにしたいで賞

間違っているのではないかな。正確に言うと、一票の価値を計算する式「席数÷人口」に問題があって、その値を人口の異なる選挙区で統一しようとする是正が返って不平等な状況をさらにひどくさせている。問題とは、「席数÷人口」の式は、席数が人口に比例することを暗黙的に仮定しているが、そのようなことが見られていない。



ちゃぶ
b3

お墓の中には何が描かれたのか

宇佐美文理（大学院文学研究科）

古代中国、後漢の時代のお墓に描かれたさまざまな図像から当時の人々の死生観、死後観をさぐります。（日本サッカー協会のシンボルマークに似た「三本足のカラス」や、日本人が餅をついていると考えている「月にいるウサギ」もでています。）※出展者が当日欠席のため、資料配布のみ





ヒトは自分のしたいことをする傾向があります。自分が「したいこと」をして「健康」になれたらいいと思いませんか？私が私の専門の皮膚科学の基礎研究と臨床の知識と技術を活かして取り組んでいる「皮膚美容×健康」の研究についてみなさんとお話しできると嬉しいです。



4-3. 出展参加者一覧

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
K1	○	複合原子力科学研究所 中村秀仁 助教 藪内裕樹 掛長 大阪高校 宮本聡 センター長 青野秀哉 教諭 小野寺流星 教諭 金川昌由 教諭 木ノ脇求 教諭 小瀬古智美 教諭 坂本頼泰 教諭 渋谷吉考 教諭 谷口誠治 教諭 谷脇鉄平 教諭 彦野冬馬 教諭 松長瞬 教諭 松本兼宏 教諭 金野夏子 1年 坂部偉吹 1年 横田さくらこ 1年 玉置楓花 1年 増山寛人 1年 中島かんな 1年 沼田茉莉 1年 菅原脩矢 1年 田中渡月 2年 前濱翔流 2年 古澤滯 2年 井澤友馨 2年 片山琥珀 2年 日下太陽 2年 樋野裕斗 2年 寺島さくら 2年 井上悠真 2年 作田優希 2年 西中聖虹 2年 的場奏斗 3年 田邊亜水 3年 中島蓮 3年 細井琢生 3年
K2	○	大学院人間・環境学研究科 立木秀樹 教授 藤井慧 博士課程2年
T1	○	大学院理学研究科 野口高明 教授 白眉センター 松本徹 特定助教 総合博物館 竹之内惇志 助教 理学部 今城有香子 4年

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
T2	○	大学院理学研究科 高橋義朗 教授 小澤直也 特定研究員 中村勇真 博士課程 2 年
T3	○	大学院工学研究科 村井俊介 助教 東野真 博士課程 3 年 TienYang Lo 博士課程 1 年 榎本泰輔 修士課程 1 年 丸山紘也 修士課程 1 年*
T4	○	大学院工学研究科 今堀博 教授 東野智洋 准教授 秋山みどり 助教
T5	○	大学院工学研究科 井上康博 教授 森川健太郎 博士課程 3 年 三村知宏 修士課程 2 年 中村拓未 修士課程 2 年
T6	○	医学部附属病院 西村勉 准教授 産官学連携本部 Jargalsaikhan Jargalmaa 研究員
T7	○	地球環境学堂 真常仁志 准教授 奥野隼 修士課程 1 年 学術研究展開センター 若松文貴 融合研究創生部門副部門長
T8	○	大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 中尾仁美 博士課程 1 年
T9	○	地球環境学堂 小谷仁務 助教 京都産業大学 岡井宏文 准教授 株式会社おしんどりーも 田村まり 役員
T10	○	防災研究所 井口正人 教授 石井杏佳 特定助教 真木雅之 特任教授 清水理恵 事務補佐員 佐野香那 技術補佐員
T11	○	防災研究所 山口弘誠 准教授 仲ゆかり 助教
T12	○	防災研究所 中野元太 助教 伊藤喜宏 准教授
G1	○	大学院工学研究科 横川隆司 教授 Ramin Banan Sadeghian 特定准教授

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		藤本和也 助教 松本倫実 博士研究員 亀田良一 スタッフ Sachin Yadav 博士課程 3 年 馬成 博士課程 3 年 高田裕司 博士課程 3 年 田渕史 博士課程 2 年 北田敦也 修士課程 2 年 萩庭歩美 修士課程 2 年 許偉倫 修士課程 2 年 岡康平 修士課程 2 年 中本尚吾 修士課程 1 年 西村太希 修士課程 1 年 楊美萱 修士課程 1 年 小石翔太 修士課程 1 年 飯尾凜太郎 修士課程 1 年
G2	○	大学院人間・環境学研究科 Yu Jie 博士課程 2 年 Fu Xinyi 修士課程 2 年 Han Xu 修士課程 1 年
G3	○	医生物学研究所 河本宏 教授 永野誠治 助教 加藤雄真 特定研究員 板原多勇 博士課程 3 年 周浩洋 博士課程 2 年
G4	○	iPS 細胞研究所 齊藤博英 教授 大野博久 特定拠点助教 吉井達之 特定拠点助教 川崎俊輔 特定研究員 牧野航海 日本学術振興会特別研究員 (PD) 大学院医学研究科 亀田重賢 博士課程 3 年 木下通理 博士課程 1 年 井藤郁弥 修士課程 2 年 澤登千聖 修士課程 2 年 陳蓉 修士課程 2 年 山地紀香 修士課程 2 年 阿部一樹 修士課程 1 年
G5	○	大学院医学研究科 佐藤俊哉 教授 田中司朗 特定教授 大森崇 特定教授 大宮將義 特定助教 高木佑実 特定研究員 任思縁 修士課程 1 年
G6	○ ○ ○	大学院医学研究科 高橋良輔 教授 眞木崇州 講師 医学部附属病院 山門穂高 特定准教授 石本智之 特定助教

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		田口智之 特定助教 大学院医学研究科 大平純一郎 大学院 4 年 平藤哲也 大学院 3 年 柳田成史 大学院 3 年 菊谷明宏 大学院 2 年 中村大和 大学院 1 年
G7	○	医生物学研究所 北畠真 助教 理学部 石橋亮平 2 年 三笥隼人 2 年 福岡大空 2 年 薬学部 桐山賢斗 1 年 農学部 岡本陽 1 年
G8	○	医学部附属病院 森拓也 特定助教 渡邊卓也 特定講師
G9	○	大学院文学研究科 定延利之 教授 専修大学 丸山岳彦 教授 東京大学 遠藤智子 教授 日本大学 船橋瑞貴 准教授 神戸大学 林良子 教授 富山県立大学 モクタリ明子 講師
G10	○	大学院情報学研究科 梅野健 教授 高明慧 専門業務職員
G11	○	複合原子力科学研究所 鈴木実 教授 和田悠佑 特定助教
G12	○	iPS 細胞研究所 Knut Woltjen 准教授 Gabriel Martínez-Gálvez JSPS 外国人特別研究員 福田幹子 特定研究員 三代景湖 短期交流学生 大学院医学研究科 Suji Lee 博士課程 3 年 丹羽諒 博士課程 2 年 Xiaoyan Ren 博士課程 1 年 医学部 松井かずさ 4 年
ちゃぶ a1	○	大学院医学研究科 近藤尚己 教授 市川佳世子 客員研究員

ブース 番号	代表者 ○	所属
		氏名 職名又は学年等
		土生裕 特定研究員 本多由起子 特定助教
ちゃぶ a2	○	大学院法学研究科 / 白眉センター Pascal Lottaz 准教授
ちゃぶ a3	○	学際融合教育研究推進センター 宮野公樹 准教授
ちゃぶ a4	○	学術情報メディアセンター 戴憶菱 特定研究員 大学院情報学研究科 滝井健介 博士課程 2 年 山内大聖 修士課程 2 年
ちゃぶ b1	○	大学院工学研究科 Jan-Dirk Schmöcker 准教授 中尾聡史 助教 Stellah Namulindwa PhD Student Sarah Hampel Visiting Scholar
ちゃぶ b2	○	総合生存学館 趙亮 准教授 呂文若 博士課程 5 年
ちゃぶ b3	○	大学院文学研究科 宇佐美文理 教授
ちゃぶ b4	○	医学部附属病院 川上聡経 助教

5. その他

5-1. 各種説明会

■ 5-1-1. 出展募集説明会

2023年6月8日、オンライン（Zoom ミーティング）上で、出展を検討している参加者向けにアカデミックデイの概要や出展のメリット、出展に向けての作業やサポート等について説明しました。

■ 5-1-2. 出展者向け説明会

2023年8月24日、学術研究支援棟地下会議室とオンライン（Zoom ミーティング）のハイブリッド形式で、京都大学アカデミックデイに参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました（参加は任意）。参加研究者の“負担感”を軽減し、事前準備をサポートすることがこの事前説明会の主な目的でした。

学術研究展開センターの大西将徳 URA より、京都大学アカデミックデイ開催の目的や背景、前回の様子を紹介しました。どのような場で、どのような人たちと対話をするようになるのかを事前に伝えることで、準備がしやすくなることを狙っています。会の後半では、学会発表との違いをもとに、専門外の人に自分の研究をわかりやすく伝える方法・対話のコツ・ポスター作りのポイントについてレクチャーしました。



京都大学アカデミックデイ2023 事前説明会

2023年8月24日 15:30-17:00
学術研究支援棟 地下会議室

主催：京都大学「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ
研究推進部研究推進課、学術研究支援展開センター（KURA）



伝わりやすい研究紹介のコツ：コンテンツ

- 実物（実験機材・実験生物・研究室）
- 実験室/実験生物/実験機材の写真・動画・模型

聞き手の注意を引きつける、研究を身近に感じる

※ 研究者にとってありふれたものでもOK
→ 専門外の人にとっては新鮮



5-2. 会場間の移動誘導企画

3つの会場を繋ぐ通路にサインが設置できなかったことから、会場間の移動を誘導する企画として、次の2つの企画を実施しました。

■ 5-2-1. 対話シール企画

6種類の対話シールを用意し、34ブースそれぞれにランダムに割り当てます。来場者は出展研究者と話したり、話を聞いたりすると、パンフレットにシールを貼りつけることができます。このシールを1枚上集めて、受付で見せてもらうことでお水をプレゼントする仕掛けでした。



■ 5-2-2. トートバッグ配布企画

会場に来られた方に、アカデミックデイが3会場で実施されていることを示すモノを持ち歩いていただくことで、そのモノを「動くサイン」にすることを目的に、アカデミックデイ特製トートバッグを作成しました。ポーチサイズのバッグでお越しになった方向けに、パンフレットや出展者からもらう紙の資料を入れるバッグとしても活用いただけるよう A4 サイズとしました。鮮やかな緑色のトートバッグが、時間の経過とともに会場や通路の至る所に広がっていく様子は、とても見応えのある景色となりました。



5-3. 広報物

京都大学アカデミックデイのポスターとチラシを作成し、京都市を中心に関西圏の教育関係機関や公共機関等に配布しました。また、地下鉄や駅構内で広告を掲載しました。

■ 5-3-1. ポスター（A2 サイズ）

Kyoto University
Academic Day 2023

語りたいはここにあり

わたしたちと研究はつながっている

2023 京都大学 アカデミックデイ

Here, we can find what we want to talk about.

2023年9月24日(日) 11:00-18:00
11am-6pm, 24 September, Sunday, 2023

参加費 無料 (申込不要)
No charge / No registration required

ゼスト御池 | ZEST OIKE

研究者と立ち話／ちゃぶ台回りで膝詰め対話／お茶を片手にトーク◎トーク／研究者の本棚
Casual Chat with Researchers / Round-table Conversation with Researchers / Tea-time Talk ◎ Talk / Bookshelves of Researchers

主催：京都大学（学術研究推進センター、研究推進部研究推進課、「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ）
Organizers: Research Administration Center, Research Promotion Department and Working Group for "Scientific and Technological Dialogues with the Public" at Kyoto University
協力：国立研究開発法人科学技術振興機構（Collaborator: Japan Science and Technology Agency）

<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

KYOTO UNIVERSITY
FOUNDED 1869

We are connected to research.

Dialog with the Public

■ 5-3-2. チラシ (A4 サイズ)

● オモテ面



京都大学アカデミックデイ 2023 Kyoto University Academic Day 2023

「京都大学アカデミックデイ」は、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、2011年度から実施しているオープンなイベントです。これまでは京都大学にある時計台の中のホールで開催してきましたが、昨年度、京都大学創立125周年記念事業の一環で、他の企画とともに学外へ出たのをきっかけに、今年はアカデミックデイ単独で京都大学から飛び出し、京のみやこのまちなかで対話の場をつくりまします！



詳細はWEBページをご覧ください。
Please see the web page for details.

お問い合わせ先 Contact Information:
京都大学アカデミックデイ事務局
Kyoto University Academic Day Secretariat Office
E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

PROGRAM — 2023年9月24日(日) 11時～18時 — ゼスト御池

"Kyoto University Academic Day" is an open event that has been held since the academic year 2011 with the aim of facilitating open dialogs between citizens and researchers with various interests and fields. Since then, the Academic Day has been held at the Clock Tower Hall at Kyoto University. However, last year, as part of the celebrations for the 125th anniversary of the founding of Kyoto University, it was held outside the campus along with other events. Following last year's success, this year's Academic Day will again be held outside the campus (independently for the first time) to create a space for open dialogue in the heart of Kyoto City!



研究者と立ち話 Casual Chat with Researchers

11:00-18:00

約100名の多様な京都大学の研究者による研究紹介です。ポスターの前にいる研究者に話しかけてみてください。

Please come to talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.



ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 Round-table Conversation with Researchers

12:30-14:30 | 15:30-17:30

ひとつのテーブルを開んで研究にまつわるあんな話、こんな話、お茶の間気分で、ほっこりお話ししましょう。

You can sit around a round table with our researchers and enjoy free conversation to know what going on behind their research.



お茶を片手にトーク◎トーク Tea-time Talk ◎ Talk

11:30-13:30 | 14:30-16:00

研究者ってどんなひと？前半は対話のきっかけになるお話がキュッと詰まったブース紹介トークを聞きながら、気になるブースをぜひチェックしてみてください！そして後半は本にまつわるテーマの座談会。自分に“合う”本ってなんでしょう？一緒に探してみませんか？

What are researchers like? In the first session, listen to booth introduction talks filled with engaging stories that serve as a trigger for dialogue. Let's check out the booths that catch your interest! The second session will feature a roundtable discussion on book-related themes. What kind of book "fits" your preferences? We invite you to join us and discover it together!

16:15-17:45

科学と社会をつなぐ『サイエンスアゴラ in 京都』。グローバリズムをテーマに、京都ならではの視点で繰り広げる座談会です。研究者と一緒にみらいの社会を考えてみませんか？（共催：科学技術振興機構（JST））

The place connecting science and society: 'Science Agora in Kyoto'! Explore the topic of globalism with diverse perspectives unique to Kyoto. Join us for a discussion and contemplate the future society together with researchers. (Co-hosted by Japan Science and Technology Agency - JST)



研究者の本棚 Bookshelves of Researchers

京都大学の研究者がオススメする本を紹介・展示しています。本をきっかけに、研究者と対話してみませんか？

What kinds of books inspired our researchers? Explore their recommend books displayed with their personal reviews.

ゼスト御池
河原町広場・
寺町広場・
御幸町広場
にて開催！



5-3-3. 中吊り広告 (B3 サイズ)



■ 5-3-4. 四条駅ジャックポスター（B1 サイズ）



■ 5-3-5. 電子サイネージ

● みやこ ad. 京都市役所前駅（デジタルサイネージ）



■ 5-3-6. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）

本年度もウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を利用して「京都大学アカデミックデイ 2023」の出展募集および集客を行いました。

● Web サイト

学術研究展開センターWeb サイト

研究者出展募集のほか、開催案内を「イベント案内」で告知しました。

出展研究者募集案内：<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/hasshin/academic-day>

京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」（K. U. RESEARCH）ウェブサイト

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

K. U. RESEARCH に設置された京都大学アカデミックデイ専用ページに 2023 年度のページを作成し、出展研究について個別ページを作成しました。

<https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2023/>

● SNS（X（旧 Twitter）、Facebook）

SNS は、Twitter の京都大学アカデミックデイ公式アカウントと、Facebook の K. U. RESEARCH アカウント、学術研究展開センターの公式アカウントを用いました。開催日前日まで開催情報や出展情報などを告知しました。

京都大学アカデミックデイ公式（@KyodaiAcaDay）X

<https://twitter.com/KyodaiAcaDay/>

X（旧 Twitter）では、ハッシュタグ「#京大アカデイ 2023」を活用し、「研究者と立ち話」や「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手にトーク◎トーク」、「研究者の本棚」の開催情報を、各研究の詳細ページと一緒に紹介しました。それぞれのイベント終了後には、当日の様子を写真を添えて紹介しました。

京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」（K. U. RESEARCH）Facebook

<https://www.facebook.com/k.u.research>

ポスターやチラシの PDF 掲載、京都大学アカデミックデイ専用ページの情報等を掲載しました。また、Facebook でもハッシュタグ「#京大アカデイ 2023」を活用しました。

京都大学 学術研究展開センター（KURA Office）Facebook

<https://www.facebook.com/kuraoffice/>

学術研究展開センターのアカウントでも、開催案内を行いました。

■ 5-3-6. その他の広報媒体等

本年度も様々なチャネルを利用して「京都大学アカデミックデイ 2023」の集客を行いました。

● 記者レクチャー

開催日：8月29日

掲載媒体（掲載日）：日経新聞（9月4日朝刊）京都新聞（9月20日夕刊、9月25日朝刊）、読売新聞（9月22日朝刊）

● 京都大学教職員ポータル

教職員が利用するポータルサイトの掲示板に、アカデミックデイ開催通知を掲載しました。

● KUON メールマガジン

渉外課の協力により、京都大学同窓生向けサービス「KUON」のメールマガジンにてアカデミックデイの開催情報を配信しました（2023/9/1）。

● メール配信

アカデミックデイ 2020 並びに 2021 申込時に「今後のメール配信を希望する」を選択された方を対象に、開催案内のメール配信を行いました。一定数の申込があり、リピーター層の取り込み効果が示されました。

● サイエンスポータル

JST が運営する科学技術の情報サイト「サイエンスポータル」に情報を掲載しました。

(<https://scienceportal.jst.go.jp/events/17658/>)

■ 5-3-7. 関連企画

京都大学アカデミックデイ参加研究者のお勧めの本について、他の施設でも特設コーナーが設置されました。

- 附属図書館

- 開催日：2023年9月20日～10月31日

附属図書館1階で、京都大学アカデミックデイ参加研究者が「研究者の本棚」企画のためにセレクトした「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」から一部をレビューとともに展示しました。

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1398670>



■ 5-3-8. イベント終了後の報告関連

アカデミックデイ 2023 は、京都大学として初めてゼスト御池を前面に貸し切ったイベントであったことから、イベント終了後は本報告書の他に、様々な媒体で報告が行われました。

● 京大広報 771 号

「大学の動き」のセクションで、アカデミックデイの当日の様子が取り上げられました。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/kyodai-koho771-0180895440d7829d9021f61f5351f02c.pdf>

6. 支援体制・準備スケジュール

6-1. 支援体制

京都大学アカデミックデイは、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。支援体制は以下の通りです。

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ委員

工藤洋	生態学研究センター 教授
喜多一	国際高等教育院 教授
藤田恭之	医学研究科 教授
榎本哲夫	工学研究科 教授（～2023 年 3 月）
立川康人	工学研究科 教授（2023 年 4 月～）
児玉聡	文学研究科 教授
藤原辰史	人文科学研究所 准教授
塩瀬隆之	総合博物館 准教授
永野武彦	渉外部渉外課 課長
赤石敦一	総務部広報課 課長（～2023 年 3 月）
谷川嘉奈子	渉外部広報課 課長（2023 年 4 月～）
高橋裕幸	研究推進部研究推進課 課長
石川冬木	学術研究展開センター センター長

学術研究展開センター

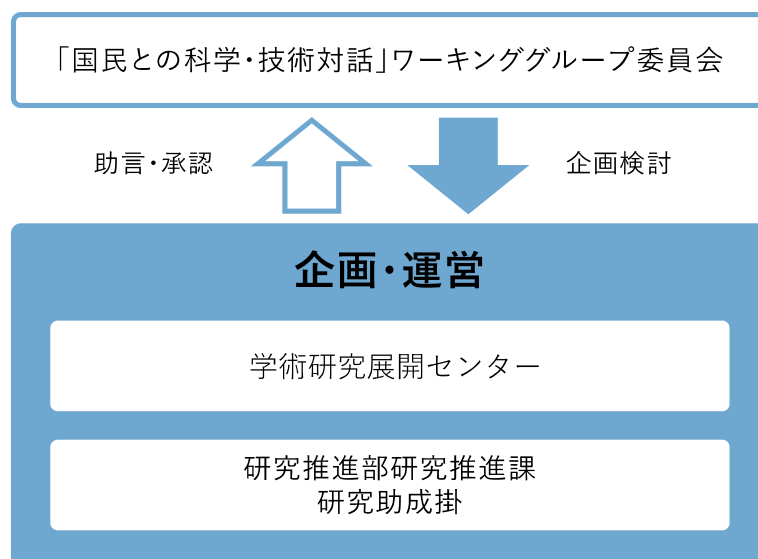
大西将徳	学術研究展開センター U R A
白井哲哉	学術研究展開センター U R A（～2023 年 3 月）
藤田弥世	学術研究展開センター U R A
福田将矢	学術研究展開センター U R A（2023 年 4 月～）
有川美甫	学術研究展開センター 事務担当職員

研究推進部研究推進課

服部和枝	課長補佐
飯田圭輔	研究助成掛
奥田将基	研究助成掛
樋本万里野	研究助成掛

6-2. スタッフリスト

企画	学術研究展開センター 研究推進部研究推進課
デザイン（広報・サイン）	Studio Kentaro Nakamura
メインイベント当日サポーター	松山祐輔（研究推進部研究推進課研究戦略掛） 酒井直美（研究推進部研究推進課研究支援掛） 八木智貴（研究推進部研究推進課研究支援掛） 谷本沙織（研究推進部研究推進課総務掛） 小西葵絵（研究推進部研究推進課研究助成掛） 藤井佳子（研究推進部研究推進課研究助成掛） 白井哲哉（学術研究展開センター） 若松文貴（学術研究展開センター） 森脇一匡（学術研究展開センター） 一色大悟（学術研究展開センター） 横江智哉（学術研究展開センター）
写真撮影・提供 写真撮影補佐	大森貴生 永田奈緒美（情報環境機構）
監修	「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ



6-3. 準備～事後スケジュール

2022 年	7 月～		アカデミックデイ 2023 開催場所の選定開始
2023 年	1 月 16 日		2022 年度京都大学「国民との科学・技術対話」第一回ワーキングにてゼスト御池での開催を決定
	2 月～3 月		会場下見、企画書作成、3 月 1 日ゼスト御池へ企画書作成・提出 ふたば書房との調整開始、デザイナーとの調整開始
	4 月～5 月		他会場との連携検討（四条地下道：京都市都市計画局歩くまち京都推進室との打ち合わせ、Question：京都信用金庫との打ち合わせ）、広報戦略検討（渉外課・広報課・デザイナーとの打ち合わせ）、ゼスト御池広場配置・新規企画・当日タイムスケジュール検討、JST サイエンスアゴラとの連携企画調整開始、出展募集準備（チラシ・公募要領・WEB ページ）、ポスター・チラシ作成開始、K. U. RESEARCH 更新、託児室検討・託児業者調整
	6 月	上旬	6 月 2 日出展募集開始（～7/6 正午締切）、附属図書館連携開始 チラシ・ポスター修正期間（～下旬） 出展者募集説明会（6/8：オンライン開催）
		中旬	打ち合わせ：JST サイエンスアゴラ、ふたば書房、デザイナー
		下旬	トーク◎トーク本企画調整開始、出展案内作成開始、京都市教育委員会との連携 外部イベントでの告知企画（Loftwork 打ち合わせ）
	7 月	上旬	チラシ・ポスター入稿・印刷・納品、ポスター・チラシ高校発送、トーク◎トーク本企画調整、K. U. RESEARCH 更新、研究者の本棚リスト作成、中吊り・四条駅ホームジャックポスター・デジタルサイネージ作成 打ち合わせ：株式会社ミシマ社、JST サイエンスアゴラ
		中旬	京大正門横広報センター連携、JST サイエンスアゴラとの連携企画調整、 中吊り・地下鉄四条駅ホームジャック・デジタルサイネージ修正期間（～下旬）
		下旬	X（旧 Twitter）投稿開始、Facebook 投稿、会場ロケハン（7/20（木））、会場配置案再検討、ゼスト御池会場使用にかかる資料提出（7/31）、コンテンツ作成室との連携、アカデミックデイ紹介イベント（若手職員向け研修会（7/26））イベント「街の中で研究者が研究を語る」@QUESTION、K. U. RESEARCH 更新、
	8 月	上旬	サイエンスポータル ページ作成依頼、JST サイエンスアゴラ会場下見 会場サイン検討、パンフレット作成、ノベルティ作成検討開始 動画撮影業者連携開始 打ち合わせ：デザイナー、JST サイエンスアゴラ
		中旬	京大公式 HP 掲載 打ち合わせ：JST サイエンスアゴラ
		下旬	出展者向け説明会（8/24（木））、生協連携確認、記者レクチャー（8/29（火））、中吊り・四条駅ホームジャックポスター納品
	9 月	上旬	対話シール企画・トートバッグサイン検討開始 みやこ ad. 京都市役所前駅デジタルサイネージ（9/1（金）～9/24（日）） 地下鉄四条駅ホームジャック（9/8（金）～/21（木）） 来場者・出展研究者アンケートと名札作成 打ち合わせ：デザイナー
		中旬～下旬	サイン納品、地下鉄中吊り広告（9/11（月）～17（日）） ノベルティ納品（付箋、トートバッグ、対話シール） ピッチプレゼン資料作成、当日サポートスタッフ説明会）9/21（木） 研究者の本棚企画開始（ふたば書房御池ゼスト店 9/16） 当日物品搬入出業者調整、スタッフ運営マニュアル作成
		22 日	前々日準備（搬入物品整理）
		23 日	前日準備
		24 日	当日
	10 月～12 月		来場者・研究者アンケート集計 アカデミックデイ賞確定 → 賞状郵送

7. 資料

7-1. ブックリスト

ブース 番号	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
K2	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院人間・環境学研究科・教授 立木秀樹 『フラクタル・イマジナリーキューブの影』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『春宵十話』 岡潔 光文社	日本を代表する数学者のエッセイ。生きるとはどのようなことか、考えさせられました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『正多面体を解く』 一松信 東海大学出版部	正多角形をはじめとする形について、これほど分かりやすく、また、数学的に正確に記述された本はありません。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『M.C.エッシャーと楽しむ算数・数学パズル』 荒木義明 明治図書出版	今回の展示のフラクタルの影は繰り返し模様をなしますが、繰り返し模様は、エッシャーをはじめとする芸術作品やタイル敷き、工芸品などにも使われています。数学的にその仕組みが分かれば、楽しさ倍増です。
T1	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院理学研究科・教授 野口高明 『大は小を兼ねるか？：宇宙塵の科学入門』	自分の研究に関連して紹介したい本	『微隕石探索図鑑：あなたの身近の美しい宇宙のかげら』 ヨン・ラーセン、野口高明 (監修)、米田成一（監修）、武井摩利（訳） 創元社	微隕石（宇宙塵）が、街中で採集できることを初めて本当に解明したのが、著者のヨン・ラーセンさんです。彼に倣い、京大博物館の屋上で宇宙塵採集を試した結果もご紹介します。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『はやぶさ2と日本人：私たちが手にしたもの』 永山悦子 毎日新聞出版	宇宙塵という微小地球外物質を研究をしてきたので、私ははやぶさ2初号機、はやぶさ2とずっと関わってきました。この本は両探査機取材した人ならではのものです。
T2	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院理学研究科・教授 高橋義朗 『アツい宇宙と冷たい計算機』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『翔太と猫のインサイトの夏休み：哲学的諸問題へのいざない』 永井均 筑摩書房	いわゆる子供向けの哲学書です。中学生の時に読み、「答えのない問いについて深く考え続けること」の魅力に出会いました。よくありがちな「思想史の紹介」ではなく、読み手が積極的に考えなければならぬように書かれており、読みごたえがあります。
		今ハマっている本	『Pale Fire（邦題：青白い炎）』 ウラジーミル・ナボコフ、富士川義之（訳） 岩波文庫	最近あまり読書をしていないので、単純に好きな本を挙げさせていただきました。非常に技巧的に書かれた長編小説で、文学の面白さに改めて気づきました。もし高校生の頃に出会っていたら、国語が好きになっていたと思います。
		若者にお勧めしたい本	『淋しいおさかな』 別役実 PHP研究所	平易な文章でありながら、内容は決して単純ではない、「大人向けの童話」として書かれた短編集です。たくさん（難解な）本を読む若い時分にこそ、このような行間の広い本に出会うことで視野が広がるのではないのでしょうか。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『部分と全体：私の生涯の偉大な出会いと対話』 ワーナー・ハイゼンベルク、湯川秀樹、山崎和夫（訳） みすず書房	直接研究に関連しているわけではないですが、量子力学が成立する前後の時代背景や、当時の物理学者たちが考えていたことを知ることができ、教科書とはまた違った意味で勉強になる本です。

ブース 番号	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
T3	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院工学研究科・助教 村井俊介 『ナノアンテナが照らす明るい未来』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『花神』 司馬遼太郎 新潮社	幕末から維新に向け、西洋の科学技術を自分のものに実践する蘭学者の高揚感と熱量にしばれました。司馬遼太郎の幕末ものはどれも読んでいてワクワクします
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Dr. Stone』 稲垣理一郎（原作）、Boichi（作画） 集英社	週刊少年ジャンプに連載、先日完結した漫画。突如石器時代に放り出された現代人が科学力を武器に生き抜くストーリーです。基本はエンタメですが、自分が石器時代に戻ったらどんな技術を復活させられるだろう、と想像しながら読みました。
		今ハマっている本	『千に一つの奇跡をつかめ』 千本倅生 サンマーク出版	稲盛和夫とともに多くのベンチャー企業を立ち上げ育てた千本の半生記。個人の情熱が企業や社会を動かす根本にあるのだ、ということを変えて認識しました。
		若者にお勧めしたい本	『世界を作った6つの革命の物語：新・人類進化史版』 スティーブン・ジョンソン、大田直子（訳） 朝日新聞出版	今当たり前になっている生活スタイルの基礎を作った6大発明（ガラス・冷たさ・音・清潔・時間・光）の紹介。現代社会が先人の積み上げた技術・知識の上にあることを実感します。
		若者にお勧めしたい本	『僕は君たちに武器を配りたい』 瀧本哲史 講談社	京大で教育とエンジェル投資家活動に従事し、先日亡くなられた瀧本哲史先生の著作。終身雇用型社会の次を生きるための指針を示す、さきがけ的著作だと思います
T4	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院工学研究科・教授 今堀博 『光でさまざまな機能を操る！』	若者にお勧めしたい本	『光合成とはなにか』 園池公毅 講談社	光合成にかんしてわかりやすく説明している。
T5	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院工学研究科・教授 井上康博 『発明！カプトムシのモノづくり』	自分の研究に関連して紹介したい本	『いきもののカタチ 続・波紋と螺旋とフィボナッチ：多彩なデザインを創り出すシンプルな法則』 近藤滋 学研プラス	出展の変身技法の応用は、著者の近藤滋教授（大阪大学）との共同研究から生まれたものだ。カプトムシの変身、貝の巻き方、カイメンの建築工法など、どれも身近な生物たちが行う驚きの形づくりの秘密にびっくり！その秘密の謎が解き明かされるとき、それはまさに感動体験そのものだ。また、コラムも見逃せない。プレゼンが上手いかわからないと悩む諸君、その辺の指南書を手取る前に、ジャパネットたかたのコラムは必読と言えよう。
T7	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院地球環境学・准教授 真常仁志 『アフリカで住民の力を信じた暮らし向上』	今ハマっている本	『途上国の人々との話し方：国際協力メタファシリテーションの手法』 中田豊一、和田信明 みずのわ	人の行動変容を促すにはどうすればよいのか、途上国での援助を考えている人だけではなく、教育に携わっている方、必読です。目から鱗です。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『深夜特急』 沢木耕太郎 新潮社	海外へ旅して、生活する憧れの始まりは、この本だった気がします。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『土のひみつ：食料・環境・生命』 白戸康人ら（著）、日本土壤肥料学会「土のひみつ」編集グループ（編） 朝倉書店	あまり知られていない土の働き方や働きについて、トピック形式で紹介。私は、「砂漠化」について書きました。
		若者にお勧めしたい本	『環境倫理学のすすめ』 加藤尚武 丸善	環境問題が人間の価値の問題であること、科学者も当事者であることを深く納得させられました。新版も出ていますが、私自身がじっくりきたのは、この旧版でした。
T8	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程 中尾仁美 『キャッサバからアフリカの食を探る』	若者にお勧めしたい本	『食料危機：パンデミック、バツタ、食品ロス』 井出留美 PHP研究所	2021年に発行された単行本なので、新しい問題や話題も踏まえた、現状起こっている食料問題について分かりやすくまとめられている。身の回りの小さなことから自分たちにできることも教えてくれているため、自分事として受け止め、次の行動につなげやすいかなと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『食と農のアフリカ史：現代の基層に迫る』 石川博樹（編）、小松かおり（編）、藤本武（編） 昭和堂	アフリカではどのような食事がされており、その背景にはどのような食文化が存在しているのか。アフリカの各国で長い間フィールドワークをしてきた多くの研究者たちが歴史と共にアフリカの食について説明している本です。アフリカの人びとがどんな生活をしているのか気になる方はぜひ。

ブース 番号	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
T9	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院地球環境学堂・助教 小谷仁務 『日本のモスク：日常から災害時まで』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『大学教育について』 J.S.ミル、竹内一誠（訳） 岩波書店	学ぶ目的は何か？それに答えるミルによる渾身の学長就任演説です。進路に悩む高校生、大学生、大学院生に読んでほしい本です。
		若者にお勧めしたい本	『宮沢賢治全集8』 宮沢賢治 筑摩書房	宮沢賢治の自然観、人間観が好きです。特にこの本の中でも「グスコーブドリの伝記」をおススメしたいです。
		若者にお勧めしたい本	『貧しい人を助ける理由：遠くのあの子とあなたのつながり』 デイビッド・ヒューム 日本評論社	原著のタイトルは「Should rich nations help the poor? (裕福国・金持ち国は貧しい人々を助けるべきか?)」であり、外国援助やその関連の文脈で書かれている本です。しかし、その内容は、私たちがなぜ身近な人々だけでなく見ず知らずの人々にも関心を示し、手を差し伸べなければならないのか、という一般的な問いにヒントを与えてくれるものです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』 野村康 名古屋大学出版会	様々な学問領域がありますが、それらが前提とする知識の対象の存在についての考え方（存在論）、また、知識の対象をどのように知ることができるのかについての考え方（認識論）はただ一つではありません。そのような前提に無知であれば領域間の建設的な批判・交流は実現しません。研究（特に社会科学 social studies）を始める前の学生（大学生や大学院生）に読んでもらいたい本です。
T10	研究者と立ち話（ポスター/展示） 防災研究所・教授 井口正人 『火山噴火のふしぎ』	若者にお勧めしたい本	『世界一おいしい火山の本：チョコやココアで噴火実験』 林信太郎 小峰書店	科学実験のテレビ番組で見たことがある人も多いでしょう。甘い香りがする本です。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『登山者のための気象学』 山本三郎 山と溪谷社出版部	18才頃、部活動（ワンダーフォーゲル）をしていた時に読んだ本です。自然を相手にした仕事をしたくて地球物理学がある大学への進路を決めました。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『芙蓉の人』 新田次郎 文藝春秋	明治時代に、私財を投じて富士山頂に気象観測所を作った野中至とそれを支えた妻・千代子の話です。この本をはじめ新田次郎の小説は、過酷な自然環境での仕事に興味を持ち始めるきっかけになりました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『日本の火山性地震と微動』 西村太志、井口正人 京都大学学術出版会	地震・微動が火山の噴火活動とどのような関係があるのかを初めて明らかにした研究内容を紹介した専門書です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『The Encyclopedia of Volcanoes.』 Haraldur Sigurdsson, Bruce Houghton, Steve McNutt, Hazel Rymer, John Stix（編） Academic Press	高価な英文書籍ですが、カラーの写真や模式図で火山に関連する様々な現象をわかりやすく説明しています。
T11	研究者と立ち話（ポスター/展示） 防災研究所・准教授 山口弘誠 『豪雨を鎮める気象制御』	自分の研究に関連して紹介したい本	『風の谷のナウシカ』全7巻 宮崎駿 徳間書店	人と自然の関係やあり方について宮崎駿氏の世界観が描かれています。映画は第2巻目までの話であり、その後の世界について深く描かれています。
T12	研究者と立ち話（ポスター/展示） 防災研究所・助教 中野元太 『日本の隣国メキシコで地震津波防災』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『BE KOBE：震災から20年、できたこと、できなかったこと』 BE KOBEプロジェクト（編） ポプラ社	1995年の阪神・淡路大震災が、私が防災に関心を持つきっかけになりました。この本は、その震災から20年経った2015年に出版されました。震災にかかわってきた教育者、研究者、技術者、小説家らの20年の思いが詰まっていて、神戸で育った私にはグッとくる一冊です。正直に書きますと「今の仕事を選ぶきっかけになった本」ではなく、私の個人的な「今の仕事を選んだきっかけが書かれている本」でもあるのですが。
		若者にお勧めしたい本	『現場でつくる減災学：共同実践の五つのフロンティア』 矢守克也（編）、宮本匠（編） 新曜社	「さて、地域で防災を進めましょう！」という号令は各地から聞こえるようになってきました。「地域防災は大事」と言われるわけですが、ではどうやって現場で防災を進めればよいのでしょうか。研究者や学生が、地域に入り込んで、地域の人々とともに新しい防災のカたちをつくるヒントが詰まった一冊です。

ブース 番号	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G1	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院工学研究科・教授 横川隆司 『指先サイズのデバイスで"創る"臓器』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Marc J. Madou CRC Press	修士課程の時に留学したUCLAで教科書として使われていました。この本から、マイクロ・ナノの世界を体系的にとらえるようになりました。京大の大学院でも、このような英語の教科書でワールドクラスの講義ができるようになることを期待しています。
		今ハマっている本	『小説東京帝国大学』 松本清張 筑摩書房	移動中など時間を見つけて清張作品を読むのが趣味です。単なる推理小説ばかりでなく、フィクションからノンフィクションまで昭和の間の部分や人間性についての描写が、日常の喧噪を忘れさせてくれます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Theoretical Microfluidics』 Henrik Bruus Oxford University Press	大学学部レベルの流体力学の基礎に基づいて、それを生命科学分野の研究に適用する上で必要な微小流体力学について説明した教科書です。演習問題もあり、流体力学が好きな研究者・学生にはお勧めです。
G3	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医生物学研究所・教授 河本宏 『細胞を薬のように使う時代が来た！』	今ハマっている本	『コウモリはウイルスを抱いて空を翔ぶ：生き物たちのネオ免疫学』 新田剛 ブクマン社	色々な生物の免疫システムを紹介しつつ、生物としての生体防御の仕組みを鳥瞰的な視点から論じている。スケールが大きく、とても面白い。イラストも素晴らしい。超オススメ。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『マンガでわかる免疫学』 河本宏、しおぎ忍（イラスト）、ピーコムプラス（制作） オーム社	免疫学といえば難しいと思われがちだが、マンガを使うことでわかりやすく解説されている。「2人の学生さんが、免疫学を学びながら卒業研究をすすめる」というストーリー。
G4	研究者と立ち話（ポスター/展示） iPS細胞研究所・教授 齊藤 博英 『No RNA, No Life』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『生命の起源を探る』 柳川弘志 岩波書店	RNAと生命の起源に関する本。RNA研究に関心を持つきっかけになった一冊。
		若者にお勧めしたい本	『ご冗談でしょう、ファインマンさん』（上・下） リチャード P. ファインマン、大貫昌子（訳） 岩波書店	ノーベル賞受賞者の人生を通して、科学、研究に対する姿勢が学べる。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『バイオバンク：DIY科学者たちのDNAハック！』 マーカス・ウォールセン、矢野真千子（訳） NHK出版	今の時代、こんなことができるのか！と、思わせてくれる本。

ブース 番号	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G5	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院医学研究科・教授 佐藤俊哉 『臨床統計学－医療に貢献する科学－』	今ハマっている本	『将棋指しの腹のうち』 先崎学 文藝春秋	藤井聡太7冠の影響で、将棋メシ、勝負メシが人気ですが、おもしろくもほろ苦い将棋メシの数々が画かれています。将棋界のことを書かせたら右に出る者はいない先崎九段による棋譜が一枚もない将棋の本、将棋はまったくわからないわたしですが読みだしたらやめられないし、くり返し読んでいます。「うつ病九段」もお薦めですが、話が重いのでこちらを紹介します。
		今ハマっている本	『赤いダイヤ』 梶山季之 集英社	赤いダイヤ=小豆の相場を巡る仕絶な仕手合戦を描いた大衆小説。郷田九段が先崎九段に「赤いダイヤはいい小説じゃないか」といったというエピソードを知って本書を手にとった。確かに昭和の雰囲気をもった極上のエンターテインメントで、投機に翻弄される人間模様のにめりこんでしまい、1000ページにわたる長編にもかかわらず一気に読んでしまった。
		今ハマっている本	『遠山啓のコペルニクスからニュートンまで』 遠山啓 太郎次郎社エディタス	1985年に出版された本です。タイトルにあるようにとおりコペルニクスからニュートン時代までの物理学と数学の展開が書かれています。歴史的な背景あり、実験の紹介あり、さまざまな挿絵ありと非常にユニークな内容です。市民講演講座が基になっているらしいのですが、私もこういう内容の授業をしてみたいと思いました。
		若者にお勧めしたい本	『ロウソクの科学』 マイケル・ファラデー、三石巖（訳） 角川書店	燃えているロウソクを想像してほしい。なぜ木でも紙でもない物質が炎を灯すのだろうか。溶けたロウはどこにいくのか。光や熱に変わるのだろうか。燃焼が起きるためにはなにが必要なんだろう。科学とは、日常にある疑問の答えを探す旅である。物理や化学の教科書には旅の行先しか書いていない。科学の道程で発見されてきたわくわくするような風物や見聞が、1861年ロンドンの少年少女に語られた。本書はその講演録である。
G6	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院医学研究科・教授 高橋良輔 大学院医学研究科・講師 眞木崇州 医学部附属病院・特定准教授 山門穂高 『認知症－未病で見つけ未病で防ぐ－』	若者にお勧めしたい本	『時計遺伝子：からだの中の「時間」の正体』 岡村均 講談社	私たちの体内時計を制御する「時計遺伝子」により全身の生体リズムが形成される巧妙で美しい機構が、この分野のトップレベルの研究者により分かりやすく書かれています。また、睡眠障害や生活習慣病が生体リズムの異常と関連することも、そのメカニズムとともに詳しく示されています。筆者が長きにわたって強い情熱をもって真摯に没頭されてきた研究の歴史に深い感銘をうけました。（出展代表者：眞木）
		若者にお勧めしたい本	『フェルマーの最終定理』 サイモン・シン、青木薫（訳） 新潮社	数学界最大の超難問に挑戦した天才数学者ワイルズを中心としたノンフィクション。宇宙の真理にもつながる極めて美しい数学世界の偉業で、人類の英知の一つの到達点であるが、我々の目の前の難題も決して解決が不可能ではないと思わせ、勇気づけてくれるような内容の本です。ただし、それには現世的ないくつもの大きな犠牲が必要ですが、。（出展代表者：山門）
G7	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医生物学研究所・助教 北畠真 『合成生物学で世界を変える大学生の挑戦』	自分の研究に関連して紹介したい本	『微生物の狩人』 ポール・ド・クラيف、秋元寿恵夫（訳） 岩波書店	微生物の発見の歴史や病気との戦いを、手に汗握るリアルな文章で読ませます。とにかく面白いです。読み始めたら最後まで止まりません。
		若者にお勧めしたい本	『マリス博士の奇想天外な人生』 キャリー・マリス、福岡伸一（訳） 早川書房	世紀の大発明PCRを考案したマリス博士のエッセイ。若い頃から「普通でない」人生を歩んでいます。世界は自分が思ってるより広く、面白いことはいくらでもあるのか？

ブース 番号	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G8	研究者と立ち話（ポスター/展示） 医学部附属病院・特定助教 森拓也 『研究対象者の人権・福祉をAIで守る』	若者にお勧めしたい本	『三千円の使いかた』 原田ひ香 中央公論新社	この本を読めば、普段、気にも留めなかったことを新たに考えさせられるきっかけになります。カジュアルなのに奥ゆかしい、不思議な本です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Rethinking Informed Consent in Bioethics』 Neil C. Manson、Onora O'Neill Cambridge University Press	現代の日本でインフォームドコンセント（IC）というと、カチッとした説明と同意ですが、本書は、ICは共同意思決定のプロセスとして、信頼関係の構築に伴う、柔軟なICの考え方を学べます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『みんなの研究倫理入門：臨床研究に なぜこんな面倒な手続きが必要なのか』 田代志門 医学書院	研究倫理とは何かを実例ベースで書かれており、研究者だけでなく、一般の方にも研究倫理を理解しやすい本ですので、おすすめです。
G9	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院文学研究科・教授 定延利之 『あの一ひ、非流暢って何ですか？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『口ごもるコンピュータ』 岡田美智男 共立出版	「円滑で正確な情報伝達」というものが、もう行き着くところまで行き着いているとしたら、これからどう進めばよいのでしょうか？ この方の概念発想は他の人が真似できず、いまだに新しさを失っていません。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『発話の権利』 定延利之 ひつじ書房	非流暢に話すということは、実は誰にでもできることではなく、そこには「発話の権利」が関わります。言語学者の私が見つけた「発話の権利」という概念をテーマに、動物行動学、人類学、会話分析、語用論の第一線の研究者たちが分野間の垣根を越えて論じてくださいました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『文節の文法』 定延利之 大修館書店	「話し手は概念やメッセージを文の形で相手に伝える」という考え方は本当に正しいのでしょうか？ 「話し手はあ、文ですすね、概念やあ、まあ、メッセージをおすね、～」といった我々のリアルな発話にも、実はさまざまな規則性が隠れていて……
G10	研究者と立ち話（ポスター/展示） 大学院情報学研究科・教授 梅野健 『皆様がよく眠れるデジタルヘルス世界へ』	今ハマっている本	『私の生き方考え方：わが半生の記録』 松下幸之助 PHP研究所	よく考えてみたら、彼の本を読んだことがなく、早速手に入れて読みました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『電気と磁気の歴史：人と電磁波のかかわり』 重光司 東京電機大学出版局	生活に不可欠のものはどうやって発見されたか、どう生かされたかを興味を持つ
G11	研究者と立ち話（ポスター/展示） 複合原子力化学研究所・教授 鈴木実 『BNCT： 伴侶動物のがん治療に挑む』	若者にお勧めしたい本	『僕って何』 三田誠広 角川書店	大昔に読んだ本で、この企画で思いだした本ですので、数十年、心に残っていた本ということで推薦します。
		若者にお勧めしたい本	『TN君の伝記』 なだいなだ、司修（イラスト） 福音館書店	大昔に読んだ本で、この企画で思いだした本ですので、数十年、心に残っていた本ということで推薦します。

ブース 番号	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G12	研究者と立ち話（ポスター/展示） iPS細胞研究所・准教授 Knut Woltjen（クヌート・ウォルツェン） 『ヒトゲノムの完全制御に挑戦する！』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『もやしもん』 石川雅之 講談社	もやしもんは「微生物が見える特殊能力」を持った主人公が繰り広げる日常を描いた漫画です。本書籍を通して、見えない微生物やたんぱく質が社会で重要な役割をしていることを学び、生命科学者を志すようになりました。
		今ハマっている本	『ホワット・イフ？：野球のボールを光速で投げたらどうなるか』 ランドール・マンロー、吉田三知世（訳） 早川書房	私は科学は疑問、つまりWhy?の上に成り立っていると考えています。この本はその疑問を追求した本です。日常では「起こり得ないことが起きた時どうなるか」を科学で明らかにします。一見バカげた質問ばかりですが、それに対する回答を見るとワクワクしてきます。
		若者にお勧めしたい本	『生命はデジタルでできている：情報から見た新しい生命像』 田口善弘 講談社	次世代シーケンサーというDNAを大量に読み取る装置ができてから、生命科学研究は根本的に変わりました。特に、次世代シーケンサーだけでなく、他の測定装置も急速に発展しているので、取得できるデータが巨大なものに変わってきています。そこで重要な考え方が本書籍のタイトルにもあるデジタル的思考です。本書籍では生命において重要なDNA、RNA、たんぱく質におけるデジタル情報の世界を学ぶことができます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『ゲノム編集とはなにか：「DNAのハサミ」クリスパーで生命科学はどう変わるのか』 山本卓 講談社	本書籍は2020年にノーベル賞を受賞したCRISPR-Cas9技術を含む「ゲノム編集」について包括的に学ぶことができます。日本ではゲノム編集領域で非常に強く、昨今ではゲノム編集食品がいくつか登場してきています。私たちの研究室でも遺伝学を研究するために応用しています。
ちゃぶsa 1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院医学研究科・教授 近藤尚己 『人とのつながりで健康になる街を作ろう』	自分の研究に関連して紹介したい本	『美術館と大学と市民がつくるソーシャルデザインプロジェクト』 稲庭彩和子、伊藤達矢、とびらプロジェクト（編集） 青幻舎	当教室は「文化的処方」に関する東京藝術大学等との大規模共同研究開発事業がスタートしました。 このプロジェクトはアート、福祉・医療、テクノロジー等による「文化的処方」を開発し、地域社会に実装することで、誰もが生涯を通じて社会参加でき、幸福で健康的な生活を送り続けることのできる社会の共創を目指しています。この本はそのアイデアの種となった東京都美術館と市民との10年の歩みについて語られています。
		若者にお勧めしたい本	『命の格差は止められるか：ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業』 イチロー・カワチ 小学館	ハーバード大学で、日本人教授イチロー・カワチによる健康格差論の授業に世界が熱い視線を送っている。先進国の中で寿命が短いアメリカと、世界トップ級の日本。その理由は格差であった。所得、教育、労働、人間関係…あらゆる側面から格差を分析し、新たな長寿への可能性を探る社会疫学の魅力を多くの事例を通じて紹介している。これからの日本の未来を創る高校生にとって社会や健康を考えるきっかけとなる良書！
		自分の研究に関連して紹介したい本	『健康格差』 マイケル・マーモット、栗林寛幸（監訳）、野田浩夫（訳者代表） 日本評論社	健康は所得だけではなく教育や環境などの社会的要因(SDH)で決まる。そのエビデンスと処方箋を第一人者がユーモアたっぷりに紹介しています。
		今ハマっている本	『マイバブリックとグランドレベル：今日からはじめるまちづくり』 田中元子 晶文社	欲しい「公共」は、自分でつくっちゃおう。あたらしい「まちづくり」のバイブル誕生。 ・パーソナル屋台でまちに出る ・街角にもっとベンチを！ JAPAN BENCH PROJECT ・公園を再生するエッジリノベーション ・遊休地を私設公園に！パーカナイズ …… など、まちを元気にするアイデア満載。「建築コミュニケーション」の、新感覚まちづくり奮戦記。 この本を読むと、街に出て街の人たちに自分のマイバブリックを実践したくてワクワクします！

ブース 番号	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
ちゃぶa 2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 白眉センター（法学研究科）・助教 Pascal Lottaz（パスカール・ロッタ） 『Switzerland, Japan, and the Long Second World War (1931-1945)』	自分の研究に関連 して紹介したい本	『Sweden, Japan, and the Long Second World War (1931-1945)』 Pascal Lottaz, Ingemar Ottosson Taylor & Francis	This book introduces a related reserach topic that I already finished. For anyone interested in the relationship between neutral states and Japan during WWII, this is a good start.
		自分の研究に関連 して紹介したい本	『駐日スイス公使が見た第二次世界大 戦：カミーユ・ゴルジェの日記』 カミーユ・ゴルジェ、ビエール＝イヴ ・ドンゼ、クロード・ハウザー、鈴木 光子（訳） 大阪大学出版会	A fantastic work to understand what the Second World War was like as a foreigner in Japan.
ちゃぶa 3	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 学際融合教育研究推進センター・准 教授 宮野公樹 『「専門」とは何か。』	自分の研究に関連 して紹介したい本	『問いの立て方』 宮野公樹 筑摩書房	みな軽々しく「本質」という言葉を使いますが、 本質とはなんですか？ それについて8万字かけ て述べた本です。
		自分の研究に関連 して紹介したい本	『学問からの手紙：時代に流されない 思考』 宮野公樹 小学館	2019年京都大学内の生協書店で最も売れた本。こ れが多く読まれるような大学でありたいと思いま す。
		若者にお勧めした い本	『世界が広がる学問図鑑』 宮野公樹（監修） Gakken	自分の「気になる」を探して、それがどんな学問 分野につながっているかを知れる、ある意味、逆 引きの学問分野紹介本です。
		今ハマっている本	『カオスなSDGs：グルッと回せばう んこ色』 酒井敏 集英社	間違いなく名著です。この本が大勢に読まれるよ うな日本でありたいと思います。
ちゃぶa 4	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 学術情報メディアセンター・特定研 究員 戴憶菱 『説明できるAIが拓く新しい教育の 形』	自分の研究に関連 して紹介したい本	『学びを変えるラーニングアナリティ クス：データとAIがもたらす教育革命 』 緒方広明、江口悦弘 日経BP	本プロジェクト『EXAIT』を含め、緒方研で行われ ている研究の最新結果が分かる一冊！
		自分の研究に関連 して紹介したい本	『学びの羅針盤：ラーニングアナリ ティクス』 古川雅子、山地一禎、緒方広明、木實 新一、財部恵子 丸善出版	現在全国的に進んでいる教育・学習データの利活 用。学習者の行動データを可視化・分析して新し い知見を生み出し、それを学びの最適化に活用す る「ラーニングアナリティクス」の方法、研究動 向、目指す方向がこの一冊でわかります。
		今ハマっている本	『知的生活』 P. G. ハマトン、渡部昇一（訳）、下谷和幸 （訳） 講談社	「知的生活」、それは「生き生きともの考える 喜びにあふれた人生」のこと（裏表紙煽り文より 引用）。そんな「知的生活」を送るために、人間 はどう生きればよいのか？ 洞察は、知識の習得・活用法にとどまらず、肉体 ・精神基盤の作り方、時間・金銭の使い方といっ た人生の隅々にまで及ぶ。「友への書簡」の形式 で書かれたこの一冊は、知ることを求める我々に とって、尊敬すべき「友人」からのかけがえのな い贈り物といえるだろう。
ちゃぶb 2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院総合生存学館・准教授 趙亮 『一票の格差ってどうなの？』	自分の研究に関連 して紹介したい本	『選挙・投票・公共選択の数理』 趙亮、谷本明子、呂文若、大山達雄（ 編） 共立出版	選挙や投票、公共選択における数理問題を取り扱 う書籍です。特に我々が書いた第6章「最も好都 合な議員定数」（pp.99- 122）が適切な国会の規模について論じており、こ の問題の世界最先端な研究になっております。
		今ハマっている本	『スケール：万物を支配する「大きさ 」の法則（上）』 ジョフリー・ウェスト、山形浩生（訳 ）、森本正史（訳） 河出書房新社	「下」のほうもおすすです。ゴジラがなぜ地球 上生物ではないかの解説から様々な面白い話が述べ られています。我々の研究とつながっています 。
		若者にお勧めした い本	『サピエンス全史：文明の構造と人類 の幸福』 ユヴァル・ノア・ハラリ、柴田裕之 （訳） 河出書房新社	この本は我々サピエンスが生き延びてきて地球の 支配者になった秘訣を示しています。それがフィ クション（とその伝授）です。この指摘が趙の 情報智慧論（ご期待を！）の思考に大きな影響を 与えました。

ブース 番号	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
ちゃぶs 3	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院文学研究科・教授 宇佐美文理 『お墓の中には何が描かれたのか』	自分の研究に関連 して紹介したい本	『中国の詩学』 川合康三 研文出版	中国文学が専門の人だけでなく、すべての文学を 読み、あるいは研究する人におすすめしたいです 。
		今の仕事（研究、 進路）を選ぶきっ かけになった本	『走れメロス』 太宰治 岩波書店	いま思うとなにに感動したのかがいまひとつよく わからないのですが、とにかく文学部進学への路 を決定づけた作品です。
		今ハマっている本	『蘇東坡詩選』 蘇東坡、小川環樹（訳）、山本和義（ 訳） 岩波書店	蘇東坡の詩を読んでいます。日本語で読めるもの もいろいろありますが、手に入りやすいものを挙 げました。
		若者にお勧めした 本	『メノン』 プラトン、藤澤令夫（訳）	およそ自分の頭で何かを考えようとするすべての 人に。
ちゃぶs 4	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 医学部附属病院・助教 川上聡経 『皮膚美容×健康』	若者にお勧めした 本	『How I Built This: The Unexpected Paths to Success from the World's Most Inspiring Entrepreneurs』 Guy Raz Mariner Books	イノベーションに興味があり、同名のポッドキャ ストの番組を聴いています。パーソナリティーが 番組で放映したインタビューを元にした本で、 イノベーションについてとても分かりやすく書い てあり勉強になりました。イノベーションに興味 がある人はもちろん、興味のない人も、もしよか ったら読んでみてください。お勧めです。

編集者 大西将徳（学術研究展開センター）
藤田弥世（学術研究展開センター）
福田将矢（学術研究展開センター）
飯田圭輔（研究推進部研究推進課研究助成掛）
奥田将基（研究推進部研究推進課研究助成掛）
樋本万里野（研究推進部研究推進課研究助成掛）
デザイン 永田奈緒美（情報環境機構）
写真 大森貴生

発行日 2024 年 2 月
発行 学術研究展開センター
研究推進部研究推進課
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ

問合せ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学 学術研究展開センター
Tel : 075-753-5737
E-mail : kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※職名・組織名等は開催当時の名称です。